日向遺跡調査報告書　第一輯

日向遺跡調査報告書

第一輯

宮崎縣教育委員会

昭和二十七年三月

日向遺跡調査報告

第一輯

宮崎縣教育委員会

序文

日向の地は、古來傳説に彩られ、古くは石器時代の數多い遺跡を留め、古代國家形成時前後には西都原古墳群をはじめとして二千基に及ぶ優秀な遺構を全縣下に殘し考古學的にも貴重な地帶として注目の的となつてきた。

近時、日本歴史に對する關心が高まり、鄕土史についても新しい角度から、これら遺跡遺物に對して組織的綜合的な調査を行い、日本古代文化を究明し、日本古代文化史上における日向の位置を明確に把握しようとする氣運が起りつゝあるとき當局においても一つはその調査研究の重要性を認めると共に、一つは戰後縣民の一部の風潮として文化財に對する輕視乃至は無關心の傾向が遺跡遺物の破壞散逸という憂慮すべき暗礁に乘り上げ、その對策に苦慮し種々檢討していた折柄文化財の正しい調査研究の在り方と遺跡保存の価値を廣く縣民に理解していただく意味において向う三ヶ年に亘りこの日向遺跡調査の實現を企圖した次第である。本書の成るにあたつて、献身的な努力を拂われた文化財保護委員會文部技官齋藤忠氏九州考古學會長鏡山猛氏竝びに縣文化財調査委員日高重孝、瀬之口傳九郎、石川恒太郎、吉野忠行の諸氏に深甚の謝意を表する。

昭和二十七年三月一日

宮崎縣教育委員会

教育長　野村憲一郎

凡例

一、本書は縣教育委員會において縣文化財調査委員會が主体となつて行つた昭和二十六年度第一次古墳調査の結果の概要である。

一、本書はそれぞれの執筆の分担者の稿を纒めたものであり、隨つて文体、用語にも不統一の点もあるが、それぞれの特色を生かし、著しい修正を加えなかつた。但しできるだけ報告書としての体裁を整えることに努めた。

一、附錄の日向古墳地名表は文部省及び縣において指定した古墳台帳により各市町村の協力を得て再調査し、修正すべきは修正し新たに發見したものは附加して掲載した。

今後遺跡の調査研究並びに文化財保存行政上の參考資料として活用されれば幸甚である。

昭和二十七年三月一日

宮崎縣教育廳社会教育課

目次

第一部　宮崎市下北方古墳調査報告

第一章　調査の經過……日高重孝…(一)

第二章　地理的觀察……吉野忠行…(三)

第三章　第一号墳……石鏡山恒太郎猛・吉野忠行…(九)

第四章　第二号墳……石鏡山恒太郎猛・川恒太…(二六)

第五章　第三号墳……同…(二九)

第二部　宮崎縣古墳地名表

第一　宮崎縣古墳調査の沿革……瀬之口傳九郎…(三五)

第二　日向古墳地名表……(四一)

後文　第一次古墳調査の意義……齊藤忠…(一二三)

第一部　宮崎市下北古墳調査報告

第一章　調査の経過

昭和廿六年八月廿八日より十日間、日向遺蹟調査團に於て下北方古墳三基の發掘調査を行つた。主なる關係者及び經過は左の如くである。

一、關係者

団長	宮崎県教育委員会教育長	野村憲一郎
副団長	県文化財調査委員会議長	日高重孝
同	同　社会教育課長	日高幸男
調査委員	同　文化財調査委員	瀬口伝九郎
同	同	石川恒太郎
同	同	前田厚
同	同	吉野忠行
幹事	社会教育課主事	寺原俊文
同	管理係長	佐藤勝信
同	宮崎市教育課主事	桝宇佐夫
主査	文部技官	齊藤忠
同	九州考古学会会長	鏡山猛

八月廿八日（晴）午前九時、関係者一同、第一号墳（下北方、越迫、前方後円墳）前に集合。修祓の後、荒川宮崎市長鍬入式を行ひ、同十時作業開始。トレンチ（二米）を東西及び南北に入れる。第一トレンチと第二トレンチとの交叉点まで、地表下四五糎の所に礫石の群在を発見。午後五時終業。夜警三名を置く。本日の奉仕作業団は下北方青年十名。

八月廿九日（曇、雷雨）昨日発見の礫石群を整理中、上層部に銅銭（宋、哲宗時代紹聖元宝）一枚を発見した。午後時々降雨三時過ぎ大雷雨となる。作業を止め、現場に蓆を被うて一同引上げる。

八月卅日（晴）午前七時、現地に至り、直に礫石群整理を開始したが、何物をも発見せず、地表下一、三二米に至り地山層に達して作業を止める。第一トレンチの南側及び北側、第三トレンチの南側及び北側に、埴輪円筒の残形と破片を多数発見した。その中に象形埴輪（人物）の手首三本を得た。

八月卅一日（晴）午前中、第一号墳前方部を調査する。葺石が多く発見されたので二米のトレンチを南北に入れたが、約二〇糎にして白粘土層に達し作業を止める。午後、第三号墳（円墳）の発掘を開始する。東西四米五〇、南二米のトレンチを入れる。墳丘頂点より約三〇糎で粘土によつて固められた礫石群を発見した。

九月一日（晴）午前中、第一号墳の第三トレンチ南側に、埴輪円筒の残部、土師器を発見。午後一時より第三号墳の礫槨を調査した。撮影実測の後、慎重に粘土層を剝ぎ去つて検したが、一物もなく、僅に礫下に白い骨片らしいもの、土師器の二破片を獲た。粘土は頗る良質。

九月二日（曇、後、晴）午後中第三号墳の調査を続行。午後第二号墳（第一号墳の直後にある円墳或は陪塚か）の調査を開始。同墳中心より十文字に一米のトレンチを二本入れる。墳上に戦時中、兵隊の堀つた蛸壺があり、その中より埴輪円筒の破片が出土する。午後四時頃、第一号墳第三トレンチ南側延長の傾斜面に、象形埴輪（馬）の一部分らしいもの（或は脚部か）を発見した。

九月三日（晴）昨日象形埴輪を出土した第一号墳現場より東方一米の地点に又同形のものが三箇出土した。第二号墳上は封土が殆んどなく砂礫層中より象形埴輪の破片が無数に検出された本朝斎藤主査帰東、鏡山主査之に代る。

九月四日（晴）第一号墳北側斜面の底辺（曾て戦時中、高さ四尺の大埴輪円筒を堀り出す）を発掘したが獲る所なかつた。午後第一号墳第一トレンチ中央部から七米南側に、円筒の並列を発見した。これは八月卅日発見の第三トレンチの円筒と同駢列をなすものか。尚、本墳第一トレンチ南側延長線の中腹部に約一坪、葺石が平面に敷かれ、階段を成している部分があり。又、北側中腹部にも半坪ばかり、

平地に葺石の敷かれた部分がある。後世の作為でなければ築墓法上注目に値する。第二号墳中央部北側より、本日も例の浮紋や平行沈線を有する破片多数出づ。

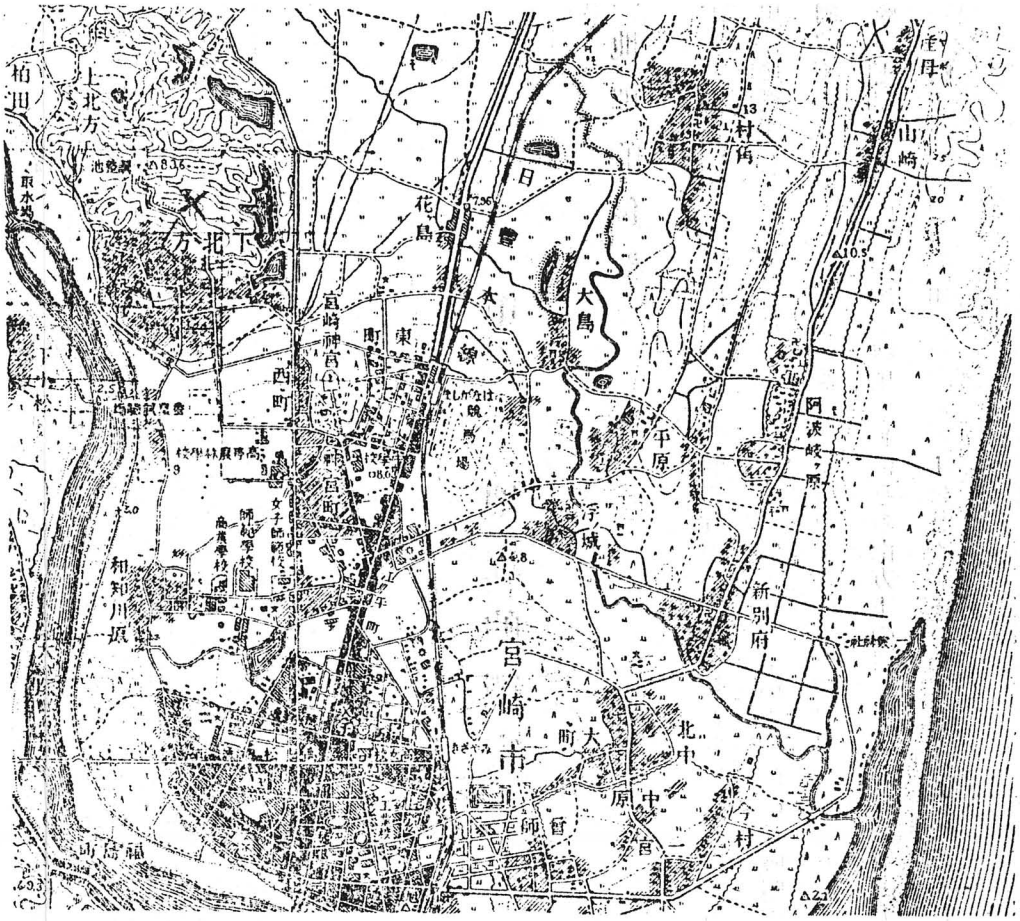
九月五日（曇、後豪雨）午前中、第二号墳から埴輪土偶の手首の如きものが一個出土した。第一号墳第三トレンチ南側にやゝ完形の埴輪円筒出土。午後二時大雨来り作業を中止。一同博物館に引上げて協議会を開き、県市の関係者に事業成績の概略を報じ、今後の方針に就て熟談した。

九月六日（晴）午前中、第二号墳北側より埴輪破片多数出土。午後、本墳中央部に朱塗の小石の一群（三〇糎方）あるを発見した。疑義深いが、後日の調査に譲り、蓆及芝を以て覆ひ、旧状に復して作業を止める。予定に依り、本日を以て今回の発掘調査を終り、副団長より一同の人々に謝辞を陳べて、午後五時、散会した。（日高重孝）

第二章　地理的観察

(一)　地理的位置

下北方古墳群は日向海岸平野の中央部を占める宮崎市西北方にあつて、南東に向つて突出する低平な舌状丘陵が、大淀川に接觸するところの尖端、平和台を中心に分布している。此の丘陵附近には前方後円墳、円墳等十數基が散布して所謂、下北方古墳群をなしているが、今回調査されたのは、平和台西方上にある越ヶ迫前方後円墳（第一號墳）及び其の陪塚と思はれる円墳（第二號墳）並にその南方下の耕地中にある花切円墳（第三號墳）の三基である。此の丘陵上に立つて瞰下すれば、大淀川のメアンダーにまたがる宮崎市街を一望のうちにおさめてワニ塚山、青島を見、東方には日

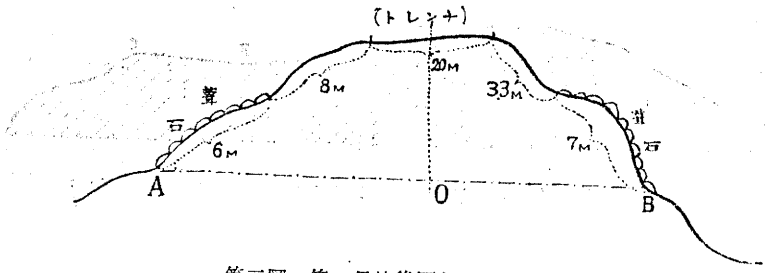


第一図　下北方古墳附近地形図（×印下北方古墳群）（地理調査所5万分の一による）

向灘、西北に九州山脈の壯年期の連峯と霧島山とを、遙かに望見することの出來る風光絶佳の景觀の地である。此の地理的位置は古墳時代に於ける聚落の位置を下北方附近に想定すれば、日向古墳文化圏の一環を形成していたことを考察するに充分で此の台地を中心とする歴史的遺跡も多い。

(二) 地形と地質

地形的には、此の舌狀性の丘陵を、越ヶ迫丘陵と其の尖端部をなす下北方台地に區分することが出來る。第一號墳と第二號墳は越ヶ迫丘陵上にあり、第三

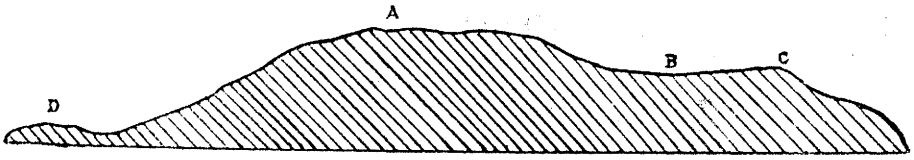


第二図　第一号墳後円部南北縦断見取図

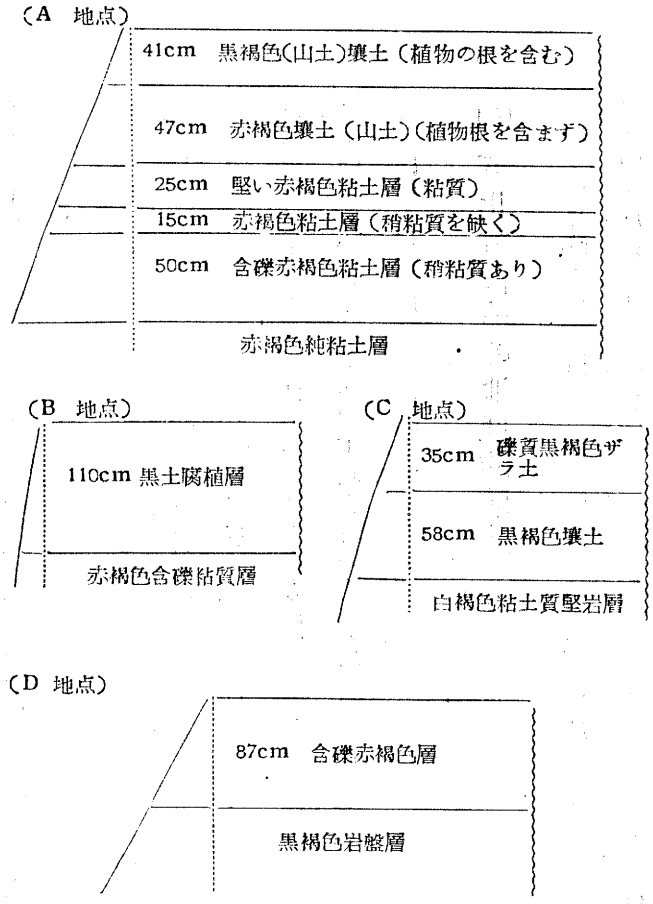
號墳は下北方台地に位置する。此等の丘陵及び台地は甚だしく削はくされた低平なる老年期の複雑な地貌を呈しており、最高八〇、六メートル、平均六十メートル余の高度をもつている。特に、越ヶ迫丘陵は高度が高いために風雨による侵蝕作用が甚だしく加えられているため母岩の露出が顯著である。地質的には、新生代第三紀層の新層を母岩とする藍色、若しは黝灰色を帶ぶる凝灰質の眞岩、及び同質の砂岩の互層より構成されている。下北方台地は黑色の腐植壤土で覆はれ農耕地化されているが、こゝは現在、下北方町の集落を發展させその中に多くの古墳を散布しこゝに皇宮屋を始め歴史的遺跡も多い。

(三) 下北方古墳の地理的構造

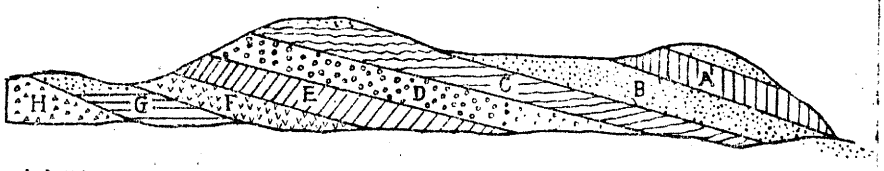
越ヶ迫丘陵上に位置する第一號墳及び第二號墳は其の築造上から考察すれば極めて制約された構造上の特色をもつている。殊に第一號墳の構造は此の特色が顯著である。東西約百米に亘る壯大なる前方後円墳は、此の優位な地理的位置と相まつて自然の丘陵地形を巧みに利用した段塚の形式をもつている。此の段は二～三段になつているが、古墳の壯節と、丘陵利用とに役立つている。上圖は第一號墳の後円部の中心を南北に切つた斷面模寫圖で地形利用の限界は葺石基底部ABを結ぶ線から上方部が古墳築造部分を占めるものであることが推考される。この地形の利用部分



第三図　第一号墳東西縦断見取図



に於てどの様にして封土が盛り上げられたかといふことを考察するために、地層の分析的調査を行つてみた。即ちA.B.C.は第一號墳、Dは第三號墳の不縮尺模寫圖による地層の調査地点を示したものであるが、その結果、各点に於ける層位は次の様であつた。此の四地点に於ける地層の分析の結果から、第一號及び第二號墳の構造を綜合的に判斷すれば、次の様に想定することが出る。

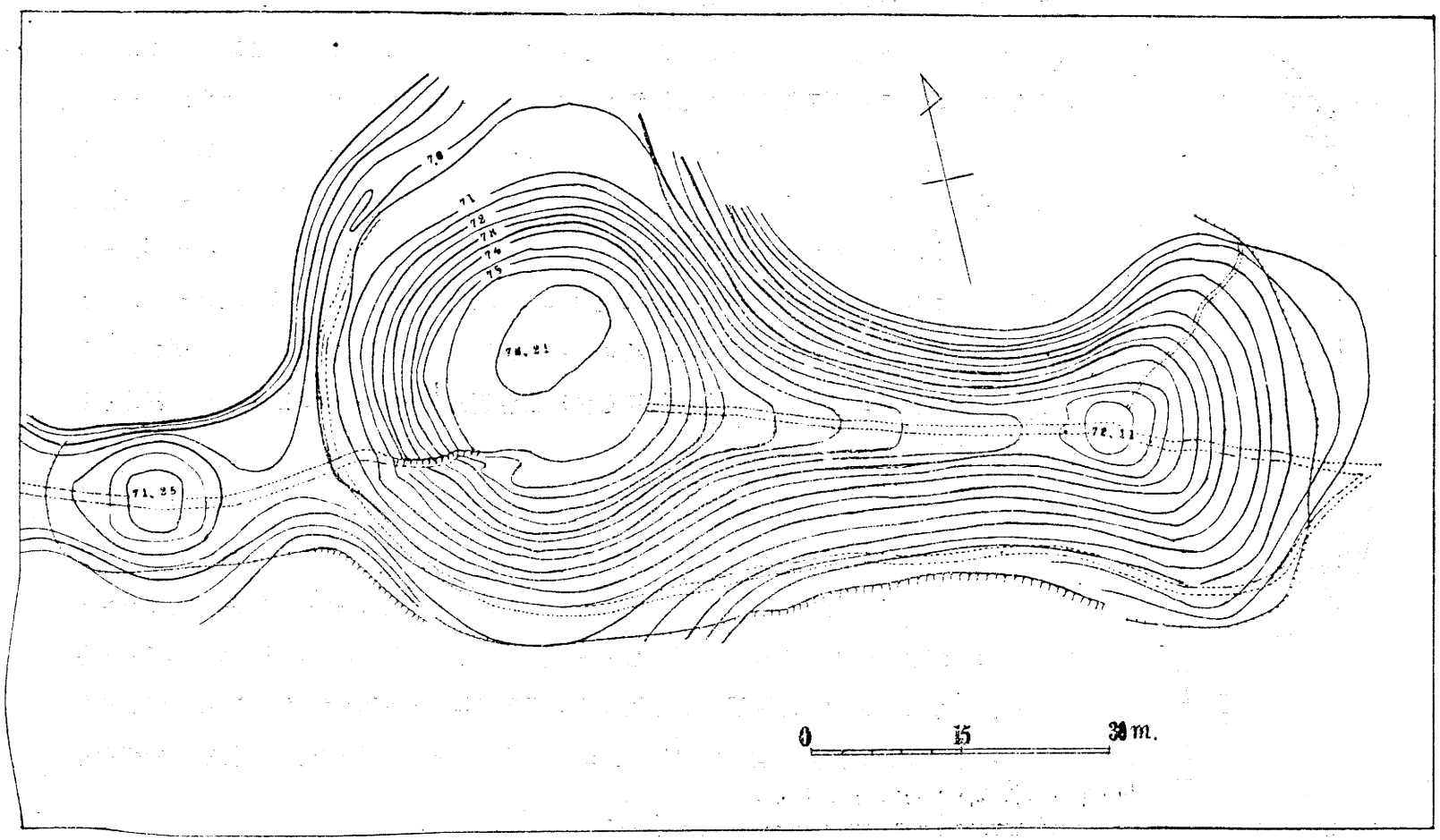


A白褐色粘土層　B黒土層　C赤褐色粘土層　D黒褐色含礫層　E黒褐岩盤層
F含礫赤褐色層　G黒褐色粘土層

第四図　第一号墳地層図

此の地層は前述した様に二十五度の傾斜をもつた第三紀層であつて、越ヶ迫丘陵下を迂廻する自動車道路の堀さく斷崖に露出している。從つて、此の第三紀層を母岩とする丘陵を加除堀さくして前方後円墳の形態に築造せられたものと考へられる。そのため地層の表面の封土（盛り土）は、各地点によつて異つているが、調査の結果から推定すれば現在の他表面からの封土は、後円部中心附近で一、三米、前方部の中心点で六五糎、兩者の中間部で二、〇米の被覆であることが考えられる。なお、第二號墳の中心上部は、ほとんど盛土は削はくせられ、其の外側圍辺のみに或る程度の封土を保存しているにすぎない。此の第一號墳が自然の丘陵地形を利用したものであることは地層的に見る結果からも考えられるし、後円部の斷面圖に見られる如く段と葺石の否對稱的配置によつても利用上からの制約が明瞭となるのであらう。

又、斯る高い場所に人爲的に全体の築造をすることは容易でないことも想像される。たゞ茲に考えられるのは、當時の形態よりも著しく變形されていることである。それは、古墳の位置が山上にあるために葺石を以て封土の流失を防いではいるものゝ、頂上附近に於て風水による侵蝕が甚だしいことゝ戰前に於て、一時、岡山公園として利用された時、人工的にも破壞されたゝめで、前方部と後円部の中心嶺線の判定も困難なる狀態となつている。このことは、特に後円部上面に於て、一層甚だしいのであつて、實測圖六〇米の等高線の偏位は注目せられるべきである。（吉野忠行）

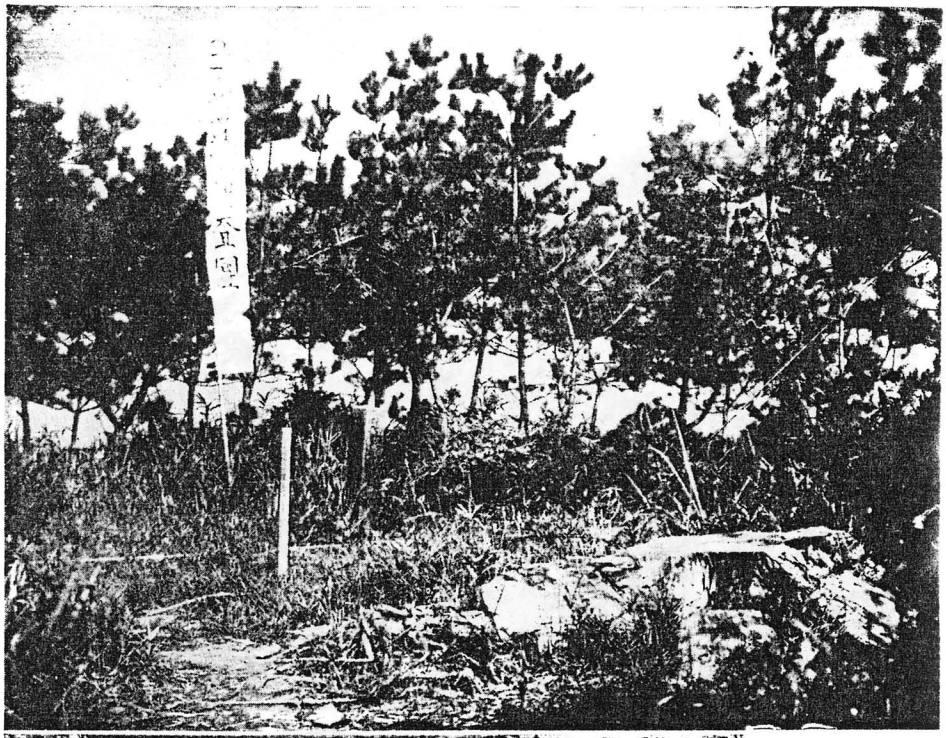

70
71
72
73
74
75
76.21
71.35
72.11
0
15
30 m.

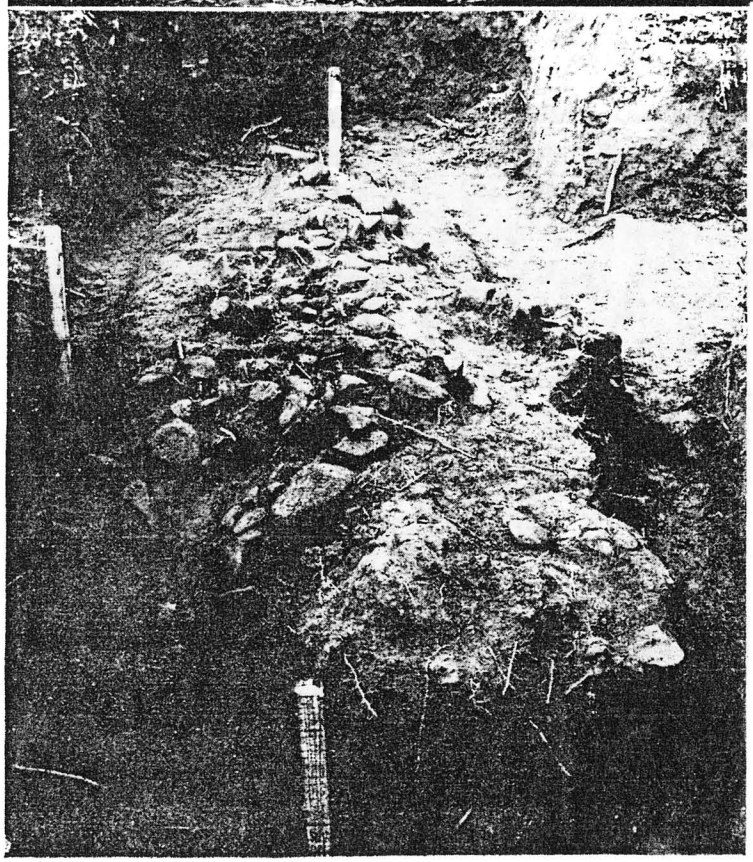
第三章　第一號墳（圖版第一～第四）

第一號墳は後円部頂上を削平されていたが、その側面は比較的良く保存され葺石や封土の狀況を知ることができた。封土については、前章に精しく記されているように丘陵を利用して營まれ前方部を東に面した前方後円墳で主軸の総長約一一〇米、後円部徑約四〇米、前方部幅約三〇米を有し、盛土は後円部中心附近で一、三米、前方部の中心点で六五糎に過ぎない。今第一號墳の後円部の狀況を見るに、葺石の處女的狀態を檢すれば、三段に築かれていることが知られる。しかし頂上部は嘗て公園施設が行われた際に著しく破壞された跡があり、この頂上部を平らに削つた土は主として南側に棄てられたらしく、南側面は北側よりも階段狀になつている狀態が少しく原形を破損されているように見られた。だが尙ほ三段に築かれていることは充分に看取することができた。

葺石は大小さまゞで直徑十糎位から四十糎以上に及ぶものもあり、概して上部のものが小さく側面下部のものが大きいようである。しかもそれらの葺石は必ずしもこゝの地層中に含まれている小形の丸い礫石を用いず比較的大形の石を用いている。而してこの古墳の葺石は南麓なる第三號墳中に在つた礫槨に含まれていた小形丸石とはその趣きを異にし、それよりは大形のものが多く、かの本墳後円部中心に見出された積石はこの葺石と同じものであろうと思われたのであつた。

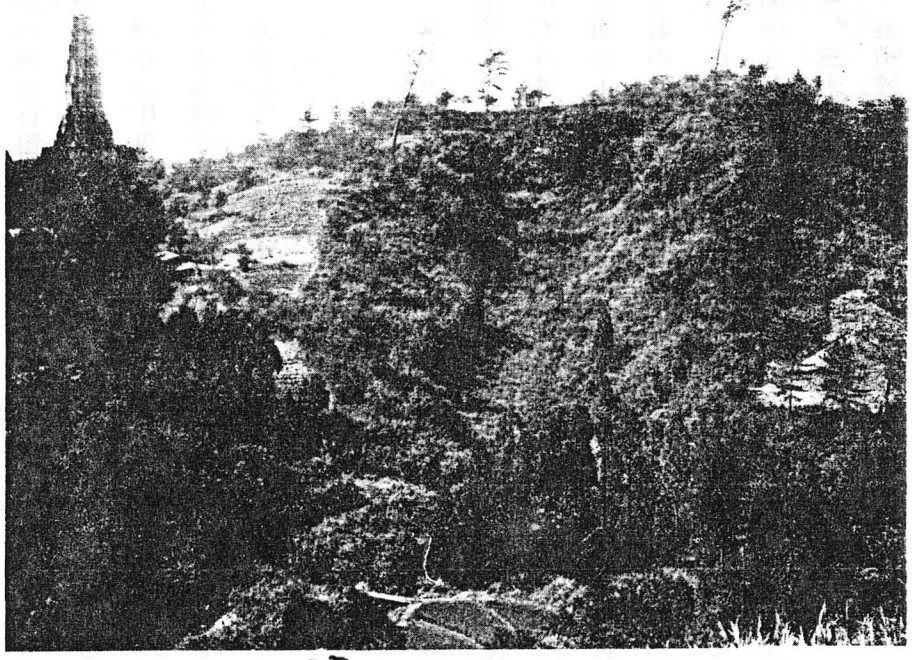
葺石は古墳の表面に葺かれているものであることは勿論であるが、それは元來古墳の封土の飛散を防ぐためのものと考えられるので、本墳の如き山丘上にある古墳に於いては特に重要な意味をもつものと思われる。從つて段の垂直面は

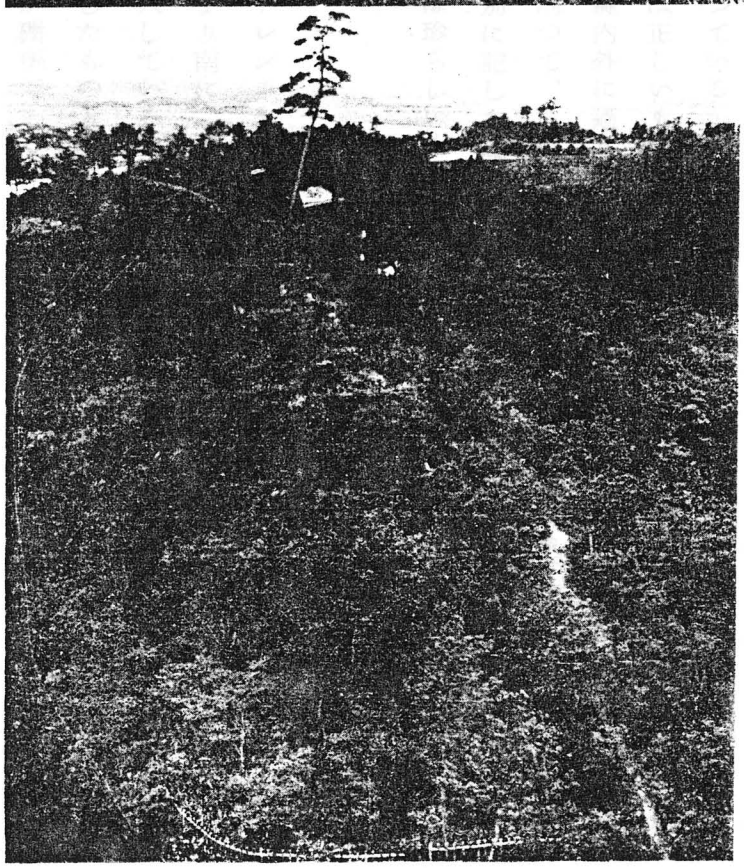




上　第一号墳後円部頂上部

下　後円部内部における礫石群の存在





上　第一号墳遠景

下　第一号墳を平和塔上より望む

傾斜して葺石のずり落ちるのを防いでいる。

後円部第一トレンチの延長側面を北部と南部について見れば、北側はトレンチの北端から第一段の斜面の基底までは三、三米で、それから第二段の基底までは七米あり、それより古墳の基底まで二、四米ある。南側は第一トレンチの南端から第一段の基底まで八米、それより第二段の基底まで六米、それより古墳の基底まで二、五米ある。この第一トレンチの南端は後円部頂上の南端より少しく北側に寄つているから、大体に於いて北側も南側も略ぼ相似た數字を示し、形体の比較的原形を止めている。北側に於ける數字は正しいものと認むべきであろう。段の水平な面は割合に狹く、第二段の上部の水平面が約一米、下段の水平面は五〇糎内外に過ぎない。この葺石の下に封土があるわけであるが、二段以下に於いては封土は甚だ薄く、寧ろ自然の山形を削つて、それに若干の土を載せた程度である。頂上第一段の盛土は削平されているが褐色土を盛つたものであることは別に記した通りである。

斯くの如き壯重なる古墳の形態は日向國に於いては珍らしいものと言わねばならない。（鏡山猛・石川恒太郎・吉野忠行）

二　内部の狀況

八月二十八日この中心部に長さ二十米、幅二米のトレンチを入れた。これを第一トレンチと呼ぶ。このトレンチは南北に中心部を横斷するように設けられた。而して北より南に二米毎にA.B.C.D.と細分した。

然るにB區及びJ區に於いて埴輪円筒の破片が嵌入しているのが認められ、その他多くの埴輪破片が散亂して發掘された。これは嘗てこの頂上部が破壞された時に散亂したものと考えられる。更に中央部（D～E區）に於いて深さ四五糎の所に石積のある箇所に遭遇したので、この石積が礫槨であるかも知れないと思われたゝめ、その石積を中心に第一

トレンチから直角に西方へ向つて長さ五米、巾二米の第二トレンチを掘り石積の全形を出した。

礫は黒色の粘土塊と混在していて極めて不規則であり（圖版　參照）その底部に存在する範圍は東西四、一米、南北一、八米であり、その深さは約一米で底部は赤褐色の粘土層に達していた。この礫石を取りて檢したが何物もなく、その中心部北寄りの地点に銅貨一枚と埴器破片二個とが發見された。

銅貨は紹聖元寶であるが、こゝに至つてこの礫石を礫槨と見るか否かに大きい問題が提起されたわけである。その他には何らの棺槨の遺構を認めることができなかつた。さてこの礫石はこれを後述する第三號墳に見る如き礫槨又は礫棺の殘存と考え得るか否かの問題であるが、第一號墳の内部の礫と第三號墳の礫槨とを比較すれば次の如き差異が認められる。

一、第一號墳の礫は第三號墳の礫に比してその存在狀況が甚だしく散亂している。

二、第三號墳の礫は紫色の堅い粘土によつてぎつしりと固められて礫床の形をなしている。この紫色の粘土はこの山丘の地層には存在しない。恐らく麓の池沼附近にあるものであろうが、屢々須恵器等を燒くに用いられる鐵分を含んだ良質の粘土であつて明かに他より運び來つたものである。然るに第一號墳の礫はかように粘土で固めたとは見られず黒色の粘土塊が共に存在したに止まる。しかもこの黒色粘土塊はこゝの自然の地層に含まれているものである。

三、第三號墳のは明かに礫床であるが、第一號墳の礫は石積の如く發掘途上表面に近い所からも出て來た。つまり礫床をなさず積石狀であつた。

四、第三號墳の礫槨は腐植土の下層にある褐色土層の中に在るが、第一號墳の礫は非常に深い赤褐色粘土層に接し、黒色粘土塊を含む地層中にある。

これらの諸点から考察して第一號墳の礫は礫槨の殘存部とは到底考えられないのである。然らばそれは何かとゆう問

題が次に來る疑問である。それについて考察の手掛りとなるものは銅錢「紹聖元寶」の發掘である。紹聖は北宋の哲宗時代の年號で紹聖元年は西暦一〇九四年で我が國の嘉保元年に當る。嘉保年間は平安朝の中期すなわち藤原時代であつて日向國に於いては宇佐神領の莊園が設立されつゝあつた時代のことである。そうするとこの銅錢がこの古墳の內部に陷ち込んだのは盜掘によるのであろうか、或は他の理由によるのであろうかとゆうことを考えねばならないが、私は恐らく盜掘の結果ではあるまいと考える。その理由は盜掘說を主張するならば、この礫は礫床の殘存と見なければならないが、前に說いた理由によつてそれは礫床の殘存とは考えられないからである。盜掘者は棺底をさらえてその遺物を盜めば足るのであつて、その底をかくも深く掘つて銅戈や石やを投げ込む必要はあるまい。

然らばこの銅戈が陷込んだのは何故であろうかとゆうことになるが、先づ古墳出土の銅戈について日向に於ける從來の例を見よう。鳥居龍藏博士は大正二年春西都原の柄鏡式古墳を發掘された際、その上部に經塚があつて飴色を帶びた陶製經筒とその下に治平元寶一枚があつたことを報告していられる。（鳥居博士著「上代の日向延岡」六五頁）治平元寶は北宋の英宗時代治平元年（西暦一〇六四）に鑄造された貨幣である。從づて柄鏡式古墳から北宋時代の銅貨が出たことは既に前例がある。そして西都原の例によればそれは古墳の上部に築かれた經塚であつた。それで更に經塚と古墳との例を見ると、同じく鳥居博士の報告「上代の日向延岡」（六三～六八頁）に延岡市三須の有粘土棺古墳を發掘されたとき粘土棺の西方四尺九寸の所に樫の炭が詰めてあり、そこを掘ると經筒と鏡が發見されたことを記していられる。この經筒は銅製の積上式で鏡は草花飛雀鏡で平安時代後期のものと謂われている。

これらの例から見て日向に於いては平安朝末期に經塚を作ることが行われたことを知ることができる。そしてその築造の場所として屢々古墳が選ばれている事實を見るのである。そうすると、この下北方の柄鏡式古墳の後圓部にあつた

積石は、これを經塚の一部遺構と見ることが妥當ではあるまいかと思う。その理由として私は左の諸点を指摘したい。

一、後円部に在つた礫石は第三號墳のものゝ如く平面に敷かれた狀態でなく、殆んど地表近くまで積まれていたこと。

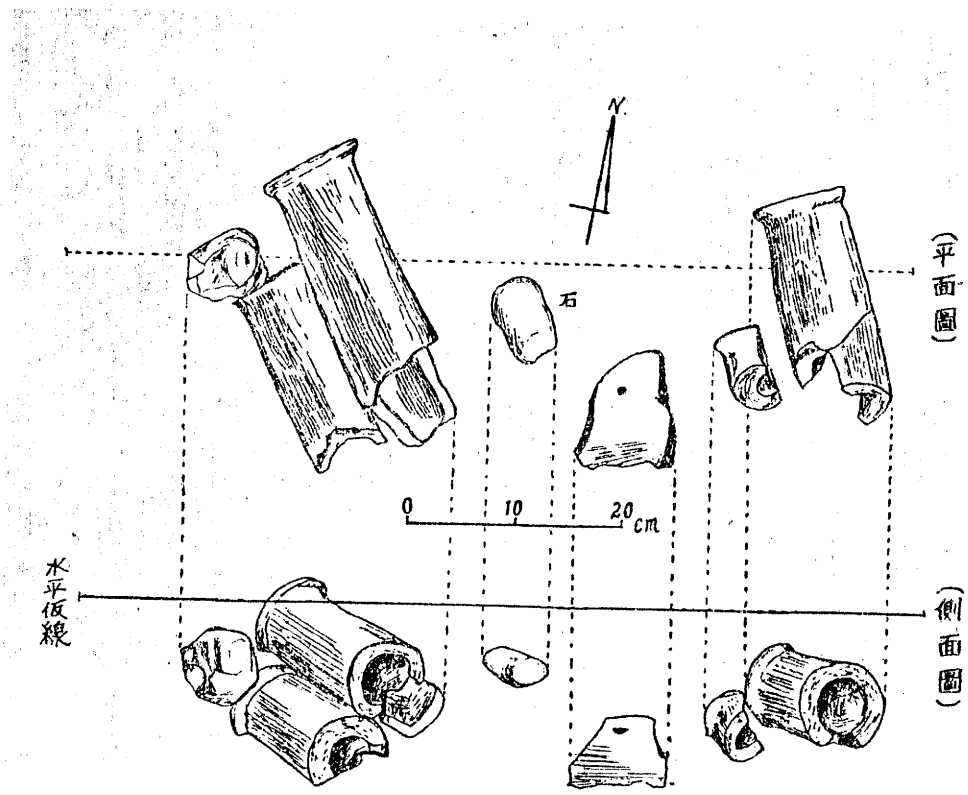
二、その積石の底部に紹聖元寶が一枚あつたこと。

三、經筒の有無が問題であるが、發掘途上に發見採收された土器破片には、明かに埴輪円筒破片ではなく、象形埴輪の一部とも思われない破片が存在することである。これは遺物の精査の結果明かになるであろう。

以上によつて後円部の遺構は經塚と見ることが妥當のように思う。それでこの古墳の後円部にあつた棺槨は既に早く自然の風雨によつて消滅しその後に平安朝末期に經塚が後円部に作られていたものと解すべきであろう。

次ぎにこの古墳の内部にあつたものは何であつたろうか、石棺か粘土棺か木棺かとゆうような点であるが、それは既に消滅していて知ることができない。然し麓の蜜柑畑に存在した第三號墳の礫槨は第一號墳及び第二號墳の内部を考える上に於いても好參考となるものであつて　若し仮りに第三號墳に在つた如き礫と粘土とを以て作つた棺槨の類が第一號墳及び第二號墳に在つたならば、長年月の風雨の浸蝕によつてそれは容易に消滅し去つたであろうことが理解される。然し若し箱式又は刳抜式の石棺が在つたとすれば必ずその一部を殘していたであろう。吾々は第一號墳を發掘してその内部に何らの遺構を認めず、地層調査の結果は中心部の盛土が殆んど失われている事實から、この古墳には自然の風雨によつて破壞され易い遺構が存在したことを知るのである。

のみならずこの第一號墳は次に述べる第二號墳と共に宮崎平野に突出した丘の頂上にあつて、最も風雨の浸蝕を受け易い位置にあるのであるこのことは今後の古墳調査に貴重な經驗となつた。つまり平地に突出している丘頂の古墳にあつては礫棺又は粘土棺は自然力によつて破壞されている場合が多いとゆうことを示す例である。（石川恒太郎）



二　埴輪

埴輪は第一號墳と第二號墳とにあつたが、第二號墳の埴輪はその存在の原狀を明かにすることができず第一號墳に於いては後円部に於いてその原狀を略ぼ明かにすることができた。

埴輪はこれを大別して埴輪円筒と象形埴輪とに分けることができる。

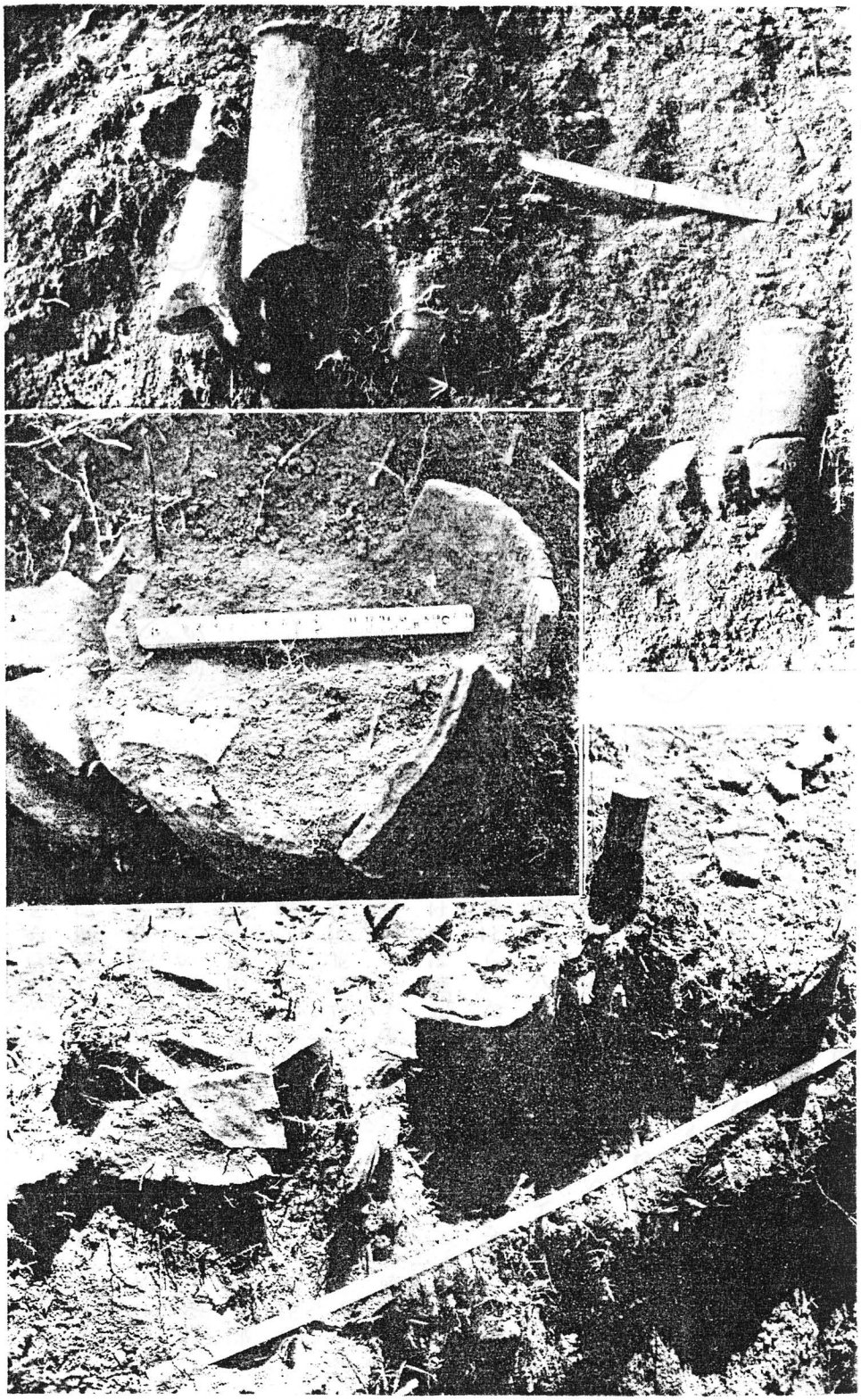
A　埴輪円筒

大部分は赤褐色の粗鬆な燒物で、粘土中にまゝ小石を交えて居り、表面に薄い平行斜線の綾樣を下部に有している。未だ完全形のものを見出さないが、中央に綱を貫通する穴を穿ち底を有し厚さ約一糎ある。

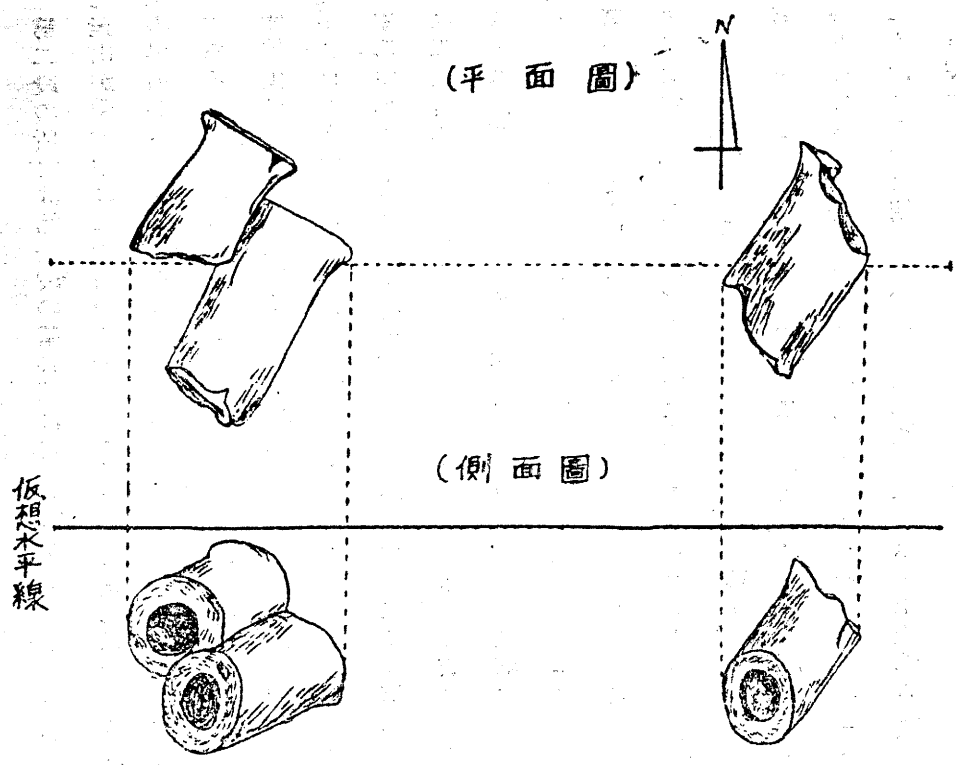
このほか極めて小數ではあるが、黝青色の須惠器と同じ燒きの堅硬な円筒の一種があることは珍らしいものである。

B　象形埴輪

象形埴輪には人物の手、動物の足と思われる円筒形



円筒埴輪の存在状態



家形か馬具と見られる模様のもの角形の小形ものなどがあり、これらは復原を終えねば判然しない。

人物の手は寫實的に作られているが、頭部や胴部が見出されていない。動物も亦同じである。

次ぎにこれらの埴輪の見出された狀態を述べれば、埴輪円筒は後円部の頂上に於いては中心部をめぐつて直徑一八米の円を描いて樹てられているように見受けられた。然しこれは未だ全部の發掘を終えなければ確認されない。第一トレンチの南端から第三トレンチの南端にかけて一列の埴輪円筒が弧線狀に並び立つているのが認められた。これらの埴輪円筒は何れも基底部であつて、現在の地表から二十糎内外の深さに埋まり、円筒の上部は破壞されていた。これはこの後円部頂上が公園施設のために盛土を削平された際に埴輪円筒の上部も共に破壞されて、土と共に附近に散亂されたものと解せられる。

第二段の所では第一段の基底部に破片が多く見出されたから、この部分に埴輪円筒が立てられたものと思われる。嘗て鏡山が戰爭中にこの古墳で發掘した略ぼ完全形の埴輪円筒（現在宮崎縣立博物館所藏）は、後円部西北麓のもつと下位の場所から見出されたのであるからこの下に今一列の埴輪円筒列がある筈で、そさは恐らく第二段の基底部に當るものであろうと想像される。これらの点は全体の發掘を終えなければ確言はできないが、現在のところこの古墳には三列の埴輪円筒を巡らしているものと推測されるわけである。而して之は埴輪円筒が盛土の流下を防ぐ「土止め」のために使用されたとゆう点から言つて當然そこにあるべき位置なのである。

象形埴輪は、人物の手が第一トレンチの南端で二個、第二トレンチと第三トレンチの分岐点で一個見出されたが、これは基底（足部）を有しないのでバラ〳〵に破壞された破片が散亂していたものと認めねばならない。動物の足と思われるものは南側第一トレンチの延長線上の第一段の基底部に三本、その東方約一米を隔てた所に更に三本が、南方に倒れた狀態で存在した。この前者を第一號と名づけ後者を第二號と呼び、その存在の狀況を記せば次の通りである。（圖版參照）

第一號の三本は、脚部の基底を北方にし約四〇度東方傾いて存在した。西方に重なつて二本、東方に一本あり、その間に二個の破片があつた。西方の二本中の上部の基底の中心から東方の一本の基底の中心までの距離は五〇糎で、三本とも同じ方向を示してをり、東方の一本は西方の上部のものより深く下部のものより淺い水平線上部位置している。

第二號の三本は、同じく脚部の基底を北方に示しいたが、方向は西方に約三〇度傾き西方の二本は重なり東方の一本は独立しており、西方の二本中の上部のものゝ基底の中心と東方の一本の基底の中心との距離は同じく五〇糎で、この三本も同一方向に倒れていた。而して三本の水平上の位置は、東方の一本は西方の二本中の上のものより深く下部のものより淺い。

以上の事實によつて、この第一號及び第二號の各三本の脚部は同一方向を示していることによつて、何れも同一個体の一部であることが知られる。即ち何れも一本の脚が喪われているが、これは四本の脚を有する動物の脚部が遺存したものと思われる。それが馬であるか、牛であるか、將た犬であるかは知ることができないが、動物の脚部であることは明かで、しかもこの象形埴輪は前脚と後脚との間隔を五〇糎とする動物の形であつたことが知られるのである、

この第一號の下方約一米を隔てたところに目通り一尺、二三寸の櫻の木がある。これは嘗てこゝに公園施設が行われたときに植えられたものであるが、この櫻を植える際に土をつたときこの埴輪の胴部や脚の上部が破壞されてしまつたのではなかろうかと考えられる。しかしこの二例も未だ脚部が地に立つていないので象形埴輪の樹てられた原位置を確定することはできなかつた。けれどもこの二例が第一段の基底部に近く位置したことは、今後の調査に大きい示唆を與えるものと思う。

次ぎにこれらの埴輪円筒及び象形埴輪の列は後円部のみに在るのか、前方部まで周らされているのかとゆう問題であるが、前方部に於いても埴輪円筒の破片が見出されたから恐らく前方部にもあるものと思われるけれども、その詳細な狀況は今後の調査に俟たなければならない。

之を要するにこの古墳は、三段の段塚をなし、葺石を以てその表面を掩い、しかも巨大な埴輪円純を三列に周らし、象形埴輪を配している。その築造の丁重にして壯大なる景觀は往時この地の一大偉觀をなしたものであろうと思われるのである。（鎌山猛・石川恒太郎・吉野忠行）

第四章　第二號墳

この古墳は第一號墳の後円部をなす丘地が西方に於いて狹まり乍ら下降している所から僅かなる間隔を置いて隆起している円墳であるが、平和台から第一號墳の前方部及び後円部を貫ぬいて西方宮崎市の淨水池に至る小徑のために中央部を東西に貫ぬかれていて、この道路開鑿の際頂上部を破壞され、更にその頃植え込んだものと思われる櫻樹の植栽に頂上を削られて居り、又道路に接してその南側頂上にタコ壺式の防空壕が戰爭中に掘られている、これらのために頂上部は著じるしく破壞されていた。

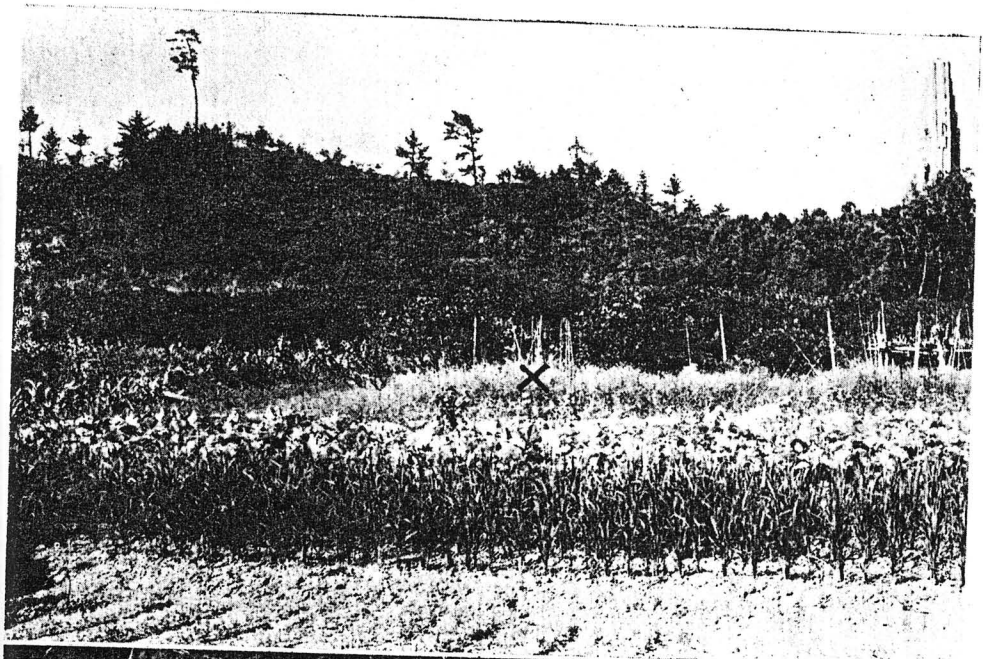
古墳の頂上は海拔七一、二五米で、その東方第一號墳との間の鞍部をなしている部分は海拔六九、五一米であるから、この古墳の高さは一米七四に過ぎず、その隆起している部分は東西一五、六〇米南北一〇、八〇米で東西に長い卵形をなしている。

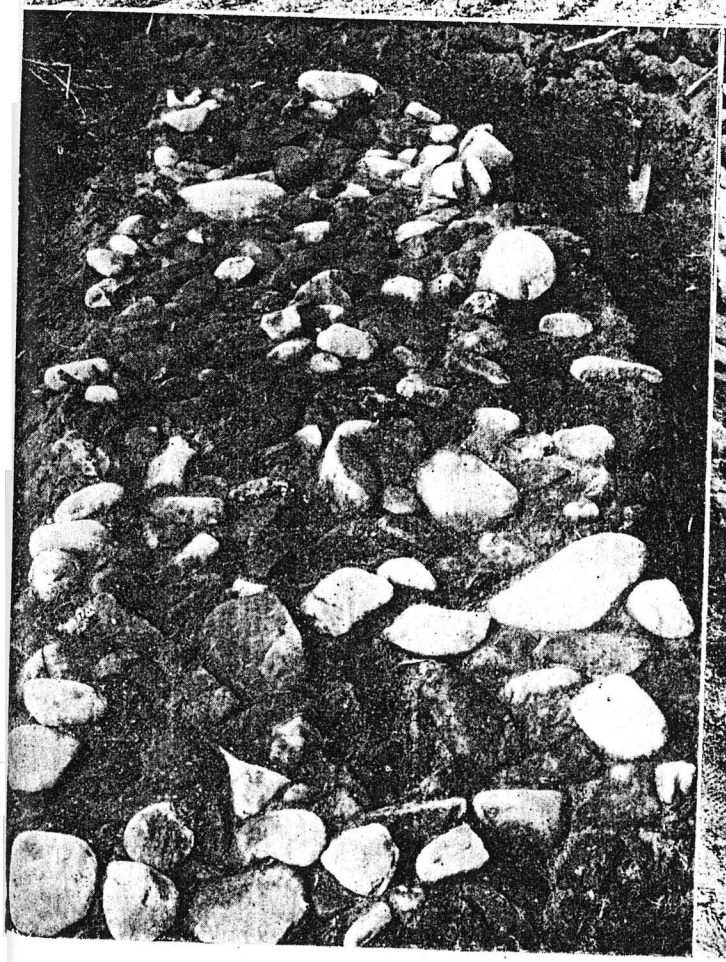
頂上部に穿たれている防空壕によつて地質の狀況を見るに、深部に黄色の岩盤があり、その上に礫層があつてその上に褐色の土層があるが、頂上部には既に礫層と岩盤が一部露出していて盛土は殆んど喪われていることが知られた。なおこの頂上部にトレンチを入れて檢したるに岩盤は地表下二〇～三〇糎のところにあり、中心部が最も高く、これを遠ざかるに從つて低くなつていることが知られた。從つてこの古墳は自然に出來た丘地の隆起を利用して營まれたものであることが知られるのである。

中心部は表土が著しく破壞され棺槨等の遺構は何物をも見出すことができなかつた。たゞ通路の北側及び中心部の西

上　第二号墳

下　第二号　内部の礫石（右西方より　左東方より）





方に於いては通路の南北兩側より多くの埴輪の破片を發掘したことは注目すべきことで、埴輪は埴輪円筒の破片と象形埴輪の破片とがあり、特に象形埴輪には面白い破片が多く、文様の描かれているものが多い。これらの破片から特徴あるものを擧げれば人物の手、人か動物かの足部、つの形のもの、家形埴輪に見る文様、鎧か馬具の文様と思われるものなどである。更に中心より東方二・六米の所に岩盤に立つている埴輪の破片があつた。その埴輪の底は地表より一五糎の深さであつた。これを中心にして埴輪配列の狀態を探ろうとしたが、時間の制約により目的を達することができなかつたのは遺憾である。なおこの岩盤に立つていた埴輪の底部には朱が見出された。（鏡山猛・石川恒太郎）

第五章　第三號墳（圖版第五）

この古墳は第一號、第二號墳の存在する丘地から數町を隔つる南方にある。現在平和台への登り道路ができてこの地方の地形が著しく變化しているが、第一號及び第二號墳のある越ケ迫丘地から南方に降つている丘地があり、それがやゝ東方に降つてきた丘の部分に作られた円墳で、既に蜜柑畑に排作されてその頂上部の土を削つて四方に均らしたゝめ形を甚だしく破壞されていた。之を望めば蜜柑畑の中に隆然とした円い形が見られ、一面に薄が生えていた。從つてこれも自然の丘を利用した円墳である。

この古墳の東部傾斜面に長さ三米、巾一米の東西に長いトレンチを入れて地層の狀態を見たが、深い所に黄色の土層があり、その上に粘土混りの土層、その上に黑土の層、その上に褐色の層がある。この褐色の土が盛土であると思われ

るが、既に頂上の土を下方に均らしたと耕作者が語つているからその厚さや範圍は原形を止めていなかつた。更に中央部から反對側の西北方斜面に長き五米、巾一米の北方に長いトレンチを入れて黄色の土層（自然層）を追つてみたが、こちらも東方と同樣に中心部に向つて傾いていた。

この古墳は最初日高正晴氏をしてボーリングを試みさしたところが、地表に接して棺らしきものがあるというので、これを檢してその位置を確定し、その範圍を中心に東西四、五米、南北二米のトレンチを入れたところが地表下一八糎～二〇糎で礫槨を發見した。

礫槨は東西に方位し、東西三米、南北一米で紫色の粘土と礫石とを以て堅固に作られている。而してその地層内の位置は褐色の土層内にあり、表面には薄い腐植土の層があつた。これは礫石の底であり、その他の部分は既に耕作の間に掘り棄てられたものと見え遺物等は一物をも見出すことはできなかつた。たゞ礫石の下に二個の土器片が見出されたが、これは彌生式土器の破片であつてこの古墳とは直接の關係はなく、この地方は彌生式土器の包含層であるから古墳築造の時混入したものと見るが妥當であろう。なおこの土器片と同類の彌生式土器は縣立博物館にも在るので參照することができる。

次ぎにこの古輪の年代について考えねばならないが、先ず第一にこの古墳は第一號墳の陪塚であるか否かの問題を考えねばならない。即ちそれはこの古墳が第一號墳と同時に作られた相關々係のあるものであるか否かの問題である。それには第一號墳の陪塚と思われる第二號墳と比較するが良い。

第二號墳と第三號墳とを比較すれば何れも小田墳であり、自然の丘地を利用して築かれているという点は一致している。然し一は山丘の頂上にあり、一はその遙か麓にあるという異いがある。又第二號墳は第一號墳と略ぼ同樣の埴輪破

片を多數に出土したが、第三號墳には埴輪破片は殆んど見出すことができなかつた。この著るしい差異は古墳の位置が前者は山丘の頂上に在つて埴輪を用いなければ築造が困難であるのに後者はその必要がないという古墳築造の技術上の要不要によるものと簡單に見過すわけには行かない。それはこれらの古墳を築造した年代の差を示すものか、さもなければ古墳に埋葬されている人の身分の差を示すものと考えねばならない。兎も角第二號墳が、第一號墳と殆んど同じような埴輪を出しているのにこの古墳は埴輪を殆んで有しない点から考えて、第一號墳と直接關係のある古墳とは考えることができない。この点については第一號墳との距離が余りに隔つていることも考えに入れねばならない。卽ちこの古墳は第一號墳の陪塚とは言い難いと思うのである。然らばこの差異は何を示すかと言えば古墳築造の年代の差を示すものと考えざるを得ない。

この地方に於いては、第一號墳や第二號墳のように山丘の頂上に在る古墳と、第三號墳やその附近に在る平地に在る古墳とがあるが、これらの二類の古墳を年代的に何れが古いかとゆうことを考えるならば、一般論としては山丘の頂上に位置するものゝ方が古いものと言わねばならない。これは日向國に於いては事実であると信ずる。一般論として言えば低地に在る古墳は既に山丘上の格好の位置を先占されたものとも言えるし、古墳築造の技術が進歩し且つ古墳が大班となるに伴い山丘を利用せずして雄大な古墳を作り得るに至つたとも考えられる。事實から言うならば、日向に於いて千枚岩の箱式石棺を有するような古墳は殆んどみな山丘の頂上に在り、發達した刳抜石棺を有する古墳は低地に多いことも參考となる。以上によつてこの古墳は前二者とは年代を異にし、しかも年代が多少降るものと考える。

（鎭山猛・石川恒太郎）

第二部　宮崎縣古墳地名表

第一　宮崎縣古墳調査の沿革

宮崎縣古墳調査の沿革について述べようと思うが、廣い意味で江戸時代から私人の調査があり、縣治時代に入つて公の調査が行われ、これが保存も行われた。今私的調査からその大要を書いて見よう。

江戸時代の末期天保の頃、兒湯郡穗北(今の妻町、上穗北村)に兒玉實滿という人が居て國學の素養があり、日向内の古墳、神社、佛閣などを調べてこれを版木に彫り、普ねくその刷物を頒布した。又穗北及びその東方の新田村には古墳が多いから、實地の調査を試みて笠狹大略記という著書も出ている。他方延岡の人で本居門下の樋口種實も、延岡南方から高千穗あたりを調べて高千穗旧蹟明細記を著した。これらが日向の古墳を調査した初めである。なお、この時代否もつと古く鎌倉、室町時代に遡り、土人の盜掘も行われ各地古墳の十中六七はその被害を受けていて又は無い位で、今日各町村について調べて見ると、相當の所では玉類の二、三点を持つている。これは日向だけではなく一般に行われていたようで、文化史上甚だ遺憾である。この間にあつて兒湯郡穗北、東諸縣郡本庄あたりでは、古墳を發掘すると何等かの祟があるといつて戒めていたから、被害程度も割に少ない所もある。明治の時代になると、當時の宮崎縣は、飫肥の人で飫肥縣の大參事であつた平部嶠南氏を擧げて日向地誌を編纂させたが、嶠南は縣内各地を普ねく巡覽して編纂を終り、中に傳說の陵墓と古墳の實査を行つている。これは別に日向古蹟誌陵墓考と題して別冊になつている。卽ち日向の古墳が公的に調査を經た最初のものである。明治十七、八年の頃、當時の學務課長であつた遠藤正氏は、日向は皇祖發祥の地であるから、傳說陵墓の如きは先ずこれを調査して保存の途を講ずべきであると上司に献言して、大いに官民の注意を惹いた。縣はこれから數次に亘り遺蹟遺物に關しその取締につき縣令訓令を出し保存上遺憾なきを期した。三山陵は

すでに明治七年七月十日に、鹿兒島縣に指定されているが、それでも明治二十年代になると、諸陵頭の兩縣巡視があり、技官藤田諸陵助の實地調査となり、遂に明治二十八年十二月四日左の通り參考地傳說地の指定があつた。

東臼杵郡北川村大字長井字俵野古墳京塚（民有地百六十五坪　周圍四十五間六分）

那珂郡鵜戸村官幣大社鵜戸神宮境內連日峯古墳（官有地四百二十五坪九合六勺　周圍九十二間七分）

右二ヶ所御陵墓傳說地

兒湯郡下穗北村大字三宅西都原可愛塚

古墳字男狹穗塚（官林合計二萬千百四十九坪八合　周圍六百八十四間）
古墳字女狹穗塚

右二ヶ所御陵墓參考地

明治三十二年二月十日縣は宮崎中學校教諭文學士中村德五郎氏を、縣史編纂委員に任命すると同時に、古墳等史蹟の調査に當らせた。氏は明治三十五年四月解任に至るまでに、宮崎縣史を編纂し又、後に日本開闢史などを殘している。ついで元延岡中學校長三浦敏氏をその後任とし、氏の解囑後史蹟囑託となつた者に、谷口章藏、若山甲藏、菊地道生、河井田政吉諸氏がある。若山氏の時、縣內各町村に命じ、古墳の所在を調査させて、初めて古墳台帳を出版したが、町村當務者に古墳の予備知識を欠いだものがあつたため、塚といえば經塚、供養塚、境塚乃至自然の丘陵まで這入つていたことが後で分つた。又、中村・谷口諸氏のごときは、勝手に古墳を發掘したが、これは保存上遺憾であつた。

明治四十五年に及び、時の縣知事有吉忠一氏は、史蹟の調査とこれが保存を期し、同年縣會に謀つてその協贊を得、宮內省に申請してその許可をうけ、大正元年十二月二十五日から、兒湯郡下穗北村西都原の古墳發掘調査に着手し、整

年一月六日に亘つて行つた。これが本邦における古墳發掘史上、學術的調査の初である。

調査に參加した者は

宮内省御用掛　増田千信
東京博物館囑託　關安之助
東京帝大助教授　文博　黒板勝美
同　副手　今西龍
同　理大助手　柴田常惠
京都帝大教授　坂口昂
同　講師　濱田耕作
文博　喜田貞吉
宮崎縣囑託　三浦敏

の諸氏で、同地古墳百十號、百十一號、十一號、二十一號及びその陪塚、二百號、二百一號、十七號、百十二號、二十九號、一十六號等で、發掘調査の結果は、二十一號塚の粘土質土棺で從來かつて見ないものであつたこと、百十二號墳は埴輪円筒で二十八尺乃至三十一尺の方形に繞らした方墳で、それが大陸の影響を受けたものか、或は其以前自然發生のものか分明でないが、貴重な收獲であつたこと、全体の遺品としては、刀、劍、鉾、鏡（多くは仿製）、甲、鎧、家屋形、楯、刀などの象形埴輪、勾玉、管玉、切子玉、小玉、琉璃玉、棗玉、轡、祝部土器の各種、土師器各種等で、之は殆んど通有のものであつたから、今一々記さない、發掘の開始されるに先だち、三宅神社宮司井上勇雄氏を齊主とし、縣知

事有吉忠一氏以下關係者一同、女狹穗前の齊場に參列して、申告祭を行い、終了後は、復舊申告祭を執行した。此の祭典は、後の發掘の際も常に之を行うことになつているから、之を茲に特記する。

このようにして西都原古墳の調査は、其の後も引續いて行われ、大正二年五月東大理大講師文博鳥居龍藏氏が來縣して、先ず東臼杵郡南方村雨下（アモリ）第十號墳外數墳を發掘調査したが、第十號墳は粘土槨墳であり、遺品として勾玉、管玉、竹製の櫛の附隨したものであつたが、他は普通の土墳であつた。次で西都原に至り、第三號墳を發掘したが、同墳は粘土を以て細長い船形の槨を作り、內に遺骸を伸展葬し、之を粘土で覆い、更に礫石を以て周圍を包んだものであることを知つた。此の種の古墳の構造上、新發見のものとして注意を惹いた。

大正十三年八月京大教授理博小川琢治、同講師今西龍、同大學文大助手梅原末治諸氏來縣して、西都原第四號墳外一墳を發掘し、大正四年七月二十八日より八月三日まで東大文科講師原田淑人、東大理大講師柴田常惠氏來縣し、西都原第六十號古墳外四墳を發掘し、大正五年一月京大教授內藤虎次郎、同助教授今西龍氏來縣し、西都原第二號古墳を發掘し、前記の鳥居氏調査の第三號と同じく、粘土礫槨墳であることが明かになつた。大正六年一月京大助教授濱田耕作、同囑託梅原末治 東大文科講師原田淑人氏が來縣、京大教授原勝郎氏も之に加わり、西都原北部上穗北村船塚外二墳を發掘し、船塚からは仿製鏡であつたが、他に例のない渦十字鏡を發見した。

以上發掘調査の詳細については、西都原古墳調査報告第一冊から第三冊までに登載されているから、茲には其の大要を述べるに止めておく。

西都原古墳の調査發掘は、一先ず以上で中止となり、遺品は宮內省東西兩大學と縣に於て分配所持し、縣に於ては妻町に史蹟研究所を設けて遺物を陳列し、普ねく公衆の縱覽に供することにした。其の後大正の末年から昭和の初頭にか

け史蹟名勝天然記念物保存施設が盛んに呼號され、縣では昭和御大典記念として博物館設置の議が擡頭し、宮崎縣會は議員杉田四郎氏等の建議により、博物館主事をおくこととなり、飫肥中學校教諭瀬之口傳九郎をその主事に採用し、同事務を取扱わしめると共に遺蹟遺物殊に古墳の所在を徹底的に調査させて他日に備えることにした。

次期の古墳調査

昭和二年に至り東臼杵郡長柴山博氏は、縣と打合せ共の筋の許可を受け、東大講師文博鳥居龍藏氏を招き、南方村、岡富町古川、恒富町愛宕山麓、東海村各地、細島町の古墳調査發掘をなすこととなつたが、共の結果は敢て著大とはいえないが、南方村吉野古墳から舟形石棺が發見され、副葬品に石英粗面岩製の砥石などが出土し、外に先史時代の遺品を得て、上代の延岡地方文化を明らかにする所があつた。

昭和十四年新田村新田原台地上に、某施設をなすに當り、同地古墳第四十五號(石舟塚)外三墳は公益上此を撤去しなければならなくなり、共の筋の許可を受け、同古墳を發掘調査することとなり、京大助教授文博梅原末治氏を招いて、昭和十四年三月十七日から五日間發掘調査を行うことになつた。石舟塚は前方後円の横穴式石室を有するものであつたが、既に盜掘に遭い遺構殆んど失われ、第四十二號墳は金銅製の圭頭太刀を出し、第四十四號墳は從來前方後円墳と考えられていたが、今回精圖調製の結果、方墳であることが分つたが、梅原氏は公務上久しく滯在する譯にゆかず歸洛することになり、後始末は縣でなすことゝなり、縣史蹟主事は引續き作業をつゞけ、同墳が横穴式石室であり、共の下底前方に排水の設備を有すること、奈良縣高市郡島の庄石舞台の方墳と規模が同じであることを知つた。尙梅原氏は大正三年調査の際同村山ノ坊古墳出土の鏡鑑を大阪府山川七左衛門氏の所藏となつている古鏡三面、画文帶神獸鏡、獸緣文獸帶鏡(二面)の出土地を調査し、歸來し、山川氏に請うて報告書に加えられた。

昭和十七年公益上已むを得ない某施設を、東諸縣郡八代村木脇村の通稱六野原になされるに當つて、八代村縣指定古墳の十二基と所在不明の地下式古墳を撤去しなければならず、宮内省の許可と文部省の承認を得て發掘調査することとなつた。發掘には京大教授文博梅原末治氏の來縣を申請したが、公務上の都合で辞退されたので、縣は已を得ず史蹟主事瀬之口傳九郎を主査とし、上代日向研究所委員石川恒太郎を副査として封土墳を發掘し、地下式古墳は工事進捗に伴い發見の都度調査することになつた。封土墳は大きい前方後円墳など盗掘の厄を受けたもので、何もなかつたが、小封土墳の方は完全なものもあり、其の大部は粘土槨のものであつた。地下式古墳の中には、地下一丈余の處まで竪穴を穿ちそれから玄室は羨道を界して横の奥に穿たれ、長さ五間、巾七尺、高さ四尺以上に及ぶのもあつた。

昭和二十四年四月東大文學部助教授文博駒井和愛氏を團長とする團員は、學生十數名と、西都原の古墳及び同地國分寺遺蹟發掘を願出たが、當時の世相は終戰後尚ほ險惡なるものがあり、之を許可すると今後無許可のまゝ盗掘をなす傾向の生ずることも計り難い狀勢にあるので、之を許可しない方針であることを通告したが、更に請求して來たので文部省から係官の派遣を請い、技官齋藤忠氏來縣立會し、妻町に於て歴史時代初期の住居阯を發掘し、延岡市の貝塚遺蹟を調査して歸京した。

次で昭和二十五年四月に至り、兒湯郡東米良村銀鏡の住居遺蹟、延岡市東海の古墳數基を發掘し、舶載の内行花文鏡の出土をみた。

こうして昭和二十六年四月に至り、宮崎縣教育委員會は、社會教育課長日高幸男氏の案により、新制文化財調査委員會に於て三ヶ年計画の下に、古墳の調査をなすことに方針を一定し、同年八月宮崎市下北方町平和台西方の古墳發掘を行うと共に縣下の古墳の基本的調査をなすことになつた次第である。（瀬之口傳九郎）

第二　日向古墳地名表

郡市	町村	文部省指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
市城都			今町一里塚	五十市中郷村梅北	杉之元二子東		國有二筆民有二筆	一八坪七六 一四坪五九		官有地 曾原幸蔵 鴨計使吉
宮崎郡	生目村	本	生目古墳群	跡江	坂ノ下	五三七	畑	一〇・〇八（〇四）〇	円	椎榮松
		〃	〃	〃	井尻	四、五六四	山林	四・一九（二八）2	〃	坂本今朝蔵
		〃	〃	〃	〃	四、五六五	〃	一・〇一（二八）3	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	四、五六六	〃	（〇八）4	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	一・〇一 5	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	四、五五九	〃	六・一八	前方後円	〃
		〃	〃	〃	〃	四、五六八	〃	一・二〇	〃	日高曾藤次 椎庄太郎
		〃	〃	〃	〃	四、五六九	〃	二・二九	〃	椎榮松
		〃	〃	〃	〃	四、五七〇ノ一	〃	三・一九	〃	原口岩男
		〃	〃	〃	〃	四、五七〇ノ二	〃	一・〇六	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	四、五七一	〃	三・一九	〃	日高兼助
		〃	〃	〃	〃	四、五七二	〃	一・一三	〃	日高芳松
		〃	〃	〃	〃	四、五七三	〃	三・二九	〃	坂本今朝蔵
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	日高清市外一名

（ノ内は古墳地積）

郡市	町村	文部省指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
宮崎郡	生目村	本	生目古墳群	跡江	井尻	四、五七四	山林	四・一二	前方後円	宮崎市倉岡橋口浅右衛門
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二・二九	〃	橋口久吉
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	六・〇〇 (四・三一)	円	橋口常夫
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一・〇八 (一・〇八) 8	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一・〇八 (一・〇八) 9	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、五八〇	〃	三・〇六 (三・〇五) 10	〃	日高義雄
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、六四六	〃	二・〇六 (二・〇) 11	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(一・二六) 12	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、六四三	〃	九・〇五 (三・〇五) 13	〃	湯地喜三次
〃	〃	〃	〃	〃	上ノ迫	四、八八六	〃	五・五 (一・〇八) 14	〃	原田八次
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八四三	〃	三・〇五 (一・二五) 15	〃	日高光次
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(一・二五) 16	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八五五	〃	〇・一三	前方後円	川崎重次
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八五六	〃	六・二八	〃	日高輝夫
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八七四	〃	六・一八	〃	川崎重次
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八七七	〃	一・一〇	〃	日高卯吉
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八七九	〃	〇・三三	〃	坂本長市
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八五八	畑	五・五	〃	宮崎市倉岡橋口甚蔵
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八五八ノ二	山林	二・二八	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八五七ノ四	〃	一・二一 (八四・〇八)	〃	川崎辰蔵
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四、八五七ノ一	〃	二・三五	〃	日高次吉

宮崎郡

生目村

本	生目古墳群	跡江	上ノ迫	四、八五七ノ二	山林	一・一〇	前方後円	日高次吉
〃	〃	〃	〃	四、八五七ノ三	〃		〃	〃
〃	〃	〃	〃	四、八八二	〃	六・三	〃	日高曾藤次
〃	〃	〃	〃	四、八八〇	〃	一・〇六	〃	日高芳松
〃	〃	〃	〃	四、八八一	〃	一・〇六	〃	日高光次
〃	〃	〃	〃	四、八八三	〃	五・五	〃	坂本直次
〃	〃	〃	〃	四、八七八	〃	二・〇六	〃	日高卯吉
〃	〃	〃	〃	四、八七三ノ三	〃	二・一五	〃	坂本長市
〃	〃	〃	〃	四、八七三	〃	二九・三（三・二）	円	坂本ウメノ
〃	〃	〃	〃	四、八五五ノ二 四、八六〇	〃	一・〇三（九・六）	前方後円	原田イト
〃	〃	〃	〃	四、八三六	〃	五・一五（〇・六）	円	坂本ウメタ
〃	〃	〃	〃	四、八三九	〃	一・二六（三・四）	前方後円	坂本ウメノ
〃	〃	〃	〃	四、八三六ノ八	〃	五・〇九		坂本弁吉
〃	〃	〃	〃	四、八四〇	〃	一・一〇（三・一八）	円	井上ユキエ
〃	〃	〃	〃	四、八二七	〃	三・一六（〇・二八）	〃	坂本ウメノ
〃	〃	〃	〃	〃	〃	（〇・二四）	〃	〃
〃	〃	〃	〃	四、八二四	〃	二・〇九（〇・一四）	〃 柄鏡式	椎庄太郎
〃	〃	〃	〃	四、八二一	〃	三・二九（〇・二三）	円	坂本初五郎
〃	〃	〃	〃	四、六六三	〃	一・三三	〃 柄鏡	日高卯吉
〃	〃	〃	〃	四、六六八	〃	二・〇九（三・一九）		原田久
〃	〃	〃	〃	四、八一三	〃	六・一五（〇・二〇）	円	日高清市
〃	〃	〃	〃	四、七九一	〃	三・一九	〃	日高義雄
〃	〃	〃	〃	四、七九三	〃	九・〇五（五・一八）		金丸ミキ
〃	〃	〃	〃	四、七九一	〃	三・一九（〇・三）	〃	日高義雄
〃	〃	〃	〃	四、七八七	〃	一・二三（〇・二九）	前方後円	坂本進

郡市	町村	文部省指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
宮崎郡	生目村	本	生目古墳群	跡江	上ノ迫	四、八〇七	山林	二・〇三 (一・二〇) 32	円	日高卯吉
		〃	〃	〃	〃	四、七九五	〃	四・一二	前方後円	押川岩次
		〃	〃	〃	〃	四、七九七	〃	一・二三 (三・二二) 33	〃	原田岩男
		〃	〃	〃	〃	四、七九八	〃	四・〇六	〃	椎榮松
		〃	〃	〃	〃	四、六八六	〃	〃	〃	日高卯吉
		〃	〃	〃	〃	四、六八七	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	四、六八八	〃	〃	〃	日高芳松
		〃	〃	〃	〃	四、六八三	〃	〃	〃	坂本勝次
		〃	〃	〃	〃	四、六八二	〃	〃	〃	椎芳太郎
		〃	〃	〃	〃	四、六九〇	〃	〃	〃	日高興平
		〃	〃	〃	〃	四、六八九ノ一	〃	〃	〃	原田末男
		〃	〃	〃	〃	四、六八九ノ二	〃	〃	〃	鈴木サノ
		〃	〃	〃	〃	四、六八九ノ三	〃	〃	〃	鈴木芳松
		〃	〃	〃	〃	四、六八二	〃	〃	円	椎庄太郎
		〃	〃	〃	〃	四、六九〇	〃	〃	〃	日高興平
		〃	〃	〃	〃	四、六九一ノ〇	〃	〃	〃	白坂藤吉
		〃	〃	〃	〃	四、六七七	〃	〃	〃	日高重四郎
		〃	〃	〃	〃	四、七〇六	〃	〃	〃	坂本正信
		〃	〃	〃	〃	四、七三四	〃	〃	〃	原田岩男
		〃	〃	〃	〃	四、七四八	〃	〃	〃	加藤支明
		〃	〃	〃	〃	四、七七七	〃	〃	〃	原田久
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二、二〇二	〃	〃	〃	白坂榮作
		〃	〃	〃	〃	一、九七三ノ一	〃	〃	〃	安藤泉昌
		〃	〃	〃	〃	二、四二四	〃	〃	〃	児玉福彌
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	高時妻秀

東諸縣郡	本庄町		本庄古墳群							
兒湯郡	新田村	本	新田古墳群	新田	山之坊	八、九三三	山林	六、二〇ノ内四、〇八	前方後円	児玉菊太郎
		〃	〃	〃	〃	八、九三五	宅地	四五四坪ノ内九〇坪	円	押川菊蔵
		〃	〃	〃	小堤	九、三九〇ノ一	山林	四、二九ノ内三、〇八	〃	長友兵市
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、〇八	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内三、二一	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	九、三九四ノ一	〃	三、三五ノ内一、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	九、三九一ノ一	畑	一、九〇〇ノ内、〇九	〃	甲斐ナミ
		〃	〃	〃	〃	九、三九一ノ二	〃	一九、一五ノ内二、一九	〃	中武金作
		〃	〃	〃	〃	九、三九二	山林	九、三一ノ内、一五	〃	内田傳次
		〃	〃	〃	谷川	九、五〇四ノ二	原野	七、〇九ノ内二、一六	〃	黒岩正
		〃	〃	〃	〃	九、四六六	田	六、〇八ノ内、〇五	〃	押川清次
		〃	〃	〃	〃	九、五〇二	原野	、一五ノ内、〇六	〃	長友主
		〃	〃	〃	銀代ケ迫	九、九一六	山林	三、一〇ノ内、一四	〃	長友今朝蔵
		〃	〃	〃	〃	九、九一四	〃	三、一〇ノ内三、一四	〃	長友ケサツル
		〃	〃	〃	原口	一三、九三五	〃	一、〇五ノ内一、〇三	〃	永田シエン
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一三、九三二	畑	六、〇一ノ内一、〇三	〃	伊東克馬 黒木学

郡市	町村	文部省指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
宇佐郡	新田村	〃	〃	栗別府	〃	一三、七九四	原野	一、二六ノ内六、二二	〃	本部芳松
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八七三	畑	六、二ノ内四、三三	〃	小川傳作
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八八一	〃	二、三ノ内一、六	〃	菊池福松
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八八三	〃	五、二六ノ内三、〇九	〃	本部芳松
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八八〇	山林	二、三ノ内四、〇八	〃	伊東行藏
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八七九	原野	七、二九ノ内一、〇〇	〃	黒木学 伊東克馬
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八七六	〃	九、〇五ノ内一、二七	〃	伊東克馬
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、一九	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八九九	〃	八、二ノ内一、〇五	〃	棚田儀一
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、〇七	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八九三	畑	一〇、一七ノ内一、〇八	〃	松尾福次
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八九一	〃	〃ノ内一、一〇	〃	本部平藏
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八九一	山林	一四、〇二ノ内一、一四	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八九二	〃	八、〇三ノ内一、一〇	〃	本部定市
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、八九八	〃	一三、一六ノ内一、一〇	〃	日高貞市
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、九一六	〃	一一、〇四ノ内一、一八	〃	黒木学 伊東克馬
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、九二三	〃	三、一六ノ内一、〇七	〃	日高貞市
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ノ内一、三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、九一九	畑	九、三ノ内一、一八	〃	本部定良
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一三、九二四	山林	三五、〇六ノ内一、一六	円	荒川岩吉

兒湯郡

新田村

本	新田原古墳群	新田	票別府	一三、八〇六	山林	五〇、二八ノ内五、一八	円	新田村
〃	〃	〃	曲久保	一四、九八〇	〃	三三、〇五ノ内、三三	〃	黒木慶一
〃	〃	〃	〃	一四、九七九	畑	二四、一九ノ内一、一九	方	〃
〃	〃	〃	〃	一四、九四九	山林	一二五、二ノ内三、〇三	円	河野喬
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一二五、一一ノ内、三六	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一四、九八九 一四、九九一 一四、九九二	原野	二六、三〇ノ内三、三三	〃	中村讓平
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、一七	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一四、九四七	畑	六三、一八ノ内三、二四	〃	松下梅太郎 中村幾助
〃	〃	〃	〃	一四、九四三ノ三	原野	一八、二四ノ内六、〇九	〃	中村讓平
〃	〃	〃	〃	一五、〇〇四	畑	三、一八ノ内三、一八	〃	矢野豊
〃	〃	〃	〃	一四、九九〇	山林	二一、二九ノ内、二四	〃	松尾勘次郎
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、〇六	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一四、九七四ノロ	畑	三〇四ノ内六、〇〇	〃	黒木慶一
〃	〃	〃	〃	一四、九七二	山林	一三、三三ノ一、〇八	〃	榎本博
〃	〃	〃	〃	一四、九七四ノイ	畑	四、〇〇ノ内一、一三	〃	木部榮藏
〃	〃	〃	〃	一四、九七五ノイ	〃	一〇、〇〇ノ内、三三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一四、九七五ノロ	〃	一〇、一五ノ内、三六	〃	黒木慶一
〃	〃	〃	〃	一四、九八二	山林	一五、一三ノ内、一八	〃	松尾勘次郎
〃	〃	〃	〃	一四、九八一	畑	一五、一三ノ内、一六	〃	〃
〃	〃	祇園原	〃	一五、〇三一	山林	八、三三	〃	河野正六
〃	〃	祇園上	〃	三、〇四四	藪	二七、一四	〃	日高平六 外五六名

郡市	町村	文部省指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
兒湯郡		本	新田原古墳群	新田	祇園上	三、四五〇ノニ	藪	二六、一四以上三筆ノ内 一三、一三	前方後円	沼口定行外三五名
		〃	〃	〃	〃	三、〇七五ノロ	塚	一、二〇ノ内二、一八	円	官有地
		〃	〃	〃	〃	三、一〇八乙	山林	一〇、二一ノ内、二一	〃	沼口角今朝
		〃	〃	〃	〃	三三、一一二 三、一一三	塚	三、二九ノ内五、二四	前方後円	〃
		〃	〃	〃	〃	三、一〇八ノ乙	山林	一、二一ノ内一、一八	円	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、二一	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、〇一	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	三、一一〇	畑	一八、二九ノ内、一九	〃	木下定榮
		〃	〃	〃	〃	三、〇九三	塚	一、一ノ内一、一六	〃	官有地
	新田村	〃	〃	〃	〃	三、〇八四ノロ	山林	六二、〇九ノ内二、一八	〃	日高直喜
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、二六	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内四、二三	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内六、二一	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一二、〇三	前方後円	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、二七	円	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、二〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	三、〇八五	〃	一〇四、二二ノ内、二七	〃	長友岩吉
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内二、〇六	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、一一	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、〇三	〃	〃

市

郡										湯							兒						
										新田村													
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	本
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	新田原古墳群
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	新田
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	祇園原	〃	〃	〃	〃	〃	祇園上
一五、〇四三	一五、〇四二	〃	〃	〃	〃	一五、〇三三	〃	一五、〇七七	一五、〇三三	一五、〇八一ノ二	〃	〃	〃	一五、〇八〇	〃	一五、〇八四	〃	〃	〃	〃	〃	三、〇八五	山林
原野	畑	〃	〃	〃	〃	墓地	〃	藪	墓地	藪	〃	〃	〃	山林	〃	畑	〃	〃	〃	〃	〃	一〇四、三ノ内、二六	円
一、〇五ノ内、一二	六、一七ノ内一、〇〇	〃ノ内、一三	〃ノ内、一二	〃ノ内、一四	〃ノ内一、〇八	一五、二五ノ内一、〇八	〃ノ内一、〇八	一、〇五ノ内一、〇八	一五、二五ノ内一、〇〇	四、〇三ノ内一、一四	〃ノ内一、〇八	〃ノ内、〇九	〃ノ内一、〇八	五、二六ノ内一、一三	〃ノ内、一九	二、〇四ノ内一、一四	〃ノ内一、一〇	〃ノ内一、〇四	〃ノ内一、一〇	〃ノ内三、二二	〃	〃	〃
〃	榎本博	〃	〃	〃	〃	新田村花園方限	〃	長友岩市	新田村花岡方限	〃	〃	〃	〃	河野正	〃	鈴木忠行	〃	〃	〃	〃	〃	長友岩吉	

郡市	町村	文部省指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
兒		本	新田原古墳群	新田	祇園原	一五、〇四一	原野	二、一〇ノ内一、一四	円	槇本博
		〃	〃	〃	〃	一五、〇一四ノ三	山林	二、三三ノ内二、三	〃	沼口義
		〃	〃	〃	〃	一五、〇九四ノ二	〃	一、〇〇ノ内三、一七	〃	沼口秀一
		〃	〃	〃	〃	一五、〇九六	畑	二〇、〇四ノ内一、〇九	〃	伊東馬克 黒木学
		〃	〃	〃	〃	一五、一〇三ノ三	山林	一七、一八ノ内一九、二三	前方後円	海老原寅次 外一名
		〃	〃	〃	〃	一五、一〇六	〃	四六、二八ノ内三、一四	円	木下定榮
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 ノ内一、〇六	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一五、〇八七	〃	二、〇五ノ内、一八	〃	山下道子 松尾斎
		〃	〃	〃	〃	一五、一〇六	〃	四六、二八ノ内一、一〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一五、一〇八ノ二ノロ	畑	一三、二九ノ内一、〇八	〃	木下定榮
湯	新田村	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 ノ内、一三	〃	〃
		〃	〃	〃	谷畔	一五、八六四ノロ	山林	四七、〇三ノ内一、一三	〃	永井定良
		〃	〃	〃	〃	一五、八七三	〃	一、一三ノ内、一八	〃	沼口実義
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 ノ内、二〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一五、八七六ノロ	〃	二、〇五ノ内、一〇	〃	永井定良
		〃	〃	〃	〃	一五、八七六ノイ	〃	〃 内、一〇	〃	昭和産業株式会社
		〃	〃	〃	〃	一五、八七八ノロ	〃	六〇、三三ノ内一、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 ノ内、一六	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 ノ内一、一三	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一五、八五三	〃	九、一九ノ内一、〇八	〃	永井定良

児湯郡

新田村

本	新田原古墳群	新田	谷畔	一五、八七八ノロ	畑	六〇、三三ノ内、〇八	円	昭和産業株式会社
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、一四	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一五、八九〇	〃	一一、三三ノ内、一三	〃	中村宗次
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、一六	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、一三	〃	〃
〃	〃	〃	東俣	一四、七七七ノイ	〃	三九、〇七ノ内一、〇〇	〃	木下定榮
〃	〃	〃	〃	一四、七八〇	山林	一〇、三七ノ内一六、一七	前方後円	井上政助
〃	〃	〃	〃	一四、七八四	〃	一一、一三ノ内一、一三	円	木下定榮
〃	〃	〃	〃	一四、七八七	〃	九、三二ノ内八、〇五	前方後円	海老原寅次
〃	〃	〃	〃	一四、七九二	宅地	三〇、一五ノ内、一三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一四、七九三	山林	四、〇三ノ内七、〇七	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一四、七九四	〃	三七、三七ノ内一、二〇	円	児玉與藤次
〃	〃	〃	〃	一四、六九二	〃	二〇、一九ノ内、二八	〃	木部年子
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、一四	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一四、七五七	〃	二一、一〇ノ内二、〇六	〃	昭和産業株式会社
〃	〃	〃	〃	一四、七七一	〃	九、一三	以上五筆ノ内	図師市太郎
〃	〃	〃	〃	一四、七七〇	〃	六、〇二	前方後円	河野正
〃	〃	〃	〃	一四、六七九	畑	五、二六	〃	木下定榮
〃	〃	〃	〃	一四、六九八	山林	二、二四	〃	図師治平
〃	〃	〃	〃	一四、七六八	〃	五、一三	〃	図師市太郎
〃	〃	〃	〃	一四、七〇六	原野	一七、二六 二七、〇六ノ内一、〇三	円	林捨松
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二七、〇六ノ内二八、一二	前方後円	〃

郡市	町村	文部省指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
兒湯郡	新田村	本	新田原古墳群	新田	東俣	一四、六八三	山林	六、〇〇ノ内一一、〇四	前方後円	松尾定次
		〃	〃	〃	古開	一四、六一二	〃	一一、三三ノ内八、〇六	〃	昭和産業株式会社
		〃	〃	〃	〃	一四、六一一ノ一	畑	四八、〇九ノ内、二四	円	〃
		〃	〃	〃	〃	一四、六一五ノイ	山林	八、〇〇ノ内、二一	〃	木下定榮
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、二四	〃	〃
		〃	〃	〃	井手内	一五、九二五	原野	二、一〇ノ内二、〇一	〃19	中村譲作
		〃	〃	〃	〃	一五、九〇五	山林	一一、三三ノ内一一、一〇	前方後円	松尾勘次郎
		〃	〃	〃	古開	一四、六〇五	〃	四九、〇九ノ内六五、一一	円	木下定榮
		〃	〃	〃	〃	一四、六〇四	〃	一三、〇一ノ内、二一	円	松尾定次
		〃	〃	〃	〃	一四、六〇六	〃	一三、二〇ノ内、二三	〃	昭和産業株式会社
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	新開	一四、五四六	山林	二〇、二一ノ内、二八	〃	清水辰蔵
		〃	〃	〃	〃	一四、五五二	〃	一一、三三ノ内、二〇	〃	松尾勘次郎
		〃	〃	〃	瀬戸口	一四、二一一ノロ	畑	二三、〇六ノ内一、一四	〃	本部他蔵
		〃	〃	〃	〃	一四、二〇二	山林	二三、一四ノ内一、二〇	〃	松尾福次
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内一、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一四、二三九ノイ	〃	三五、〇二ノ内四、一三	〃	菊池武義
		〃	〃	〃	〃	一四、二六五	〃	六、一二ノ内七、〇〇	〃	本部定一
		〃	〃	〃	七又木	一二、九五六	畑	一八八、〇九ノ内一、〇六	〃	長今朝吉外一〇名
		〃	〃	〃	〃	一二、九四七	山林	二二、一九ノ内三、〇六	〃	金丸為親外三七名

兒湯郡

新田村

本	新田原古墳群	新田	七又木	三、九五六	畑	一八、〇九ノ内二、一五	円	長今朝吉外一〇名
〃	〃	〃	〃	三、九五三ノイ	山林	九、二七ノ内二、一五	〃	押川カメ
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内四、一三	前方後円	〃
〃	〃	〃	〃	三、九五六ノイ	畑	一八、〇九ノ内五、一三	〃	長今朝吉外一〇名
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内三、〇八	円	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃ノ内、一三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	三、九二〇ノ一	〃	三、〇〇ノ内、一三	〃	薬丸アサ
〃	〃	〃	〃	三、九五六ノイ	〃	一八、〇九ノ内六、〇四	前方後円	長今朝吉外一〇名
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 七、一八	円	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃 六、一三	前方後円	〃
〃	〃	〃	牧神	五、八五五	〃	三、一六ノ内一三、一一	〃	水間松蔵
〃	〃	〃	元牧神前	五、三〇五	山林	五、一九ノ内五、〇八	〃	内田傳次
〃	〃	〃	石船	五、二五四	〃	二六、〇七ノ内二、〇五	〃	新田村
〃	〃	〃	元牧神前	五、二八五	〃	一、〇五ノ内、一四	円	富田亀蔵
〃	〃	〃	竹ノ山	八八五ノ三	〃	一、〇〇ノ内二、一一	〃	近藤丑太郎外一〇名
〃	〃	〃	〃	八七五ノ一	畑	〃 〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	八七六ノ三 八六六ノ一	山林 畑	二、〇〇 、二六ノ内 三三、二〇	前方後円	〃
〃	〃	〃	塚原	五七〇ノ二	山林	四、〇〇ノ内、二八	円	松下秀雲
〃	〃	〃	〃	五七三	〃	九、一七ノ内二、一九	前方後円	近藤丑太郎外一四名
〃	〃	〃	開元	九、二二七	畑	二、〇四ノ内三、一三	円	長友春光
〃	〃	〃	小堤	九、三九三		、二〇		

郡市	町村	地名	地番	地目	地積	指定スベキ地積	境号	種類	所有者住所	所有者氏名
兒湯郡	妻町	妻町大字三宅字原口	三九四三ノ一	山	七三、四二〇	八二八	一	前方後円	妻町大字三宅四三六二	清野藤次郎外二九二名
	〃	〃	〃	〃	〃	三二三	二	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一一四	三	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	二〇	四	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一五	五	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一五	六	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一五	七	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	三〇五	八	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一〇	九	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一〇	一〇	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一一	一一	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一〇八	一二	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一〇	一三	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一、六一四	一四	円	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	二六	一五	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	二六	一六	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	三〇一	一七	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一〇	一八	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	一一五	一九	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	二〇	二〇	〃	〃	〃

兒湯郡

妻町

妻町大字三宅字原口	三九四三ノ一	山	七四、三〇	一〇三	二一	円	妻町大字三宅四三六三	清野藤次郎 外二九二名
〃	〃	〃	〃	一〇三	二二	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇七	二三	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇六	二四	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇	二五	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	八	二六	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一一〇	二七	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇	二八	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇三	二九	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇七	三〇	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇七	三一	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇三	三二	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇三	三三	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇七	三四	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一、三三一	三五	柄鏡式	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇七	三六	円	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇九	三七	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇六	三八	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇六	三九	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇七	四〇	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	二五	四一	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	三一	四二	〃	〃	〃

市郡	町町	地名	地番	地目	地積	指定スベキ地積	墳号	種類	所有者住所	所有者氏名
兒湯郡	妻町	妻町大字三宅字原口	三九四三ノ一	山	七二四、一〇	一〇五	四三	円	妻町大字三宅四三六二	清野藤次郎外二九三名
		〃	〃	〃	〃	九一九	四四	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	四二一	四五	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	五、四一六	四六	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一七	四七	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二八	四八	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二〇四	四九	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一二〇	五〇	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二〇四	五一	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一〇三	五二	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一〇五	五三	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	四二〇	五四	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	四二〇	五五	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	四二〇	五六	〃	〃	〃
		妻町大字三宅字酒元ノ上	五、〇八二ノ一	山林	三、六七	四二一	五七	前方後円	妻町大字三宅四三六二	〃
		〃	〃	〃	〃	二〇六	五八	円	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一二五	五九	〃	〃	〃
		〃	五、〇八二ノ三	〃	〃	二〇五	六〇	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一三	六一	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一五	六二	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一四	六三	〃	〃	〃

児湯郡

妻町

妻町大字三宅字酒元ノ上	五、〇八二ノ四	山林	二、〇〇〇	二〇	六三	円	妻町大字三宅四三六三	清野藤次郎 外二九二名
〃	〃	〃	〃	二〇	六四	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	二〇	六五	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一五	六六	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一三	六七	〃	〃	〃
〃	五、〇八二ノ一	〃	三、六一七	一三	六八	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	九	六九	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	九	七〇	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一二	七一	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	四、四二三	七二	前方後円	〃	〃
〃	〃	〃	〃	二九	七三	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	三六	七四	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	三六	七五	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一二〇	七六	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一八	七七	〃	〃	〃
〃	〃	〃	二〇、〇〇〇	二〇六	七八	〃	〃	〃
〃	五、〇七七ノ三	山	五二、六二五	八	七九	〃	〃	〃
〃	五、〇七七ノ一	〃	〃	四二三	八〇	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	六〇八	八一	前方後円	〃	〃
〃	〃	〃	〃	三九	八二	円	〃	〃
〃	〃	〃	〃	二、一三〇	八三	前方後円	〃	〃
〃	〃	〃	〃	三六	八四	円	〃	〃

市郡	町村	地名	地番	地目	地積	指定スベキ地積	墳号	種類	所有者住所	所有者氏名
兒湯郡	妻町	妻町大字三宅字酒元ノ上山	五、〇七七ノ一	山	五三、六三五	三六	八五	円	妻町大字三宅四三六三	清野藤次郎外三九名
		〃	〃	〃	〃	二	八六	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二六	八七	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	七四	八八	前方後円	〃	〃
		妻町大字三宅野字東立	四七、〇〇ノ一	山林	六〇一四	二、八〇七	九〇	柄鏡式	妻町大字三宅八九二四	緒方七名林
		〃	〃	〃	〃	一〇三	八九	円	〃	〃
		〃	四、四〇〇ノ一四	〃	三、一二	八一五	九一	〃	〃	横山長吉
		〃	四、四〇〇ノ一三	〃	三、三七	六八八	九二	〃	〃	横山長吉
		〃	四、四〇〇ノ一二	〃	三、三七	二五五	九三	円	〃	浜砂近元
		〃	四、四〇〇ノ一二	〃	三、三七	一二	九四	〃	〃	〃
		〃	四、四〇〇ノ一四	山	六、四〇五	一、四〇二	九五	柄鏡式	妻町大字三宅四六八二	押川和賀吉外四名
		〃	四、四〇〇ノ一三	山林	三、三七	一一	九六	円	妻町大字三宅八九二四	浜砂近元
		〃	四、四〇〇ノ四	山	六、四〇五	八	九七	〃	妻町大字三宅四六八二	押川和賀吉外四名
		〃	四、四〇〇ノ五	山林	五、八二〇	一、九二五	九八	柄鏡式	妻町大字三宅八九二四	緒方勝蔵外七名
		〃	四、四〇〇ノ九	〃	六、〇一〇	一、〇一九	九九	〃	上穂北村大字調殿二ノ二	原田森蔵
		〃	〃	〃	〃	二三	一〇〇	円	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二一	一〇一	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二一	一〇二	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二一	一〇三	〃	〃	〃
		〃	四、四〇〇ノ九	〃	五、八二〇	一〇八	一〇四	〃	妻町大字三宅八九二四	緒方勝蔵外七名

妻町

妻町大字三宅字東立野	四、七〇〇ノ四	山	六、七〇五	一〇八	一〇五	円	妻町大字三宅四六八三	押川和賀吉外四名
〃	四、七六六ノ一	山林	六〇五	一〇八	一〇六	〃	妻町大字三宅四六四八	農林省
〃	四、七〇〇ノ六	〃	五、一一三	一〇七	一〇七	〃	上穂北村大字調殿四二一ノ二	沼口重信
〃	四、七〇〇ノ七	〃	二、〇一一	二、〇一三	一〇八	柄鏡式	妻町大字三宅八九二四	関屋亀千代
〃	四、七〇〇ノ一一	〃	一、一一九	一〇七	一〇九	円	〃	横山徳千代
〃	四、七九七ノ一 / 四、七九六	畑 / 藪	二三三 / 三六	八〇〇 / 一八	一一〇	〃	上穂北村大字童子丸九九五 / 妻町大字三宅八九二四	壱岐熊吉 / 緒方勝蔵
〃	四、八〇五ノ三	藪	一〇六	一一一	一一一	〃	妻町大字三宅八九二四	緒方林外七名
〃	四、八〇五ノ一	決換畑	八一四	一一二	一一二	〃	妻町大字妻三五一ノ一	吉鶴高吉
〃	〃	〃	〃	一八	一一三	〃	〃	〃
〃	四、八〇三	野地	二〇六	三三三	一一四	〃	姓町大字三宅八九二四	緒方林外七名
〃	四、八〇一ノ三	塚	〃	五〇〇	一一五	〃		官有地
〃	四、八〇〇ノ一	山	一、三一〇	二〇四	一一六	〃	妻町大字三宅四六三一ノロ	横山久八郎
〃	四、八〇〇ノ三	塚	三〇九	一二〇	一一七	〃		官有地
〃	四、七九九	山	三、三〇三	一〇八	一一八	〃	妻町大字三宅八九二四	農林省
〃	〃	〃	〃	一一八	一一九	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一一一	一二〇	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一一一	一二一	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇	一二二	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	二〇四	一二三	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一一一	一二四	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇八	一二五	〃	〃	〃
妻町大字三宅字西都原東	五、五〇八	塚	三	一八	一二六	〃		官有地

郡市	町村	地名	地番	地目	地積	指定スベキ地積	墳号	種類	所有者住所	所有者氏名
兒湯郡	妻町	妻町大字三字字西都原東	五、五〇七 六七四	切替畑 畑	四二九 五二三	一五	一二七	円	上穂北村大字南方三一 九六 同村大字童子丸五九四	小森末松 橋口重太郎
		上穂北村字童子丸字新立	五、五一一	〃	一、三一〇	一八	一二八	〃	上穂北村大字南方三、二四三ノ四	河野與次郎
		妻町大字三宅字西都原東	五、五〇二	山林	一、七一九	一〇	一二九	〃	妻町大字三宅八九一四	福島鶴之助 外七名
		〃	〃	〃	〃	九	一三〇	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	九	一三一	〃	〃	〃
		〃	五、五一九	〃	二〇	一五	一三二	〃	〃	〃
		〃	五、五二〇	〃	二三七	二六	一三三	〃	上穂北村大字南方三三 一九ノ三	鈴木正雄
		〃	五、五一六	畑	二六	一〇〇	一三四	〃	上穂北村大字南方二七 四ノ三	金丸常千代
		〃	五、五〇二	山林	一、一一九	二〇	一三五	〃	姓町大字三宅八九一四	福島鶴之助
		〃	〃	〃	〃	二一	一三六	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一五	一三七	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二一	一三八	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一一一	一三九	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〇二一	一四〇	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一〇	一四一	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二一二	一四二	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二〇〇	一四三	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二二〇	一四四	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二八	一四五	〃	〃	〃

兒湯郡

妻町

妻町大字三宅字西都原東	五、五〇二	山林	一、一二九	四三	一四六	円	妻町大字三宅八九一四	福島鶴之助
〃	五、四九一ノ三	山	八〇〇	一〇六	一四七	〃	〃	田中與市
〃	〃	〃	〃	一三	一四八	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	二八	一四九	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇	一五〇	〃	〃	〃
〃	五、五〇三	山林	一、七一九	七	一五一	〃	〃	福島鶴之助
〃	五、四九一ノ三	山	八〇〇	一〇四	一五二	〃	〃	田中與一
〃	〃	〃	〃	一〇	一五三	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇三	一五四	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇八	一五五	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇	一五六	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇	一五七	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一〇四	一五八	〃	〃	〃
〃	五、四九一ノ一	〃	四〇六	一〇四	一五九	〃	〃	緒方俊夫
〃	〃	〃	〃	二八	一六〇	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	二三	一六一	〃	〃	〃
〃	五、四九一ノ三	〃	八〇〇	一〇四	一六二	〃	〃	田中與市
〃	五、四九三	〃	一	一二七	一六三	〃	〃	峯峯忠
〃	五、四九一ノ三	〃	八〇〇	一〇三	一六四	〃	〃	田中與一
〃	五、四八七	塚	一〇	一〇六	一六五	〃	｜	官有地
〃	五、四八三	〃	三	三	一六六	〃	｜	〃

郡市	町村	地名	地番	地目	地積	指定スベキ地積	番号	種類	所有者住所	所有者氏名
児湯郡	妻町	妻町大字三宅字丸山	五、四三四	切替畑	一、三九				妻町大字三宅二六四九	農林省
			五、四三五	塚	一、〇一				妻町大字三宅八一六一	官有地
			五、四三六	山林	一、一三	四、一二	一七七	円		小宮熊男
		〃	五、三九二	切替畑	一、三一〇				妻町大字三宅六、六七八	河野次男
			五、三九四ノ一	畑	三一七				〃 七、〇六九	吉野徳松
			五、三九四ノ二	山林	三一四	三、五一三	一六八	〃		上米良駿
			五、三九五	山林	一、八〇六					農林省
			五、三九三	塚	一〇三					
			五、三三八	〃	三三一	六一八	一六九	方墳	—	
		妻町大字三宅字寺原	七、〇七五ノ一	山林	五一九	三一六	一七〇	円	妻町大字三宅八九一四	安藤正一
		〃	七、〇七五ノ二	〃	一、九〇〇	一、三〇五	一七一	前方後円	妻町大字妻五九九ノ一寄留	齊藤重亮
		妻町大字三宅字柳迫	七、〇七四ノ一	山	五一二				妻町大字三宅七、〇六九	児玉フクヱ
		〃	七、〇七四ノ二	〃	五一六	一、五〇三	一七二	〃	〃 大字右松三、五四三ノ一	根井金助
			六、六五〇	籔	三〇九			円	〃 大字三宅六、五六六	緒方泰蔵
		妻町大字三宅字寺原	七、〇七四ノ三	山	五一六	三一	一七三	前方後円	妻町大字右松二、五四二ノ一	根井金助
		〃	七、〇五六	基地	三三	四三	一七四	円	〃 大字三宅三、三四〇	井上勇雄
		〃	七、〇五四	山	四一三	一二五	一七五	〃	妻町大字三宅八、一六一	小宮熊男
		〃	七、〇七四ノ二	〃	五一六	二一九	一七六	〃	〃	根井金助
		〃		〃			一七七	〃		〃
		〃	七、〇五四	〃	四一三	一一一	一七八	〃	〃	小宮熊男
		〃		〃		二六	一八〇	〃	妻町大字三字七、〇八四	〃
		〃		〃		一一	一七九	〃		〃
		〃		〃		二六	一八一	〃		〃
		〃	七、〇五ノ一三	畑	一、九一六	一三	一八二	〃	妻町大字三宅二、七九八	児玉フクヱ
		〃		〃		一〇三	一八三	〃		〃

郡	妻町	妻町大字三宅字寺原	七、〇五四	山	四一三	一〇	一八四	円	妻町大字三宅七、〇八四	小宮熊男
		〃	六、九八七ノ一	〃	一〇〇	一一七	一八五	〃	妻町大字三宅二、七八九	河野義則
		〃	〃	〃	〃	二八	一八六	〃	〃	〃
		〃	七、一六〇	宅地	二〇二	七	一八七	〃	妻町大字三宅七、一六〇	河野常三郎
		〃	七、一五八	山	二〇	二	一八八	〃	〃	〃
		〃	七、一六一	〃	二〇九	三一二	一八九	〃	妻町大字三宅三、四二七	河野義雄
		〃	七、一六七	〃	二三三	一三	一九〇	〃	妻町大字三宅七、一七一	〃
		〃	〃	〃	〃	二〇	一九一	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	三一五	一九二	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二〇四	一九三	〃	〃	〃
		〃	七、二七一	〃	一一〇	二〇	一九四	〃	妻町大字三宅二、三五五	八木文美
		〃	七、一七三	〃	一〇三	三一六	一九五	〃	妻町大字三宅七、一六〇	河野常三郎
		妻町大字三宅字原口	三、五四八	〃	九二八	二一九	一九六	〃	妻町大字三宅三、四二七	農林省
		〃	三、五四九	〃	六一八	一一一	一九七	〃	〃	杉尾福蔵
		妻町大字三宅字酒元ノ上	五、一〇六ノ二	芝地	二三	二八	一九八	〃	八九一四	緒方林外七名
		妻町大字三宅字原口二	三、八七一	野地	一二〇	一一五	一九九	〃	〃	〃
		〃	三、九三〇	畑	三二三	三、〇〇三	二〇〇	前方後円	妻町大字妻一四八	吉野
			三、九三一	野地	一〇一				〃 大字三宅八、九一四	緒方林外七名
			三、九三二	畠	五一九				〃 大字古松二、三三七	長友杉彌
			三、九三三	畠	六二〇				〃 大字三宅七三	井上定硝
		〃	三、八九四	畑	一、七一九	一三	二〇一	円	妻町大字三宅四、〇六七	三井義光
		〃	二、九一八	籔	九二一	一一八	二〇二	〃	妻町大字妻四〇四ノ一	河野為雄
		妻町大字三宅字酒元ノ上	五〇二ノ二	塚	二六	二四	二〇三	〃		官有地
		〃	五、〇六五	籔	一〇三	三九	二〇四	〃	妻町大字三宅八、九一四	緒方林外七名
			五、〇一二	塚	四、四〇三					官有地

郡市	町村	地名	地番	地目	地積	指定スベキ地積	墳号	種類	所有者住所	所有者氏名
兒湯郡	妻町	妻町大字三宅字酒元ノ上	五、〇四三	鍛	二〇六	六二三	二〇五	円	上穂北村大字童子丸五九八	黒木彌兵吉
		妻町大字三宅字笹之元	三、九七二ノ三	塚	三	二	二〇六	〃		官有地
		妻町大字右松字路島田	二、三七一ノ一	原野	六二七	二三	二〇七	〃	妻町大字右松二、三四二ノロ	長友樋蔵
		〃	二、三七〇ノ一 0ノ一	山	一〇八 一〇八	二三五	二〇八	〃	妻町大字右松二、八二九	清野榮蔵
		〃	二、三七〇ノ二三	〃	一〇八	二三五	二〇九	〃	〃	〃
		〃	〃 ノ一四	〃	一〇八	二三五	二〇九	〃		
		〃	〃 ノ一五	〃	一〇八	二三五	二〇九	〃		
		〃	二、三七〇ノ一	〃	八一〇	一、一〇九	二一〇	円	妻町大字妻七四六ノ一	横澤代同
		〃	二、三七二	基地	五一五	一〇八	二一一	〃	妻町大字右松一、八九九	總代本博
		〃	二、三七〇ノ一	學校敷地	一、九一八	一〇三	二一二	〃		宮崎県
		〃	二、三八ノ四	〃	一一〇	一〇	二一三	〃		
		〃	二、三五五	〃	一、六一九	一三	二一四	〃		
		〃	〃	〃	〃	一一八	二一五	〃		
		妻町大字三宅國分	三、三五九 三、三六〇	鍛 塚	一一〇	三二	二一六	前方後円	妻町大字三宅三、七九八	兒玉定之
		妻町大字右松字路島田	二、三〇四 二、三〇五	畑 畑	二一七 二一〇	二八	二一七	円	妻町大字三宅 二六 四九	兒玉代三郎
		〃	二、三二三	山	六二四	一三	二一八	〃	〃大字右松一、〇九一ノイ号	狩野チカ
		〃	二、三二五ノイ号	山林	二、三二一	七	二一九	〃	妻町大字右松六七七	日高種助
		妻町大字三宅國分	三、一八一ノロ号	鍛	七	七	二二〇	〃	妻町大字右松二、三二七	長友貞五名見外
		〃	三、一六一ノロ号	塚	三	七	二二一	〃	妻町大字三宅八、九一四	緒方七名林外
		妻町大字三宅字尾筋東上	三、〇七六	山	二〇六	一二〇	二二二	〃	妻町大字右松一、九〇四	官有地
										中村三次郎

妻町

妻町大字三宅字尾筋東上	三、〇七〇ノロ 三、〇七〇イノ一 三、〇七〇イノ二	山	一二 三一八 一一	二、〇〇七	二三三	前方後円	妻町大字三宅三、〇七八 〃 三、〇七一 〃 三、〇六八	兒玉田郎次 兒玉定義 井上久美
〃	三、〇一七 三、〇一八	〃	四一二 四一二	九〇八 七二〇	二三四	〃	妻町大字三宅三、〇一五 〃 三、〇〇二ノ二	吉野清一 今井傳蔵
〃	三、〇二七ノイ	〃	二〇六	二、一一九	二三五	〃	妻町大字三宅八、一六一	緒方嘉朗
妻町大字三宅字尾筋西上	二、六三七	墓地	七	一〇四	二三六	円	妻町大字三宅三、三四〇	總代 井上勇雄
〃	二、六六〇	山	一〇三	一〇八	二三七	〃	妻町大字三宅二八三八ノ一	吉野新蔵
〃	二、六六四	〃	一〇三	三一六	二三八	〃	妻町大字三宅八、九一四	緒方勝蔵 外七名
〃	二、六六三ノ一	〃	一、三〇七	一一〇	二三九	〃	妻町大字三宅二、六四四	兒玉清三郎
〃	〃	〃	一、三〇二	二八	二三〇	〃	〃	〃
〃	二、六六九 二、六九ノロ	〃	一〇三 三〇二	一、一一七	二三一	前方後円	妻町大字三宅二、六四四 〃 二、六八六	兒玉清三郎 吉野榮四郎
〃	二、六八一	〃	一二〇	一〇	二三二	円	妻町大字三宅二、六四九 〃 三、〇六一	兒玉代三郎 吉野金一
妻町大字三宅尾筋東下	二、八八四	宅地	一二〇	一一九	二三三	〃	妻町大字三宅二、九九八ノ一	吉野常二
〃	二、八八三ノイ	山	一〇	二〇	二三四	〃	〃	〃
〃	二、八一一ノ二 二、八一一ノ一	〃	八 四一八	三〇一	二三五	前方後円	妻町大字三宅二、八二九 〃 二、八〇八	吉野義男 吉野ウシゲサ
妻町大字三宅字尾筋西下	二、七八三	墓地	三〇九	一八	二三六	円	妻町大字三宅七、二八二	代表者 井上勇雄
妻町大字三宅字竹脇	二、二五九	塚	八二五	八一六	二三七	前方後円	—	官有地
妻町大字三宅字島子長田	二、二二九	〃	一三	一二五	二三八	円	—	〃
〃	二、二一四	〃	三	一三	二三九	〃	—	〃
〃	二、二三五	〃	二	一五	二四〇	〃	—	〃
妻町大字妻字妻園	一、一五三	墓地	一一	一二〇	二四一	〃		大字妻有 世話人吉野薫
妻町大字三宅字堂ケ島	四三〇九ノロ号	原野	一、一二四	一三	二四二	〃	妻町大字妻一、一四九	杉田富蔵

郡市	町村	地名	地番	地目	地積	指定スベキ地積	墳号	種類	所有者住所	所有者氏名
兒湯郡	妻町	妻町大字三宅字堂ケ島	四二〇九ノイ号	原野	七〇七	二〇	二四三	円	妻町大字妻二、一四九	杉田富蔵
		〃	〃	〃	〃	九	二四四	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一八	二四五	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	三	二四六	〃	〃	〃
		〃	四、二七五ノ二	塚	一〇	九	二四七	〃	—	官有地
		〃	四、二三五	山林	四、一〇四	一三	二四八	〃	妻町大字三宅四、三四六	清野正穆
		〃	四、三七ノ二	塚	一〇	七	二四九	〃	—	官有地
		〃	四、三三ノ二	〃	三	一	二五〇	〃	—	〃
		〃	四、三七	山林	三〇九	三	二五一	〃	妻町大字三宅四、〇五三ノイ	河野純一
		〃	〃	〃	〃	一〇八	二五二	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	七	二五三	〃	〃	〃
		妻町大字三宅字笹貫畑	四、一八四	塚	一〇三	二三	二五四	〃	—	官有地
		〃	四、二四ノ二	〃	一〇	九	二五五	〃	—	〃
		妻町大字三宅字寺崎	四、三九〇	畑	一、六〇三	一五	二五六	〃	上穂北村大字童子丸五三三	宇田津嘉則
		妻町大字三宅字馬場崎	四、三九八	塚	一〇	七	二五七	〃	—	官有地
		妻町大字三宅字寺崎	四、三九一	〃	二一〇	四五	二五八	〃	—	〃
		上穂北村大字童子丸字新立	六七ノ六九	山林	四二五	一三	二五九	〃	上穂北村大字童子丸五三九	宇田津蔀
		〃	六、七六ノ一〇	〃	三七	二一	二六〇	〃	上穂北村大字童子丸五八二	橋口豊蔵

兒湯郡

妻町

上穂北村大字童子丸字新立	六七六ノ二四	山林	三〇〇	一〇八	二六一	円	上穂北村大字童子丸五、三二九	宇田津部 外三名
〃	六七六ノ二八	〃	九三七	一〇六	二六二	〃	上穂北村童子丸五六九ノイ号	黒木藤蔵
〃	六七五ノ一二五 六七五	〃	四、五〇八	三、一一三	二六三	前方後円	上穂北村童子丸五六七	宇田津倉今朝 外三名
〃	六七六ノ三〇 六七六ノ三	〃	八一六 八二八	二二一	二六四	円	上穂北村大字童子丸五六九ノイ号 〃 五、三二九	黒木藤蔵 宇田津部
〃	六七六ノ一六 六七六ノ一七	〃	五一五 二一五	二三三	二六五	〃	上穂北村大字童子丸四六一 〃 五六六	黒木常吉 宇田津一雄 外一名
〃	六七六ノ九 六七六ノ一〇	〃	七一九 一、二〇三	三〇九	二六六	〃	上穂北村大字童子丸五六三 〃 五六七	橋口又平 宇田津倉今朝
上穂北村大字童子丸字権現原	六五八	萱場	九二一	一三	二六七	〃	上穂北村大字童子丸五八一	黒木藤太郎
〃	六四六ノ一	山	三、一二六	一四	二六八	〃	上穂北村大字童子丸五六七	宇田津倉今朝 外三名
妻町大字三宅原口二	三、九四三ノ一	〃	七三、四三〇	七	二六九	〃	妻町大字三宅四、三六三	清野藤太郎 外三二名
妻町大字三宅字酒元ノ上	五、〇八三ノ一	山林	三、六一七	二〇	二七〇	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	一五	二七一	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	二〇	二七二	〃	〃	〃
妻町大字三宅字西都原東	五、五三〇	〃	一、七一九	一〇	二七三	〃	妻町大字三宅八、九一四	緒方林 外七名
〃	〃	〃	〃	八	二七四	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	八	二七五	〃	〃	〃
妻町大字三宅字寺原脇	五、三二七	畑	八二五	七	二七六	〃	妻町大字三宅八、九四四	緒方雄義
妻町大字三宅字寺原脇	七、一六七	山	三三五	七	二七七	〃	妻町大字三宅七、一七一	河野義雄
妻町大字右松字刎田	二、九二〇ノ二	山林	五〇九	一三	二七八	〃	妻町大字右松二、九〇八	情工佐之助
上穂北村大字童子丸寺場	四五五イ号	山	三、〇〇三	二二二	二七九	〃	上穂北村大字童子丸五六七	宇田津倉今朝 外三名
妻町大字三宅字尾筋東上	三、〇三三	山林	三三	二〇	二八〇	〃	妻町大字三宅三、〇三〇	嚢毛丹蔵

郡市町村	文部省指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
児湯郡 上穂北村	本	平畑古墳	穂北	櫻田	四、七八七	山林	五、二五	円	壱岐久次郎
東臼杵郡 南方村	〃	南方古墳群	南方	雨下	乙七九ノロ号 乙七一〇	荒蕪地 山林		柄鏡式	官有地 柳田清右衛門外九〇名
	〃	〃	〃	〃	乙七九ノイ〃	村社敷地		円	官有地（内務省）
	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃
	〃	〃	〃	〃	乙七四ノ一	山林		柄鏡式	使藤締吉
	〃	〃	〃	〃	乙七五一ノ三	〃		円	柳田万三郎
	〃	〃	〃	〃	乙七五八ノ一	〃		〃	後藤ユキ
	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃
	〃	〃	〃	〃	乙七五九	〃		〃	柳田松次郎
	〃	〃	〃	筒井	乙五七〇ノ一	畑		柄鏡式	柳田清左衛門
	〃	〃	〃	今井野	乙一、三三一乙	山林		円	柳田清左衛門外九〇名
	〃	〃	〃	〃	乙一、三三一	〃		〃	〃
	〃	〃	〃	〃	乙一、三三一	畑		〃	〃
	〃	〃	〃	吉野	乙一、六四九ノ一	山林		〃	宮川喜平
	〃	〃	〃	〃	乙一、六五一ノ二	畑		〃	高橋彌平次
	〃	〃	〃	〃	乙一、四四五乙	山林		〃	甲斐德三郎
	〃	〃	〃	角力田	乙一、七三五ノ乙	〃		〃	高橋茂右衛門
	〃	〃	〃	多々羅	丙一、四八七ノ一	原野		〃	南方村永田、野田、野地、小峰、門中
	〃	〃	〃	赤木	丙一、四二四ノ一	山林		〃	南方村下舞、野門、中持惣代柏田伊之吉
	〃	〃	〃	平田	丙一、三五〇イ号	〃		柄鏡式	早瀬徳治

東臼杵郡	南方村	本	南方古墳群	南方	赤木	丙一、四八一ノ二	山林		円	酒井今朝太
		〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃
		〃	〃	〃	〃	丙一、四八〇	〃		〃	佐藤仙次郎
		〃	〃	大貫	迫	二、〇一四ノ乙	〃		〃	松村仲四郎
		〃	〃	〃	横	二、〇五六イ号	墓地		〃	大貫村中総代佐藤和三郎
		〃	〃	〃	〃	二、〇五六イ号	〃		〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二、〇五四	山林		〃	染矢波蔵
		〃	〃	〃	〃	二、〇四三	〃		〃	柳田辰治
		〃	〃	〃	〃	二、〇四一	〃		〃	山田茂
		〃	〃	〃	〃	二、〇五四	〃		〃	染矢波蔵
		〃	〃	〃	和田ケ迫	一、九九四	〃		〃	長照院
		〃	〃	〃	上無田	二、四〇八	雑種地		〃	大貫村中総代佐藤和三郎
		〃	〃	〃	〃	二、五〇七	山林		〃	宇野玉之助
		〃	〃	南方	木ノ下	甲三、二六一	〃		前方後円	柳田林治
		〃	〃	〃	〃	甲三、二六一	〃		円	〃
		〃	〃	〃	〃	甲三、二六九	〃		〃	前田松次
		〃	〃	〃	八田	甲五、二八五	畑		〃	佐藤金蔵
		〃	〃	〃	野田	甲四、八八三	山林		〃	柳田彌三郎
		〃	〃	大貫	浄土寺	第一五二九ノ三	〃		〃	染矢エツ
		〃	〃	南方	雨下中須	第乙七三	原野		横穴	柳田清右衛門
		〃	〃	〃	木ノ下	第甲三、三七八ノ一	山林		円	村田英雄
		〃	〃	〃	川辺	第甲四、三〇九ノ一	原野		横穴	龍仙寺

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
宮崎市		県	赤江町古墳	恒久	霧島原	三、七二八ノイ	山林	畝 一一、二三 四八坪	円	下恒久組中
		〃	〃	〃	〃	三、七二八ノロ	宅地	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	三、七一五ノ一	畑	一〇、一八	〃	恒吉新作
		〃	大淀古墳	大塚町	西原	一、三二〇	〃	三、〇七	〃	大塚部落
		〃	〃	〃	〃	一、二四九	〃	一、〇五	〃	〃
		〃	〃	〃	時宗	一、七〇五 一、七〇五ノ乙	山林 宅地	二、二九 一〇坪	前方後円	日高広海 大塚部落
		〃	〃	〃	原	一、六七二	山林	七、一八	円	坂本本蔵
		〃	〃	〃	天神後	二、六八二ノ一 二、六八二ノ乙	山林 宅地	五、二一 一五坪	〃	日高藤作外五名 大塚部落
		〃	〃	〃	宮田	二、八七三	山林	一、〇三	〃	谷口喜八
		〃	〃	〃	迫田	二五三	〃	二、〇六	横穴	多田庄三郎
		〃	下北方古墳	下北方町	塚原	五、八五四	〃	二〇、〇九	前方後円	富永正良 富永トシ
		〃	〃	〃	〃	五、七五一ノイ	〃	一六、〇一	円	土持ヱイ
		〃	〃	〃	〃	五、七五六ノ二	〃	一一、〇九	前方後円	服部次男
		〃	〃	〃	〃	五、七五八ノイ	〃	一、五二四 六坪	円	〃
		〃	〃	〃	〃	五、七五八ノロ	宅地	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	五、七六七	畑	一、一五	〃	美原義道
		〃	〃	〃	〃	五、七九八 五、七九九 五、八〇〇	〃	一〇、二〇 二、一〇 四、〇一	〃	池田藤平

宮崎市

県	下北方古墳	下北方町	塚原	五、七九三	宅地	一六、七坪	円	押川房子
〃	〃	〃	〃	五、七八七	山林	二八、一三	〃	帝釈寺
〃	〃	〃	〃	五、七八三ノイ	〃	五、〇三	〃	太野仁一郎
〃	〃	〃	〃	五、七八一ノ一 五、七八一ノ二	〃	七、一八 四、一三	〃	富永富
〃	〃	〃	〃	五、七七三	〃	七、〇〇	前方後円	日高藤次郎
〃	〃	〃	〃	五、七四一	〃	一、〇〇	〃	農林省
〃	〃	〃	〃	五、七三三	宅地	三八、四坪	円	日高彌太郎
〃	〃	〃	越ケ迫	六、一六七ノ六	公園敷地	一〇〇、〇〇	前方後円	宮崎市
〃	〃	〃	花切	五、六九七ノ七	山林	四、一三	円	大野藤平 野中一郎
〃	〃	〃	高下	六、一三五ノ二	畑	三七、一八	〃	富永音吉
〃	倉岡村古墳	糸原	前向	二、五〇七	原野	一三	〃	官有（倉岡神社）
〃	〃	〃	〃	三、五二九	宅地	三、五六坪	〃	大山八右衛門
〃	〃	〃	山下	四、四九〇	山林	五、二〇	前方後円	園田美春
〃	〃	〃	〃	四、四九五ノロ	〃	一〇、一三	円	鈴木一寿
〃	〃	〃	岩坂	四、〇四六	〃	三、二六	横穴	農林省
〃	〃	〃	〃	四、〇八八	〃	三、二五	〃	野田武吉
〃	〃	〃	七ツ枝	一、〇三三	原野	六、〇六	〃	倉岡神社
〃	〃	〃	妙戸岩	一、五三八	山林	七、〇六	〃	萩原千城
〃	〃	〃	岩坂	四、〇七三	〃	一〇、〇五	〃	鈴木一俊
〃	青島村古墳	折生迫	下箸方	四七三	畑	一、二七	円	長友傳一
〃	〃	〃	〃	四七六	〃	一、一三	〃	井元莊太郎

郡市	町村	指定	名地	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
宮崎市		県	青島村古墳	折生迫	下篭方	四八	畑	一、〇〇〇	円	歌津綱子
		〃	〃	〃	〃	四九〇	原野	三、〇九	〃	折生迫
		〃	〃	〃	〃	三二九	畑	一、二六	〃	合資会社日東商会
		〃	木花村古墳	熊野	陣之元	五、六〇〇	墓地	七、三	前方後円	熊野組中共有地
		〃	〃	〃	〃	五、六一九	〃	二、二七	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	五、五三五	〃	一、〇五	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	五、四一四	山林	一、〇三	円	田代久平
		〃	〃	〃	〃	五、四四七	畑	九、〇三	〃	佐土原重一
		〃	〃	〃	下原	五、七一	〃	三、三	〃	杉田興助
		〃	〃	〃	〃	五、六七七	〃	一、九〇一	〃	長友瑩三郎
		〃	〃	〃	木原	九、八六四	学校敷地	一、一五	〃	宮崎市
都城市		県	都城市古墳	鷹尾町	上村	三、九一七ノ四	宅地	二八、坪	地下式古墳地	上田ツマ
		〃	〃	〃	〃	三、九一八ノ一	畑	三、五	〃	木幡幸吉
		〃	〃	〃	〃	三、八三八ノ一	〃	一六、一五	円	田村浅太郎
	都城市沖水古地	〃	〃	用東	徳川	五、二七ノ六	宅地	一、二五	〃	江夏吉助
		〃	〃	郡元	〃	三、八六六	社地	七六、二〇	〃	早水神社
延岡市		県	延岡市古墳	三須	平ノ下	八、〇六〇	山林	二、一九	円	土持喜一
		〃	〃	恒富南	堂ノ上	六、六五〇	墓地	五、二六	〃	尾崎彌一
		〃	〃	〃	〃	六、七四	畑	二、二	〃	尾崎房吉
		〃	〃	〃	寺田	六、五〇〇	〃	一五	横穴	元恒富村

延岡市

延岡市古墳	県	恒富北	愛宕山北	六、〇九三	山林	五八、二〇	横穴		願成寺
〃	〃	岡富	坊ノ内	一、〇二三イノ一	〃	七、〇五	円		松本長平
〃	〃	祝子	桧ケ原	七、四六四ノ一	原野	三六、〇八	横穴 円	四一	竹村作治 外一六三名
〃	〃	粟野名	鶴ノ本	一、六〇六	山林	一、〇三一	円		福良盛治 外一名
〃	〃	〃	上ノ島	一、三三〇	〃	二、〇〇	〃		塩崎浅吉 外二四名
〃	〃	〃	萱ノ嶋	四、一五四	〃	三、一五	〃		牧野若松 外二九名
〃	〃	〃	竹ノ崎	五五三	〃	六	〃		森竹金作 外一名
〃	〃	〃	五領	一、〇九三ノ一	畑	二、一五	〃		渡部英尚
〃	〃	川島	和田	七、三六九	山林	一、一三	〃		谷仲吉
〃	〃	祝子	七曲	七、四九二イ	〃	三四、一四	〃	三	松田治助 外三四六名
〃	〃	稲葉崎	飯塚	六五五ノ一	原野	三、一一	〃		牧野栄蔵 外一〇六名
〃	〃	粟野名	無鹿	三、三六八乙	宅地	三、九〇	〃	四	大将軍神社管理者貫万作 外二名
〃	〃	〃	〃	三、三一八	〃	三、一五	横穴		渡部英尚
〃	〃	〃	無鹿友内	三、四三三	山林	三六、六八	円	五	長完吉 外七名
〃	〃	川島	東海	一四三ノロ	〃	四〇、一三	円		野中新三郎
〃	〃	古川	下多々良	七七一	〃	一、一三	横穴		黒木庄吉
〃	〃	稲葉崎	馬場畑	一、八〇三	社地	一六、一五	円		菅原神社管理者荒木伊作 外三名

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地積	種類	所有者
日南市		県	東郷村古墳	風田	元弓場	三、六四九ノ二四	畑	三、一五	円	平永忠次郎
		〃	〃	〃	前礫平	四、一四四ノ一	原野	二〇、一五	〃	川越博愛
		〃	油津町古墳	〃	油津	四〇五	籔	三、〇六	〃	油津町
小林市		県	小林町古墳	水流迫	下ノ平	一七ノ口	野	八、一三	横地下穴式	水流善作
		〃	〃	細野	城山	三、〇八ノ四一	畑	六、三三	〃	柚木脇タケノ
		〃	〃	〃	〃	三、〇六ノ四二	〃	七、〇八	〃	〃
		〃	〃	真方	松之元	五、六三二ノ七	田	四、〇八ノ内 三、〇〇	〃	南正覚和吉
		〃	〃	〃	〃	五、六八ノ六	〃	九、一九ノ内	〃	富満通
		〃	〃	〃	〃	五、六七ノ八	〃	一〇、三ノ内 三、〇〇	〃	南正覚和吉
日向市		県	富高町古墳	富高	古城鼻	六、九四ノ一 六、九四ノ二	宅地山林	三、一七 五四	円	富高町
		〃	〃	〃	〃	六、八九二	〃	四、〇二	前方後円	河野駒三
		〃	〃	日知屋	伊勢ケ浜	六、九四〇	〃	四、〇九	円	石川儀助
		〃	〃	〃	〃	六〇三	〃	一〇、〇〇	〃	石川大八郎
		〃	〃	〃	〃	六〇三	〃	一〇、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	六〇三	〃	一〇、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	六〇三	〃	一〇、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	野首	三ノ四	〃	三、二六	古墳跡	黒木利一 外名助
		〃	〃	〃	米山	六二ノ五	〃	八三〇、〇〇	円	日知屋

日向市

県	富高町古墳	日知屋	米山	六六二ノ五	山林	八〇〇、〇〇	円	日知屋
〃	〃	〃	〃	六六二ノ五	〃	八〇〇、〇〇	〃	〃
〃	〃	〃	〃	六六二ノ五	〃	八〇〇、〇〇	〃	〃
〃	〃	富高	西谷	七、一五七	山林	四五、一三	横穴	富高町
〃	〃	〃	〃	七、一五七	〃	四五、一三	〃	〃
〃	細島町古墳	〃	八幡ノ上	三二一	〃	一〇〇、〇〇	円	観音寺
〃	岩脇村古墳	平岩	馬ミゾ	五五七	畑	一、一七	前方後円	緒方忠蔵
〃	〃	〃	上舟上	四七ノ乙	芝地	五九	円	平岩、共有
〃	〃	〃	〃	四九ノ一 四九ノ三	畑	一〇 七〇	前方後円	久義儀助
〃	〃	〃	中舟人	一五一	山林	二〇	円	官有地
〃	〃	〃	〃	一三一 一三七 一二四ノ乙	畑 〃 芝地	四、九九 三、九九 二〇	前方後円	児玉茂助 児玉ヨシヱ 平岩共有
〃	〃	〃	〃	一三〇 一二九 一二八	畑	一、〇三 一、〇八 五九	円	松葉倉右衛門 松葉音松 松葉吉治
〃	〃	〃	〃	一一八 一〇七	山林	三三、一〇 三三、一二	〃	木宮喜代治 黒木フデ
〃	〃	〃	〃	一八〇	〃	三、〇〇	〃	川野熊三
〃	〃	幸脇	ドテノ内	三〇九	畑	九、七〇	〃	青木利一
〃	〃	〃	〃	三〇二ノ二	切替畑	三、一〇	〃	柄木今朝松
〃	〃	〃	〃	二九六	山林	四、二二	〃	松浦徳太郎
〃	〃	〃	〃	二五二	畑	六、〇九	〃	甲斐國太郎

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
宮崎郡	清武町	県	清武町古墳	加納	下岩見田	甲二、四〇一	籔	一、二二	前方後円	河野忠平
		〃	〃	〃	〃	甲二、三九一ノ二	畑	九、二七	円	〃
		〃	〃	〃	〃	甲二、三七五ノ二	〃	四、一七	〃	小八重重古
		〃	〃	〃	白砂坂	甲二、〇〇七ノ八	〃	六、二三	〃	河野忠平
	生目村	県	生目村古墳	浮田	鳥越	二、六八二ノ三	山林	四、〇二	横穴七	
		〃	〃	〃	佃前	一、九二三	〃	二五	〃 二	
		〃	〃	〃	〃	二、九六二	〃	一、〇五	〃 二	
		〃	〃	宮吉	山下	四、八四二ノ一	雑種地	三、二七	〃 二	
		〃	〃	〃	納島岩六ノ前	六、四〇七	山林	二、〇九	〃 二	
		〃	〃	細江	宮田迫	一七〇	塚	三	円	
		〃	〃	〃	三段田	三、九一四	〃	一、〇〇	〃	
		〃	〃	〃	霜田	二四〇	〃	七	〃	
		〃	〃	長嶺	井出西	七五三	〃	一三	〃	
		〃	〃	浮田	照明院	二、二六四ノ一	〃	四、二九	横穴	
		〃	〃	〃	西ノ苗	二、四三八	原野	二〇	円	
		〃	〃	〃	〃	二、四三三 二、四三四	畑	二〇 二七	〃	
		〃	那珂村古墳	東上那珂	井手下	一一、八三四	山	一、二三	横穴二	岩崎甚彌
		〃	〃	〃	〃	一一、八三七ノ一	〃	一〇、〇〇	〃 二	河崎清蔵
		〃	〃	〃	牛ケ迫	八、九一〇	原野	一、〇五	〃 二	赤池畩次郎
		〃	〃	〃	〃	八、九〇八	山	二、〇〇	〃 二	橋口直二

宮崎郡	那珂村	県	那珂村古墳	東上那珂	大久保	七、七四七	山	三〇	横穴 三	長友平作
		〃	〃	〃	〃	七、七三五ノ二	〃	三九	〃 三	鑑木徳次
		〃	〃	〃	寺田	七、八七三	〃	一、〇四	〃 四	齊藤袈裟次
		〃	〃	〃	久保田	八、〇四八	〃	一、一三	〃 二	齊藤初見
		〃	〃	〃	阿蘇田	六、八四九	〃	七〇	〃 三	井上満五郎
		〃	〃	〃	〃	六、八三三	〃	一四	〃 三	図師直次
		〃	〃	〃	〃	六、八三七ノ二	〃	二四	〃 二	安藤善蔵
		〃	〃	〃	山崎	六、九七八	〃	一、五四	〃 二	長友元次
	廣瀬町	県	広瀬村古墳	下那珂	七ケ廻	六、〇三八	山林	四三、一四	円 二	広瀬村
		〃	〃	〃	〃	六、〇二九	〃	一二	〃 一	木宮寅助
		〃	〃	〃	城ケ峰	二、九三三	〃	一八	横穴	岩本甚彌
		〃	〃	〃	〃	二、八五六	〃	一四	円	齊藤武雄
		〃	〃	〃	〃	二、八六〇	〃	一、一三	〃	永野秀吉
		〃	〃	〃	〃	二、八九一	畑	九、〇三	〃	岩切安五郎
		〃	〃	〃	〃	二、八七三	〃	九、一九	〃	岩本甚彌
		〃	〃	〃	〃	二、九三五ノ二	〃	三、〇五	〃	永野袈裟五郎
		〃	〃	〃	〃	二、九三九	〃	五、三六	〃	永野金蔵
		〃	〃	〃	〃	二、九四二ノ八	〃	五、〇〇	横穴	岩切スズメ
		〃	〃	〃	〃	二、三二八ノヌ	〃	一、〇五	〃 二	

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
宮崎郡		県	広瀬村古墳	下那珂	諏訪山	一一、三六〇ノ一〇	地	一〇	横穴二	
		〃	〃	〃	〃	一一、三二〇	〃	二一〇、二八	〃	
		〃	〃	〃	堀下	六、七六五	〃	一、二七	円	杉尾虎之助
		〃	〃	〃	西ノ城	一〇、〇五〇ノ九 一〇、〇五〇ノ一一 一〇、一二一	〃 〃 山林	一一、一八 九、〇九 〇四	〃	松浦四左衛門 横山広光 松浦佐吉
		〃	〃	〃	柿内	一三、三八三ノ四〇	〃	一〇	横穴三	木宮亀五郎
		〃	〃	〃	一丁田	一三、九三一	〃	〇四	〃	木宮榮作
		〃	〃	〃	土器田	一三、八二四	〃	一八	〃 二	横山兼次
		〃	〃	〃	〃	一三、七九三 第二	〃	〇五	〃 一	永野金蔵
	廣瀬町	〃	〃	〃	〃	一三、七九二	〃	一、一五	〃 二	横山梅蔵
		〃	〃	〃	〃	一三、七八三第一六	〃	〇三	〃	横山元次
		〃	〃	〃	〃	一三、七九〇	〃	〇七	〃	横山金次郎
		〃	〃	〃	〃	一三、八一四	〃	一一	横穴	松浦俊一 外一名
		〃	〃	〃	尾原	五、三九三	〃	二、一九	円	黒木恒次郎
		〃	〃	〃	〃	五、三六一	〃	〇七	〃	橋山富士雄
		〃	〃	〃	〃	五、三五七	〃	〇六	〃	永野榮次郎
		〃	〃	〃	〃	五、三五二	原野	〇六	〃	広瀬村
		〃	〃	〃	〃	五、二五八 二号	畑	一一、一八	〃 二	大町伊織
		〃	〃	〃	平	五、〇八六イ	山林	九、一八	柄鏡式	横山益雄

宮崎郡

廣瀬町

県	広瀬村古墳	下那珂	平廻	四、八九七	山林	五、二六	横穴古墳	横山益雄 外二名
〃	〃	〃	土器田	三、七三四	〃	五、二六	〃	横山益雄 外九名
〃	〃	〃	和田山	三、九六〇ノ三	〃	一五、〇七	〃	中村民重
〃	〃	〃	宮本	二、三八ノ三	社地	三、〇〇	円 二	下田島神社
〃	〃	〃	〃	三、三三〇	畑	二五、一〇	〃 一	根井久男 外一名
〃	〃	〃	上薗	七、八二六ノ一	〃	一七、〇四	〃 二	齊藤政身
〃	〃	〃	天神	七、八四九	〃	一五、一三	前方後円	広瀬信用組合
〃	〃	〃	袋	二〇、三〇五	山林	四六、二九	横穴 二	萩原郷太郎 外四名
〃	〃	〃	鈴町	八、三六八	〃	五八、二〇	〃 三	田島信用組合
〃	〃	〃	鳥越	二〇、八三四	〃	一、〇五	〃	馬場藤吉
〃	〃	〃	垂門	二〇、〇九三	〃	一、〇五	〃	竹井清太郎
〃	〃	〃	岩穴ケ迫	八、七八三ノ五	〃	二一、一三	〃 三	荒川清吉
〃	〃	〃	〃	八、七八七ノ五	〃	六	〃 五	岩切幸宇

住吉村

県	住吉村古墳	島ノ内	中小路	七、五〇一ノ一 七、五〇一ノ二	山林 宅地	一四、〇〇 一〇	前方後円	肥田木善次 八幡神社
〃	〃	〃	長池尻	九、五〇四	畑	三、〇八	円	奥松勇男
〃	〃	〃	萩崎	七、六八八ノロ	宅地	一〇	前方後円	八幡神社
〃	〃	芳士	野間平	二、四三〇	山林	九、二三	円	長友國平 外四七名
〃	〃	〃	祝田	一、三三三ノ一	〃	五、二六	横穴 四	深江太十
〃	〃	〃	〃	一、三三三ノ二	〃	〃	〃 三	杉田豪雄

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
宮崎郡	住吉村	県	住吉村古墳	芳士	祝田	一、三三	山林	二、一〇	横穴古墳一	杉田豪雄
〃	〃	〃	〃	〃	人ノ前	二、〇三五ノ一ロ	〃	二、一〇	〃 三	長友重治
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、〇三五ノ八	〃	二、一〇	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、一九五	〃	四、一一	〃 一	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、一五三ノ一	〃	二、〇五	〃	長友種次
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、一五六ノ一	〃	四、〇八	〃 四	國賀勝藏
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、一五六ロ一三	〃	一、〇〇	〃 二	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、一五六ロノ六	〃	一五	〃	宮田庄之助
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、一六九ノ一	〃	四、一六	〃 一	長友松藏
〃	〃	〃	〃	〃	岩永迫	二、一九〇	畑	一〇、一三	〃	日高義範
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、二八五ノ一	野	三、一六	〃 九	長友久治
〃	〃	〃	〃	〃	岩永迫	二、二八三	畑	二、一三	〃 一	外十名
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、三〇三	野地	三、一六	〃 二	外山半次
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、二四八	〃	二五	〃 一	長友寿美藏
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、二四ノ一	〃	一、一三	〃	宮越覚男
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、二六九	畑	三、一三	〃	長友種次
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、二七三	野地	七	〃	長友重治
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、二二イ	山林	一〇	〃 三	永野藤太郎
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、二三ノ一ノ五	〃	三	〃	長友重治
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、二三ノ一	〃	一〇	〃 二	〃

宮崎郡	住吉村	県	住吉村古墳	芳士	岩永迫	二、三三一イノ六	山林	二九、一〇	横穴 二	長友國平 外四六名
		〃	〃	〃	〃	二、二四九イ	〃	二、二六八	〃 九	〃
		〃	〃	〃	〃	二、二四九イ 二、二四九ロ	〃	二、二六八 二、二六八	前方後円	長友國平外四六名 長友重治
		〃	〃	〃	釘坪	一五一	〃	九、一三	横穴 二	日高義範
		〃	〃	〃	〃	一、一五九	社地	三、一三	〃 一	諏訪神社
		〃	〃	〃	平田	八五〇	山林	四、一二	〃 四	長友宗雄
		〃	〃	〃	〃	八八〇	〃	五、二六	〃 一	〃
		〃	〃	〃	〃	八八二	〃	三、一六	〃 四	長友駒蔵
		〃	〃	〃	五反田	四八三	〃	三、〇五	〃 一	日高信行
		〃	〃	広原	菅牟田	七、五七〇	〃	二、〇〇	〃 一	赤江 太田株式会社
		〃	〃	〃	〃	七、五五五ノ号	〃	〇五	〃 一	藤原要
		〃	〃	〃	〃	七、九五ノイ	〃	〇五	〃 六	
		〃	〃	〃	北園	二、五五一ノ乙	〃	二七	〃	
		〃	〃	〃	上大迫	二、五三二	〃	一、一三	〃	
南那珂郡	細田町	〃	細田村古墳	上方	小谷山	二、四六六	原野	二、〇六	堀込式	南郷村大字中村乙四八二九ノ二 宮川俊克
	南郷村	県	南郷村古墳	潟上	三本松	九、六二八イ号	山林	三五六、〇〇	円墳	潟上神社
		〃	〃	〃	別府	二、九五四	畑	二、二六	形式不明	山口常雄
		〃	〃	〃	内無田	一、四七三	墓地	一、一〇	〃	山下與作
		〃	〃	〃	櫟山	一〇、八四三	山林	一、一〇	〃	浅田熊市
		〃	〃	中村	迫田	甲一、九九六	籔	五、〇三	堀込式	中村甲二、〇一〇 岩倉吉次郎
	福島町	〃	福島村古墳	西方	南畑	三、六五五	畑	三、二七	地下式横穴	阿部山常吉

郡市	町・村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
南那珂郡	福島町	県	福島町古墳	西方	桑ノ木	四〇七九	畑	三、一五	円	長友平蔵
		〃	〃	〃	〃	四一〇三	墓地	七、二四	〃	共同墓地
		〃	〃	〃	〃	四〇六六	〃	八、〇〇	前方後円	官有地
		〃	〃	〃	〃	三、九四八	山林	三、二四	円	諫山孝重外三十七名
		〃	〃	〃	塚巡	四、一九八	畑	七、二七	円	山下虎雄外一名
		〃	〃	〃	〃	四、一八六	〃	一〇、二三	〃	本城村金川今朝蔵
		〃	〃	〃	〃	四、一八七ノ一	〃	三、〇〇	〃	西方福山金四郎
		〃	〃	〃	〃	四、一八七ノ二	宅地	三六五坪	〃	〃 財津宗男
		〃	〃	〃	〃	四、一八九	〃	六二坪	〃	
		〃	〃	〃	〃	四、一〇九	山林	八、〇〇	〃	北方村加藤彌助
		〃	〃	〃	石仏	四、三三八	畑	一、〇〇	瓢	前田兵三郎
		〃	〃	〃	〃	四、三三七	墓地			共同墓地
		〃	〃	〃	東原	三、八二七	畑	三、八	円	山下盛雄
		〃	〃	〃	中ノ坂	七、四四二	〃	四、二〇	〃	鈴木重熊
		〃	〃	〃	善田原	九、六七四	〃	四、一五	〃	松本藤一
		〃	〃	〃	合宗	八、四七七	〃	七、一〇	〃	原口政太郎
		〃	〃	〃	〃	八、四八一	〃	六、三	〃	矢野辰蔵
		〃	〃	朝摩料		六三三	〃	四、〇三	〃	谷口一郎
		〃	〃	〃	羽山迫	二、二七九	〃	五、二一	〃	
		〃	〃	〃	上高野	二、六三六	〃	一四、二〇	円墳跡	竹下善衛門
本城村	本城村古墳	県	〃	畸田	江切汐入	二、七二九	山林	三、〇〇	円	山崎元一

郡	町村					番地	地目	坪数	形式	所有者
南那珂郡	木城村	県	〃	〃	松崎	二、七三六	畑	一、一五	〃	竹島伊助
		〃	〃	〃	〃	二、七三〇ノ四	原野	三、一〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二、七三〇ノ三	〃	四、〇〇	〃	本城村有
		〃	〃	〃	〃	二、八四八イ号	〃	三、二〇	〃	福島町今町神戸辰蔵
		〃	〃	〃	〃	二、七三八	〃	三、一〇	〃	門川長五郎
		〃	〃	〃	永田	三、二八四	墓地	三、〇〇	〃	永田区有
	市木村	〃	市木村古墳		開田	七、二九五	藪	一八、〇〇	不詳	市木村
		〃	〃		砂子田	五九六	田	三、一三	円	岩下吉十
		〃	〃		柱松	七、〇六八	山林	八、〇〇	不詳	佐藤克水 岩下傳蔵
		〃	〃		蛭田	七、三〇三	畑	一、〇一	円	坂元セン
		〃	〃		本宮	一、九七八	田	三、一八	〃	渡辺雪衛
	都井村	〃	都井村古墳	大納	北園	一、一〇四	畑	一、一三	箱式石棺	森山助市
		〃	〃	〃	〃	一、〇九九 一、一〇〇	〃 〃	三、〇〇 一、一八	〃	土肥惣吉
北諸県郡	山之口村	〃	山之口村古墳	富吉	後田	一、七八六 一、七八七	山林	八、一〇 六、二七	〃	永徳佐右衛門
		〃	〃	〃	平	二、二三七ノ一	原野	一、一七	円	〃
		〃	〃	〃	〃	二、二七四ノ一	畑	七、一六	〃	〃
		〃	〃	花木	向原	二、〇六六ノ三	山林	五、一三	地下横穴式	中園藤左衛門
		〃	〃	〃	鵩ノ田	二、六三五ノ一	原野	一四、一四	円	中園藤左衛門 川内高盛
	高城町	〃	高城町古墳	大井手	牧原	三、五五五	山林	三、〇六	前方後円	中村満輔
		〃	〃	〃	〃	三、五四〇	〃	四、〇〇	円	武教義
		〃	〃	〃	〃	三、五四三	〃	三、〇四	前方後円	四本才之助
		〃	〃	〃	〃	三、五〇三	山野	一四	円	新穂千秋

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
北諸縣郡	高城町	県	高城町古墳	大井手	牧原	三、五二七	原野	一、〇六	円	高橋シマ
		〃	〃	〃	〃	三、四九五	畑	一、〇九	前方後円	中島矩貞
		〃	〃	〃	〃	三、五九六	墓地	二、〇六		内窪宇助
		〃	〃	〃	〃	三、四八二ノ二	原野	一七、一〇	円	安楽兼吉
		〃	〃	〃	〃	三、四八一	畑	二四、一八	〃	中島矩貞
		〃	〃	〃	〃	三、四五一	〃	一八、一三	〃	尾辻清範
		〃	〃	〃	〃	二、四七一	原野	一八	〃	丸野盛忠
		〃	〃	〃	立喰	二、五二五	山林	五、二八	〃	児玉勝実
		〃	〃	〃	〃	二、五二三		二四、一〇	〃	
		〃	〃	〃	〃	二、五四一	〃	一、一七	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	二、五四一ノ一	原野	六、一三	〃	田畑榮蔵
		〃	〃	石山	川原田	二、九三八ノ二	〃	一五、一三	〃	広池清次郎
		〃	〃	〃	鳥井原	二、二七四ノ乙	〃	一六	〃	南園正助
		〃	〃	〃	柿木原	二、七四八	山林	八七、〇六	〃	篠原利助
		〃	〃	有水	西森	二、八三ノ二	〃	一、一七	〃	辰野豊吉
		〃	〃	〃	〃	二、八九二ノ二	〃	二、〇九	〃	川林藤熊
		〃	〃	〃	西久保	一、〇五一	畑	一三、一〇	〃	西留岩衛門
		〃	〃	〃	〃	一、〇四四	〃	二五、一五	〃	〃
志和池村		〃	志和池村古墳	下水流	築池	二、五三六ノロ	原野	六、〇三	前方後円	浜川林吉外二名
		〃	〃	〃	〃	二、五五八	畑	八、一三	円	桝井元右衛門
		〃	〃	〃	〃	二、五五九		六、一〇		永吉嘉盛
		〃	〃	〃	〃	二、五四二	〃	二〇、〇三	〃	浜川善兵衛
		〃	〃	〃	〃	二、五六七	〃	一九、一〇	〃	中村長

北諸県郡	志和池村	〃	〃	〃	〃	二、四七ノ二	山林	六、〇九	円	福留仁平次
		〃	〃	〃	〃	二、四二七	〃	一、一〇	〃	浜川林吉
		〃	〃	〃	〃	二、四四〇	畑	二〇、三三	地下古墳式	高瀬與作
		〃	〃	上水流	十三東	一、六八一	〃	二、一八	円	日高匠
		〃	〃	〃	屏風谷	一、八三五	〃	三一、一三	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、八三五	〃	三一、一三	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、八三六	〃	一八、〇一	〃	東郷兼吉
		〃	〃	丸谷	十三塔	二、八九一ノ一 二、八九一ノ二	〃	三一、一〇 一〇、一三	〃	倉盛休四郎 内村進
		〃	〃	野々美容	下永山	三、〇九五ノ一	山林	二〇、〇〇	方	前田政盛
		〃	〃	岩満	竹ケ山	一、六三二ノ一	〃	三、〇七	円	徳永傳右衛門
	庄内町	〃	庄内町古墳		鈴川	九、五四三ノ一	宅地	五〇三坪	〃	菓子野蔵右衛門
		〃	〃		〃	九、五〇〇	山林	一八、〇一	〃	森彌兵衛
		〃	〃		〃	九、四五五	畑	一八、一八	〃	長岡蔵助
	高崎町	〃	高崎町古墳	前原	前原	三四二ノ一	原野	三、三六	前方後円	
		〃		〃	〃	一、一三〇	〃	八、〇七	円	
		〃		〃	〃	一、一三三ノ二	畑	七三、一二	〃	
		〃		〃	〃	一、一四〇ノ一	田	五、一四	〃	
		〃		〃	〃	一、一四一	畑	一〇、〇一	〃	

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
北諸縣郡	高崎町	〃	〃	繩瀬	塚原	四、六一八ノイ	原野	一、一〇方		
		〃	〃	〃	〃	四、六一九ノ乙 四、六二三ノイ	畑	三三、〇八 二〇、〇七円		
		〃	〃	〃	千原	四、六二八	〃	一三、二七	〃	
		〃	〃	〃	〃	四、六二六	〃	七四、一四	〃	
		〃	〃	〃	横谷原村ノ二	一、六六六ノ一	〃	三〇、〇三	〃	
		〃	〃	〃	〃	一、六六七ノ一	〃	八七、〇五	〃	
		〃	〃	〃	〃	一、六六三	〃	三三、一〇	〃	
		〃	〃	〃	〃	一、七一一	〃	三七、〇五	〃	
		〃	〃	〃	〃	一、六八九	〃	二八、〇三	〃	
		〃	〃	〃	〃	一、七〇二	〃	二七、一五	〃	
		〃	〃	〃	〃	一、六九八	〃	五三、一五	〃	
西諸縣郡	高原町	〃	高原町古墳	蒲牟田	猪ノ尾	猪ノ尾國有林第三班	山林	一、八九〇六	六	
	野尻村	〃	野尻村古墳	東麓	九塚	二、五一五	〃	四、〇〇	〃	永池國助
		〃	〃	三ケ野山	大萩	三、三〇三ノロ 三、三〇三ノ一	畑原野	一一、〇六 九、〇〇	〃	野尻村四位儀助
須木村		〃	須木村古墳	〃	上ノ原	一、七五三ノ一	山林	三、〇〇	地下式古墳	園田參二
		〃	〃	〃	〃	一、七五三ノ二	〃	三、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、七五三ノ二	〃	三、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、七五三ノ二	〃	三、〇〇	〃	〃

郡	町村	名称	大字	小字	地番	地目	面積	形式	所有者
西諸県郡	飯野町	飯野村古墳	原田	建山	二、二四三ノ七	畑	三五、一四	円	黒田利盛
〃	〃	〃	上江	小木原	二、三三〇ノ一	〃	二四、二〇	〃	吉田権右衛門
〃	〃	〃	〃	鳥越	二、四〇四	〃	七、二〇	〃	吉田宗之丞
〃	〃	〃	原田	遠目塚	三八〇	山林	二、一三	〃	中吉疋五郎
〃	〃	〃	上江	鳥越	二、四三二ノ一	畑	三、一八	地下式横穴	吉田兼吉
〃	〃	〃	原田	〃	二、四三三	墓地	二、〇〇	円	吉田宗之丞外数名
〃	〃	〃	〃	建山	二、二四〇ノ二	宅地	二、〇六	地下式横穴	山形ユキ
〃	〃	〃	〃	〃	二、二四三ノ三	〃	四、〇三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	二、二四〇ノ一	畑	三、一一	〃	黒木純夫
〃	〃	〃	〃	〃	二、二四一	〃	三八、一〇	〃	山形建次
〃	〃	〃	〃	〃	二、二四三ノ六	〃	一六、〇九	〃	山形ユキ
〃	〃	〃	〃	中柵	二、三三一ノ三	山林	七、〇五	〃	山形治幸
〃	〃	〃	〃	〃	二、三三一ノ四	宅地	一、一〇	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	二、三三一ノ一	畑	四〇、一三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	二、三三一ノ八	宅地	四、一三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	二、三三一ノ九	畑	五、〇〇	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	二、三三一ノ一〇	宅地	六、〇一	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	二、三三一ノ一	畑	三九、〇四	〃	〃
〃	〃	〃	島内	杉原	一、四三一	山林	三、〇〇	地下式横穴	中津遊亀安
〃	〃	〃	〃		一、一八四ノ二	〃	四一、〇八	〃	阿野ニワ
〃	〃	〃	〃		一、一九四ノ二	〃	三一、一九	〃	加久藤村 岩崎泰蔵

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
西諸縣郡	眞幸町	〃	眞幸村古墳	〃	平松	一、二〇一ノチ	山林	一六、〇〇	〃	日高留吉
		〃	〃	〃	〃	一、二〇一ノハ	〃	五、二〇	〃	加久藤村瀬戸山清彦
		〃	〃	〃	〃	一、八四ノニ	〃	四一、〇八	〃	阿野ニワ
		〃	〃	〃	〃	一、二〇一ノリ	〃	一一、二〇	〃	加久藤村岩崎泰蔵
		〃	〃	〃	〃	一、二〇一ノリ	〃	一一、二〇	〃	〃
		〃	〃	〃	杉原	一、四三六イ号	畑	二九、二六	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、四三五ノニ号	山林	三九、二三	〃	瀬戸山清彦
		〃	〃	〃	平松	一、二〇一ノニ	〃	七一、〇三	〃	鹿児島県加治木町木崎新之助
		〃	〃	〃	〃	一、二〇二ノニ	〃	七一、〇三	〃	〃
	紙屋村	〃	紙屋池ノ原一里塚		池ノ原	三、八六六ノニ	原野	四、〇七		
		〃	紙屋漆野原一里塚		漆野原	五、〇三ノ九〇	〃	五、〇三		
東諸縣郡	高岡町	〃	高岡町古墳	花見	二ツ塚	二、四四六	原野	一、五	円	今吉武市
		〃	〃	〃	下ノ坊	五、六五〇	山林	一、二〇	〃	丸関蔵
		〃	〃	〃	東城連	五、五〇七	畑	一三、〇一	〃	川平鹿右衛門
		〃	木脇村古墳	塚原	西ノ免	二、二八	山林	三、〇九	円	渡辺喜市
		〃	〃	〃	〃	二、三九	〃	三、二六	〃	西坂吉太郎
		〃	〃	〃	〃	二、五四	〃	六、二八	〃	渡辺又一
		〃	〃	〃	〃	二、六二	原野	一、〇三	〃	後藤藤助
		〃	〃	〃	〃	二、五七	山林	五、一五	〃	渡辺愛助
		〃	〃	〃	〃	三一〇ノニ	畑	二一、〇九	〃	福島浅一

東諸県郡

木脇村	県	〃	〃	東原	六二四ノ一	山林	八、一〇	〃	宮田蔵吉
木脇村	〃	〃	〃	〃	六一九	〃	三、〇六	〃	渡辺又一
木脇村	〃	〃	〃	〃	六三六	〃	二、一三	〃	〃
木脇村					六三七	〃	三、〇六	〃	
木脇村	〃	〃	〃	〃	六五一ノイ号	〃	五、一五	〃	渡辺利作
木脇村	〃	〃	〃	〃	六五一ノロ号	〃	五、一六	〃	渡辺五平
木脇村	〃	〃	〃	〃	五八四	原野	一〇、一七	前方後円	三隅仁之助
木脇村	〃	〃	〃	〃	四六六	〃	、一三	円	日野ハツ
木脇村	〃	〃	岩知野	松元	一、六九〇	〃	、一六	〃	井上勝三郎
木脇村	〃	〃	〃	〃	一、六六一ノ三	〃	、一四	〃	井上勝三郎外五〇名
木脇村	〃	〃	木脇	前田	二、六二九	山林	五、二五	横穴古墳	興聖寺
木脇村	〃	〃	〃	〃	二、六二〇	〃	二、〇一	〃	重山長市
本庄町	〃	本庄ノ石仏	嵐田	小岩ノ下	八三ノ一四	〃	六、二四		松森森男
本庄町	〃	本庄町古墳	森永	福山	二、二七四ノ四	〃	四、二三	〃	鈴木徳太郎
本庄町	〃	〃	須志田	無田	三、五〇七	〃	一六、〇〇	〃	田代一夫
本庄町	〃	〃	〃	〃	三、五〇八ノ一	〃	三〇、〇〇	〃一〇	田代弁太郎
本庄町	〃	〃	〃	〃	三、五二三	原野	一一、〇〇	〃一	〃
本庄町	〃	〃	〃	〃	三、五二三	山林	四、〇〇	〃四	武田義人
本庄町	〃	〃	本庄	前原	四、二〇四	〃	一、一五	横穴	
本庄町	〃	〃	須志田	無田	三、五〇七	〃	一六、〇〇	〃	
本庄町	〃	〃	〃	〃	三、五〇八ノ一	〃	三〇、〇〇	〃一	
本庄町	〃	〃	〃	〃	三、五〇八ノ二	〃	三〇、〇〇	〃九	

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
東諸縣郡		〃	〃	〃	〃	二、五二三	原野	一、〇〇〇	〃一	
	八代村	〃	八代村古墳	八代北俣	戸角	三、六二四	畑	三、二四	円	宮永鶴芳
		〃	〃	〃	狐平	三、二四六	〃	二六、〇〇〇	前方後円	日高友一
		〃	〃	〃	戸角	三、五六六	〃	二、八	円	綾町 吉田治左衛門
		〃	〃	〃	桃木畑	三、二六三	〃	〇、九	〃	都於郡村 壱岐市袈裟
		〃	〃	〃	〃	三、二六五	〃	〇、九	〃	日高庄八
		〃	〃	〃	〃	三、二六八	〃	一、五	〃	富高畩熊
		〃	〃	〃	〃	三、二七三	〃	一、七	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	三、二七七	〃	一〇六	〃	都於郡村 杉尾袈裟吉
		〃	〃	〃	〃	三、二八〇	〃	五、二四	〃	三宅元次
		〃	〃	〃	源野	三、三五九	〃	一、〇〇	〃	〃 藤堂兼吉
		〃	〃	〃	六野原	三、三七二	〃	四、〇八	〃	本庄町 緒方周作
		〃	〃	〃	〃	三、三七二	〃	四、〇八	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	三、三七二	〃	四、〇八	〃	〃
		〃	〃	伊左生	吹上	三、一九四	〃	五五、三五	〃	〃
		〃	〃	大外	〃	三、三五九	〃	九、六	地下式	坂本重美
		〃	〃	深年	藥平	四、六七九	〃	一七、二五	円	中武喜太郎
		〃	綾町古墳	南俣	大工園	二、九〇〇ロ号	原野	一、〇〇一	円	町有 吉野仲右衛門

東諸縣郡	綾町	〃	〃	入野	四反田	四、六四二	山林	七〇、二五	円	丸岡金四郎 関山甲義
		〃	〃	〃	〃	四、六五五	〃	三一、〇三	〃	丸岡兵市
		〃	〃	〃	スミ床	四、七五八	畑	七、二四	〃	上村桝雄
兒湯郡	高鍋町	〃	高鍋町古墳	南高鍋	高岡	二、六二四	原野	一、〇六	〃	日高源次郎
		〃	〃	〃	四ツ塚	八、五三六	〃	二、〇〇	〃	新田村 柿原正一
		〃	〃	〃	〃	八、五三九ノ乙	〃	、一八	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	八、五四一	畑		〃	野口篤悦
		〃	〃	〃	前古場	一〇、〇六三	〃	、三	〃	永谷俊徳
		〃	〃	〃	〃	一〇、一一九	山林	一〇、〇八	〃	緒方宗雄
		〃	〃	〃	〃	一〇、〇七七	畑	八、三五	〃	山口半次郎
		〃	〃	〃	四ツ塚	八、五三〇ノ乙	原野	、三	〃	柿原正一
		〃	〃	〃	〃	一〇、〇七四	〃	二、一四	〃	石坂盛之助
		〃	〃	〃	上永谷	一〇、〇一六	〃	五、〇四	〃	松木嘉市
		〃	〃	蚊口浦	蚊口	六、一〇〇	山林	三六、二一	〃 三	鵜戸神社
		〃	〃	〃	〃	六、三五一	神社地	七、一六	横穴	管原神社
		〃	〃	〃	〃	五、七九三ノ乙	山林	二、三三	円	永友周一
		〃	〃	南高鍋	水谷坂平付	六、三四六ノ四	〃	一、〇九	横穴	久保田博文
	富田村	〃	富田村古墳	上富田	越馬場	八、〇三五	社地	三六、三〇	〃	主管者 長友宗年
		〃	〃	三納代	倉園	三、一八八ノ二	切替畑	二、〇六	〃	清平次郎
		〃	〃	〃	〃	三、一七九ノ一	〃	三五、一二	〃	清武雄

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
兒湯郡	富田村	〃	〃	〃	〃	三、二〇四ノ二	山林	三〇、〇〇	〃	岩村定義
		〃	〃	〃	〃	三、二〇〇ノ一	〃	一六、〇〇	〃	荒木広吉
		〃	〃	〃	〃	三、一九九ノ三	〃	一一、一一	〃	三好梓
		〃	〃	〃	南原	二、六九四	〃	二〇、一九	〃	倉永キンゲサ
		〃	〃	〃	弁指	二、五四六ノ八	〃	一、四	〃	小田部義雄
		〃	〃	〃	鐙	二、一七二ノ一	〃	三三、〇一	〃 三	三好梓
		〃	〃	〃	〃	二、一七九	〃	二七、一七	〃 二	椎捨義
		〃	〃	〃	〃	一、六二六ノ二	〃	三三、一〇	〃 一	大坪寅吉
		〃	〃	〃	日置	二、三三ノ四	〃	八七、〇七	横穴一	河野榮
		〃	〃	〃	隅ケ迫	五、四九八	〃	三、一六	円	藤原九平
		〃	〃	〃	〃	五、四九六	畑	三、一六	〃	豊島則武
		〃	〃	〃	〃	五、四九七	〃	三、一六	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	五、五〇〇	〃	三、一六	〃	吉本榮一郎
		〃	〃	〃	〃	一、六二六ノ一	〃	一五、二六	〃	岩村定義
		〃	〃	〃	〃	一、六二六ノキ号	〃	九、〇五	〃 二	清吉次郎
		〃	〃	〃	〃	一、六二六ノフ号	〃	一六、二四	〃	荒木武徳
		〃	〃	〃	〃	一、六二六ノラ号	〃	一〇、二四	〃	大坪菊次郎
		〃	〃	〃	〃	一、六二六ノタ号	〃	九、一〇	〃 四	東興助
		〃	〃	〃	〃	一、六二六ノサ号	〃	四、一五	〃	大坪寅吉
		〃	〃	〃	〃	一、六二六ノ二	〃	一三、〇〇	〃 二	井崎市次

児湯郡		〃	〃	〃	隅ヶ迫	二、三三二ノ一	原野	一七、四三五	横穴 四	井崎今朝善
	妻町	〃	妻町清水、西原古墳	清水	松崎	三六	社地	三六、〇六	前方後円	（官有）
		〃	〃	〃	〃	三六ノ一	山林	八、二五	〃	松浦種重
		〃	〃	〃	寺山	六三四	〃	二、〇二	円	清水寺
		〃	〃	〃	〃	六三四	〃	二、〇二	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	六三四	〃	二、〇二	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	六三四	〃	二、〇二	〃	〃
		〃	〃	三宅	西原	八、三三四	畑	二、〇二	〃	緒方嘉朗
		〃	〃	〃	〃	八、三五〇ノ二	〃	四、一〇	〃	緒方タケ
		〃	〃	〃	〃	八、三五〇ノイ	〃	一七、〇七	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	八、三五〇	〃	六、三	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	八、三三四	〃	六、三	〃	緒方嘉朗
		〃	〃	〃	〃	八、三三八	原野	一〇、〇八	〃	緒方勝義外八名
		〃	〃	〃	〃	八、三三六	〃	、一〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	八、三三五	畑	、一三	〃	緒方正一
		〃	〃	〃	〃	八、三三五ノ二	塚	三三、三四	〃	（官有地）
		〃	〃	〃	〃	八、三三〇	〃	、〇七	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	八、三三三	〃	、一三	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	八、三三四	畑	、一〇	〃	緒方嘉朗
		〃	〃	〃	〃	八、三三五	塚	一〇、〇八	〃	（官有地）
		〃	〃	〃	〃	八、三〇八	〃	、一〇	〃	〃

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
兒湯郡	妻町	〃	〃	〃	〃	八、三二三	〃	一、一〇	円	緒方惟義
		〃	〃	〃	〃	八、三二七	〃	〇、〇七	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	八、三三三	畑	五、二〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	八、三二五ノ二	塚	一、〇三	〃	官有地
		〃	〃	〃	〃	八、三三一	畑	八、〇五	〃	緒方タケ
	都於郡村	〃	都於郡村古墳	荒武	土橋	三六七ノ乙	芝地	三、〇一	円	児玉宗清
〃	〃	〃	三財村古墳	加勢	森木	五、一九〇	山林	〇、〇四	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	五、一九一	〃	一、〇三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	五、一九二ノ三	〃	一、一三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	五、一九四ノ一	〃	二、二六	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	五、一九四ノ二	〃	〇、〇九	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	尾能	五、二二	〃	二、一四	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	五、二四七	宅地	四六一坪	〃	長友定市
〃	〃	〃	〃	下三財	亀塚屋敷	二、六二一 二、六二三	原野	三、〇五 六、一七	前方後円	長友伊太郎
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、六一五	宅地	六五一坪	〃	長友定市
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、四五三ノ二	山林	三、〇〇	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、四五三ノ三	〃	三、一三	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、四五三ノ四	〃	八四、〇三	柄鏡式	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	二、四五三ノ一	鍛	五〇、〇〇	前方後円	松澤竹馬

兒湯郡	三財村	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	亀塚	三、四一五	山林	、一四	〃	長友敬治
〃	〃	〃	〃	〃	〃	三、四五一	〃	三、二四	〃	長友年明
〃	〃	〃	〃	〃	〃	三、四四三	荒蕪地	九三、二七	〃三	三財村
〃	〃	〃	〃	〃	亀塚屋敷	三、四五六	山林	八、二五	円	長友ヨシヱ
〃	〃	〃	〃	〃	月中	三、三〇四	〃	一九、一八	〃二	三財村
〃	〃	〃	〃	〃	〃	三、二九七	〃	一六八、〇〇	〃四	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	三、三〇三	〃	三三、一四	〃三	横飛為吉外一名
〃	〃	〃	〃	〃	〃	三、三〇三	〃	七、〇一	〃五	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	三、三〇一	〃	五、二六	〃	野田啾次郎外八名
〃	〃	〃	〃	〃	〃	三、二九八	〃	九、一三	〃二	井上源作外三名
〃	〃	〃	〃	〃	宮迫	三、四七六	〃	一、〇五	前方後円	長友年明
〃	〃	〃	〃	〃	〃	三、四八八	〃	二、一三	円	福岡県倉石村 石井宗逸
〃	〃	〃	〃	〃	下原	七、八三九	〃	一〇三、〇六	〃四	三財村
〃	〃	〃	〃	〃	外園	一、七五三	畑	九、二九	〃	齊藤ミツノ
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、七五二	〃	九、〇五	〃	高橋辰吉
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、七五四	〃	一〇、一〇	〃	井上勝利
〃	〃	〃	〃	〃	〃	七、七二八ノイ	山林	一、〇〇	〃	野田他人
〃	〃	〃	〃	〃	中別府	一、八五四	〃	二、〇一	〃	宮田熊太
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、八七三	畑	五、二三	〃	齊藤千代太郎
〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、八五八	〃	七、〇一	〃	河野平助

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
兒湯郡	三財村	〃	〃	〃	〃	一、八五二	〃	四、二八	〃	原田文袈裟
		〃	〃	〃	〃	一、八五五	〃	三、一四	〃	妻町松田哲夫
		〃	〃	〃	〃	一、八五六	〃	七、〇七	〃二	宮田熊太
		〃	〃	〃	〃	一、八六三	〃	五、〇三	〃	高・橋辰吉
		〃	〃	〃	〃	一、八六五	〃	五、一九	〃二	畑崎三四藏
		〃	〃	〃	〃	一、八六九	〃	五、一五	〃	長田源藏
		〃	〃	〃	〃	一、七九七ノ外	〃	一九、一四	〃二	河野清助
		〃	〃	〃	〃	一、八四九	〃	一、〇六	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	七、八三一	〃	三、三	方	弓削定憲
		〃	〃	上三財	常心原	五、七四六	山林	三、一一	円	江藤政義
		〃	〃	〃	金倉上	五、七五八ノ一四	〃	一七、一四	〃	中村赳
		〃	〃	〃	大高野	四、八一三	〃	九、一七	横穴古墳	押川義基
		〃	〃	〃	上高野	五、三四九ノロ	〃	六、一三	〃二	吉野源次郎
		〃	〃	〃	〃	五、三九五	〃	九、一三	〃	佐藤京藏
	三納村	〃	三納村古墳	平郡	宮尾	八一五	社地	二〇〇、二三	円	官有地
		〃	〃	三納	松本	四六ノ四	宅地	五、一〇〇	〃	伊藤金藏
		〃	〃	〃	永野大原	一、八七一	原野	一、〇九	〃	甲斐良次
		〃	〃	〃	〃	一、八九九	〃	四、二八	〃二	齊藤光雄
		〃	〃	〃	〃	一、八九一	〃	一、〇六	〃	甲斐良次
		〃	〃	〃	〃	一、八五一	山林	一、〇六	〃	黒木甚藏

兒湯郡	三納村	〃	〃	三納	〃	一、八六九ノ乙	原野	一、一五	円	甲斐良次
		〃	〃	〃	〃	一、八五七	〃	一、一七	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、八六〇	畑	三、一四	〃	小田切徳雄
		〃	〃	〃	〃	一八六〇ノ乙	原野	、〇五	〃	甲斐良次
		〃	〃	〃	〃	一、八七三ノ乙	〃	、〇五	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、八九六ノ乙	〃	、〇四	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、八六二	畑	七、〇八	〃	浜渦初太郎
		〃	〃	〃	〃	一、八六三	〃	一五、一三	〃	横山代 一部農林省分に入る
		〃	〃	〃	〃	一、八七六	〃	九、〇一	〃	安藤実
		〃	〃	〃	〃	一、八七七	〃	七、〇五	〃	小田切美好
		〃	〃	〃	〃	一、八九七	〃	二、一七	〃	光井重春
		〃	〃	〃	松本	三六	原野	三六、三九	前方後円	甲斐利行
		〃	〃	〃	田中	一、一三六ノ一	〃	三、〇六	〃	三納村耕地整理組合
		〃	〃	〃	〃	一、一二五ノ一	〃	三、〇九	圓	〃
		〃	〃	〃	〃	一、〇八一ノ一	〃	、〇八	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	六〇二ノ一 六〇一	〃	、一三	〃	竹崎謙一
		〃	〃	〃	〃	一、一三三ノ一	〃	、〇九	〃	三納村耕地整理組合
		〃	〃	〃	〃	一、一三八ノ一	〃	、〇七	〃	〃
		〃	〃	〃	境田	五、〇六〇ノ乙	墓地	一、一七	〃	蔦野方限
		〃	〃	〃	清田	一、一三八ノロ	神地	、〇六	前方後円	永野方根
		〃	〃	〃	羽子田	八〇七	原野	一、〇六	円	日高新一

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
兒湯郡	三納村	〃	三納村古墳	〃	蘆町	三一四	宅地	三九坪	〃	押川彌吉
		〃	〃	〃	永野大原	一八四五	原野	二、一〇	〃	黒木秀雄
		〃	〃	〃	宮田	二〇五六	山林	五、一五	前方後円	齊藤光雄
		〃	〃	平郡	井上	一、一六二 一、一七三	畑	二、〇三	円	安藤賊次郎
		〃	〃	〃	〃	一、一二一	宅地	一四坪	〃	兒玉誠二
		〃	〃	〃	田中	一、二七九	山林	七、〇七	〃	富田安夫
		〃	〃	〃	〃	一、二四六	〃	〇、二九	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、二七七	〃	九、二	〃	農林省
		〃	〃	〃	〃	一、二七八	〃	二、二八	〃	河野常賊
		〃	〃	〃	〃	一、二七九	〃	八、二八	円三	横山優
		〃	〃	〃	〃	一、二七〇	宅地	四一五坪	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、二八〇	〃	〇、二五	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一、二八六	〃	三、〇九	〃	貴島伊太郎
		〃	〃	〃	〃	一、二九〇	〃	六、〇七	〃	横山ユキ
		〃	〃	〃	〃	一、七八八	〃	一、二	〃	菅敏子
		〃	〃	〃	〃	一、二八九	〃	四、〇四	〃	河野常賊
		〃	〃	〃	〃	一、二九二	山林	二、一八	〃	小和田種千代 外七名
		〃	〃	〃	〃	一、三三六	墓地	七、二六	〃	物代橋口甚左衛門
		〃	〃	〃	〃	一、三三〇	山林	〇、二五	〃	吉野與兵衛
		〃	〃	〃	〃	一、三五三ノ二	宅地	三、一〇	〃	妻町兒玉恭平

郡	湯	兒																							
		西米良村	三納村																						
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	上穂北古墳	西米良古墳	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
南方	穂北	村所	三納	三納	〃	〃	平郡	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
高付	大木原	狭上	上九流水		鴨山	〃	田中	上九水流	吹山國	鴨山	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	一、九四四ノ乙	五三ノ八	九七九ノ一号	吹山國有林第二九小班水第二林班水	五、五八三ノ二	一、二五三ノ二	一、三三〇ノ	九、七九三ノ一号	有林第二九班	五、五八三ノ一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	山林	宅地	〃	〃	山林	宅地	山林	山林	林班水小	山林	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	三、〇〇〇円	二八坪	五、〇〇〇	横穴四	八、二七〇	三、一〇〇	二、五〇〇	五、〇〇〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃		〃	横穴二																					
共有地	杉田正	中武亮介	吉野傳次	國有地	村有	妻町児玉恭平	吉野與兵衛	吉野傳次	國有地	村有	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
共有地全人	共有地松浦民蔵	松浦常蔵	池田政雄	黒木勇	図師寿平	杉田理吉	共有地図師市五郎	奥峰蔵	杉田正	共有地渡辺末晴															

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
兒湯郡	木城村	〃	木城村古墳	椎木	火除牟田	三〇九七	山林	四〇三	横穴三	官有地
		〃	〃	〃	〃	三〇八七	〃	三〇九	〃	〃
		〃	〃	〃	穴岩口	三一三二	〃	三四七〇九	〃三	財津長友敬亀一男
		〃	〃	〃	大戸亀	一一七三	切替畑	三九一二	円二	重永藤男
		〃	〃	〃	〃	一一七六	〃	四一九	〃	壱岐力
		〃	〃	〃	〃	一一七五ノイ	原野	一八〇三	〃	富岡安平
		〃	〃	〃	〃	一一九四	切替畑	一八〇九	〃二	丸田刃男
		〃	〃	川原	百合野	一一五五ノ六	山林	一六〇〇	〃	農林省
		〃	〃	〃	〃	一一六五ノ四	〃	三一〇〇	前方後円	〃
		〃	〃	椎木	北中原	一一八ノ一	切替畑	五九〇〇	円	富岡勝繁
		〃	〃	〃	陣ノ内	一三	並木敷	二七一七	前方後円	官有地
		〃	〃	〃	〃	一六	切替畑	四九一一	円二	津江速
		〃	〃	〃	新小場	五四九	山林	八八〇〇	〃一	桂源次郎
		〃	〃	〃	〃	五四〇	切替畑	四九〇八	〃	日高猪之
		〃	〃	高城	岸立	四三一ノ四	原野	六〇〇四	横穴	西仙蔵
		〃	〃	〃	〃	四三〇一ノ一〇	〃	七三〇〇	〃二	西春雄
		〃	〃	〃	山塚原	四八三〇	山林	五一五	円八	官有地
		〃	〃	〃	〃	四八三	〃	一〇〇	〃	農林省
		〃	〃	〃	〃	四八二四	畑	二五一七	〃二	永澤今朝水
		〃	〃	〃	〃	四八三	〃	一三〇〇	〃三	河野キクノ

兒湯郡	木城村	〃	〃	〃	〃	四、七八三ノ二	山林	六〇、〇〇	〃	林秋見
		〃	〃	〃	〃	四、七九九	畑	一五、〇六	〃	金澤トメ
		〃	〃	〃	〃	四、七九六	切替畑	一六、〇六	〃	金澤彦太郎
		〃	〃	〃	〃	四、七九三 四、七八三ノ三	山林	六〇、〇〇	〃	林秋見
		〃	〃	〃	〃	四、八二五	畑	一九、〇一	〃	永澤今朝水
		〃	〃	〃	〃	四、七九八	〃	一三、〇九	〃	平林次郎八
		〃	〃	〃	〃	四、八〇六	〃	二〇、〇五	〃	河野キクノ
	川南村	〃	川南村古墳	川南	上原北方	七、〇六〇ノ一	〃	三〇、一四	前方後円	寺原ハツ 発掘し畑
		〃	〃	〃	〃	七、〇六〇ノ二	山林	四、一五	円	仝人 発掘し畑に
		〃	〃	〃	〃	七、〇五七ノ一	切替畑	一一、三三	〃	河野菊衛 不発掘
		〃	〃	〃	北原	一四、五〇三ノ一	畑	三八、二四	〃	市木原仁次郎 標石のみ残る
		〃	〃	〃	〃	一四、四八二ノイ	〃	三五、三三	〃	長友福義 発掘の形跡あり
		〃	〃	〃	〃	一四、四八二ノロ	〃	九九、一八	円 二	石井積造 大発掘の形跡あり小原形を止めず
		〃	〃	〃	〃	一四、四七六	〃	三六、〇二	〃 二	仝人 二個墳とも発掘の形跡あり
		〃	〃	〃	〃	一四、四七四ノ一	〃	一一、三五	〃	仝人 不発掘
		〃	〃	〃	〃	一四、四七四ノ二	仝	一七、三三	〃 二	仝人、一ケ不発掘一ケ原状に復する様に注意
		〃	〃	〃	平田	一四、六〇四ノ二	山林	六五、〇九	〃	長友與吉 長友與助 不発掘
		〃	〃	〃	年森	一二、一六三	〃	、一三	〃	矢野義任 不発掘
	都農町	〃	都農町古墳	川北	下黒萩	一五、九七四	田	八、一二	〃	新名重助
		〃	〃	〃	〃	一五、九七五ノ一	〃	二〇、二五	〃	〃

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
兒湯郡	都農町	県	〃	〃	尾ノ鼻下	一三、八四六	山林	二、〇六	〃二	吉川武吉
		〃	〃	〃	〃	一三、八三八	原野	三、〇九	〃	河野貞次郎
		〃	〃	〃	〃	一三、八三〇	山林	八、二二	〃	官有地
		〃	〃	〃	〃	一三、八二九	〃	四、〇一	〃四	黒木伊一
		〃	〃	〃	〃	一三、八二八	切替畑	四、〇一	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	一三、八一九	山林	三、〇一	〃二	黒木利八
		〃	〃	〃	〃	一三、九三八	〃	一、一六	〃	長友睦次郎
		〃	〃	〃	原田	四、二一〇	畑	四、二九	前方後円	黒木榮太郎
		〃	〃	〃	〃	四、二一三	山林	一五四、一一	円二	官有地
		〃	〃	〃	明田	四、三六七	畑	八、一三	〃	長友睦次郎
		〃	〃	〃	福原尾	三、七四〇ノ一 三、七三七	山林	一、八一三 二、〇五	〃	高知県中村町山泉重利
		〃	〃	〃	池田	三、三四六	〃	六六、一一五	〃三	官有地
東臼杵郡	美々津町	〃	〃	高松	高松	一、二一〇ノ一	〃	二、一〇	円	
		〃	〃	〃	霧島原	一、一四五	学校敷地	九、一〇	〃	
		〃	〃	〃	房之下	三、八九九	畑	八、二三	〃	
		〃	〃	〃	〃	三、八九五	〃	五、二四	〃	
	門川町	〃	〃	門川尾末	コモダ	一、五七二	山	三、〇〇	横穴	岩切谷五郎
		〃	〃	〃	下納屋	八、九〇〇	籔	一、〇〇	円二	赤澤伊太郎
		〃	〃	〃	古城	二、六一四	山林	二、〇六	横穴	山倉又吉

東臼杵郡									西臼郡杵			
東郷村	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
東郷村古墳	〃	〃	〃	南郷村古墳	〃	〃	〃	〃	南浦村古墳	高千穂町古墳	〃	〃
山陰	〃	〃	〃	神門	〃	〃	〃	〃	熊野江	三田井	〃	〃
小野田	六地蔵	日田尾	下名水	小路	辻	壱丁鐘	曾木	〃	外浜	御塩井	上原	栃股
九六六	四ノ一	三、三一五ノ一	三、九一三	六九ノ一	一、四六四	子二、二二〇	子一、一二九ノ一	子一、二〇四ノ乙ノ二	二、四五三	一、〇〇五	六、四八六	八、九三九
社敷地	山林	〃	籔	〃	原野	山林	〃	畑	山林	墓地	〃	宅地
一三、〇二	一、〇二	二、一五	、一五	一六五、〇〇	四〇、〇〇	、二二 実二、一〇	一三、〇五	二、二一	一七、一一	七、二一	七、〇八	一、一五
円	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	箱式石棺式六	円	〃	横穴
官有地	成願寺	高尾今朝次郎	神門神社	〃	菊田儀十郎外一九名	佐藤豊四郎	甲斐豊四郎	柴田利三郎		高千穂町	藤原浅吉	興梠太右衛門
												佐藤誠

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
西臼杵郡		〃	高千穂古墳	三田井	寺迫	一、一五八／一、一五九	山林	三、〇六／三、〇九	円	阿部融尊／戸高菊太
		〃	〃	〃	宮ノ前	一、六〇八／一、六一一	原野	一、一九／四、一七	〃	興梠源七／花田今朝太郎
		〃	〃	〃	塩市	一、七七二	山林	二、一四	横穴	興梠維治
		〃	〃	〃	栗毛	一、七七四	〃	〇、三二	〃	興梠卯一郎
		〃	〃	〃	〃	一、三八六	墓地	四、〇一	円	〃
		〃	〃	〃	〃	一、四三三	〃	一、〇一	〃	興梠君善
		〃	〃	〃	吾平	三、一四〇／三、一四二	原野	一、〇五／三、〇八	〃	高千穂町
	高千穂町	〃	〃	〃	〃	三、一六六ノ二／三、一七〇ノ一	畑	五、〇〇／五、一〇	前方後円	
		〃	〃	〃	〃	三、一七〇ノ二／三、一七八	山林	一、一五／一、一四	〃	
		〃	〃	〃	〃	三、一九ノ四／三、一九ノ二	原野	一、一八／四、〇〇	〃	
		〃	〃	〃	〃	三、一二五	畑	二、一〇	〃	
		〃	〃	〃	〃	三、一八二乙	〃	一五	〃	甲斐平蔵
		〃	〃	〃	〃	三、一七八ノ丙	墓地	一、一四	横穴	甲斐マツエ
		〃	〃	〃	長崎	六、三四二	〃	九、一九	〃	川谷門總代／興梠成吉
		〃	〃	〃	池ノ川	二、七三四	山林	八、二八	円	佐藤ミサ
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	八、二八	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	八、二八	横穴	〃

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	県
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	高千穂町古墳
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三井田
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	吾平原	〃	成木	〃	〃	池ノ川
四五ノ二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四四ノ一	四四	四六	四五ノ二	五〇九ノ一	〃	五〇六	三八	三九	二、六二	二、五八二	二、五八二	〃	〃	二、七〇二
畑	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	原野	宅地	山林	道路	畑	〃	山林	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	畑
三、一六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三、〇〇	九、三	四、〇〇	一五	三五、二	〃	三、〇〇	二、二八	六、〇六	一〇、〇一	一〇、〇一	〃	〃	〃	三、〇四
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	横穴
田尻平一郎	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	佐藤勢喜	興梠重友	藤本正雄	宮野市蔵	宮本定市	〃	甲斐武志	永野利八郎	馬原金蔵	〃	甲斐市作	〃	〃	〃	後藤傳蔵

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
西臼杵郡		〃	〃	〃	〃	四三六	山林	四二、〇七	〃	藤本正雄
		〃	〃	〃	〃	四五八ノ一	畑	九、〇〇	〃	甲斐嘉太郎
		〃	〃	〃	〃	四五八ノ一	〃	九、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	四五八ノ一	〃	九、〇〇	〃	〃
		〃	〃	〃	尾迫原	一三五 一三六 一三七 一五一 一五二	山林 〃 〃 〃 〃	五二、一八	前方後円	興梠菊四郎 外四名
		〃	〃	〃	車迫	二六四	原野	一〇、二四	横穴	〃
		〃	〃	〃	〃	二六四	〃	一〇、二四	〃	〃
	高千穂町	〃	〃	〃	尾谷	四、七三一	墓地	六、二八	円址	三田井川登門惣代 工藤亀四郎
		〃	〃	押方	辻	七六八	畑	五、一六	横穴	後藤恒夫
		〃	〃	〃	〃	七六二	〃	五、一六	〃	〃
		〃	〃	〃	北平	一、〇二一	〃	一〇、一七	〃	押方清四郎
		〃	〃	〃	南平	一、二九四	〃	二六	〃	奈良茂吉
		〃	〃	〃	〃	一、二九四	〃	二六	〃	〃
		〃	〃	向山	大久保	一、二一五	〃	一三、一七	〃	甲斐利平
		〃	〃	三田井	陳内	四、五八四	山林	八、〇三	円	田崎榮 此の森を「イズルハ」の森と称し数十年前鏡二ケを掘り出したと云う
		〃	〃	〃	尾谷	四、七二一	畑	五、二六	横穴	工藤操臣 全壊原形を止めず内則朱塗との由

西臼杵郡	高千穂町	〃	〃	〃	桑水流	一、八四一	田	九、三	〃	佐藤安雄 十数年前開田にて掘りあてたもの刀剣一振出たと云うの内側朱塗との由
		〃	〃	押方	芝原	三、三六四	墓地	四、一六	円	甲斐久彌 南朝の忠道柴原又三郎の墓と云う
		〃	〃	〃	芝原園	三、四三五	〃	八、〇〇	〃	興梠太郎治 柴原又三郎に仕えた柴原三河等の墓と云う
		〃	〃	〃	宮之原	九〇七ノ一	宅地	九二	横穴	佐藤正則 昭和二三年宅地として田くずしの時掘りあて出人骨玉数内側朱塗だつたとの由
		〃	〃	向山	水ケ崎	三、七三三ノ二	畑	三、一五	円	馬崎才助 三田井親武の家臣甲斐宗雲の墓と云う
		〃	〃	〃	小数	六、七九〇イ号	山林	一七、一八	〃	飯干紋次郎 飯干仁一郎 里人「トヤ塚」と云う
		〃	〃	〃	鞍掛	三五九ノ三	〃	三三	〃	飯干定策 高千穂太郎政次の墳墓なりと云ふ
	上野村	〃	上野村古墳	上野	尾崎平	二、四七四	原野	二、三	円	
		〃	〃	〃	戸口平	二、四〇一ノ八	〃	三	横穴二	
		〃	〃	〃	二龍野	二、一五七ノ乙	山林	一、一三	〃	
		〃	〃	〃	鵜渡源平	七三四	原野	二、二六三	〃	
		〃	〃	〃	柚木野	八六三	宅地	二四一坪	〃	

郡市	町村	指定	名称	大字	字	地番	地目	地籍	種類	所有者
西臼杵郡	上野村	県	上野村古墳	上野	柚木野	八六一ノ一ノイ	原野	一、一八	横穴二	
		〃	〃	〃	〃	一、〇一八	〃	三六、一一	円	
		〃	〃	〃	町ノ平	二〇九	畑	一〇、一〇	横穴	
		〃	〃	〃	〃	一九二	〃	二二、一八	〃	
		〃	〃	〃	神ノ水平	三、二三六	原野	五、二六	〃	
		〃	〃	下野	尼ケ淵	五二三	墓地	一〇坪	円	
		〃	〃	〃	〃	五二三	原野	一、一〇	横穴	
		〃	〃	〃	〃	四六ノイ	宅地	二三〇坪	〃	
		〃	〃	〃	〃	四八五	原野	四、二三	円	
		〃	〃	〃	〃	五〇〇ノ乙	山林	一〇九	〃	
		〃	〃	〃	中津平	五二四	原野	二、二八	横穴	
		〃	〃	〃	廻ケ平	一、一八〇	山林	四二一	円	
杵郡	岩戸村	〃	岩戸村古墳	岩戸	向久保	五四〇	畑	六、二八	横穴	甲斐農
		〃	〃	〃	岩神上	六、三三五	〃	一四、〇七	〃	岩戸村
		〃	〃	〃	立石	七五八九ノ一	宅地	三二、五五坪	〃	木下長松
		〃	〃	〃	德法師	四、九五一ノイ号	原野	六、〇〇	〃	馬原福太郎
		〃	〃	〃	仲ノ谷	九、〇三九ノ二	〃	二、〇〇	〃	渡辺靖
		〃	〃	〃	諸和久	三、六一〇	畑	一三、〇八	円	尾形常五郎
日ノ影町	七折村古墳	〃			鳥越	六、三六〇	山林	一、〇二	円	大外一高九市村

西臼杵郡	日ノ影町	〃	〃		〃	六、三六三	畑	二、一四	横穴 三	山光亀太郎
		〃	〃		辻	六、三八三	〃	一、一二	〃 三	池田富一郎
		〃	〃		〃	六、四六六	〃	七、二九	〃 二	菊池小太郎
		〃	〃		平清水	八、三一九	〃	三、〇五	〃 三	菊池大太郎
	三ヶ所村	〃	三ヶ所村古墳	三ヶ所	鳥巣	八、三四一	原野	一、一五	前方後円	興梠・新一郎
		〃	〃	桑内	小半角	二、六〇〇ノイ 二、六〇〇ノロ	墓地	二、一三	〃	官有地
		〃	〃	三ヶ所	平田	九、三七八ノ一 九、三九九ノ一	原野	九、二九 一九、二九	〃	村有地 和田博行
	田原村	〃	田原村古墳	河内	小河内	九七一ノ一	山林	三七、三九	積石塚	田原村
		〃	〃	〃	栃屋	一、八五一ノイ	〃	三〇、〇二	横穴	興梠徳助
		〃	〃	〃	佐土原	五六一ノ一	〃	三六	円	河内富士三郎
		〃	〃	〃	奥鶴	六六八ノ一	畑	三、二七	古円	井澤宗太郎
		〃	〃	〃	丸山	七三五	原野	七〇、一〇	石	田上正男
		〃	〃	五ヶ所	宮野尾	一、六五七	山林	一、〇五	〃積露出横	田上音蔵
		〃	〃	〃	〃	一、五九九	畑	九、〇二	〃	佐藤市蔵
		〃	〃	〃	笹原	一、九一七ノ一	山林	一三、〇〇	〃	高木ミサオ
		〃	〃	田原	南平	一、五四二ノ一	〃	一〇、〇〇	横穴 二	首藤豊馬
		〃	〃	〃	井貫迫	一、六六八	原野	一四、〇九	〃 六	興梠源雪
		〃	〃	〃	染野平	一、九七一ノ一	〃	一七、〇三	〃	安在覚
		〃	〃	〃	〃	一、九六六ノロ	畑	三三、〇六	横穴 二	内倉進
		〃	〃	〃	〃	一、七七九ノ八	〃	三、〇〇	〃	佐藤則邦
		〃	〃	〃	南大平	一、五七八ノ三	原野	五、〇〇	〃	佐藤八十八
		〃	〃	〃	上西平	一七六	宅地	一五三坪	〃 三	竹次右四郎

後

文

第一次古墳調査の意義

昭和二十六年七月宮崎縣教育廳社會教育課長日高幸男氏が上京して縣の文化財調査會が主体となり、一貫した組織と方針とを以て三年間の計画で古墳の發掘調査を實行したいので、この指導助言についての依頼があつた。この發掘調査の對象に予定されている古墳の中には史跡に指定されている古墳も含まれていたので、文化財保護委員會においては、愼重に考慮し、むしろ現段階においては古墳の發掘調査よりは、縣下に所在する古墳について、市町村・學校關係者の協力の下に基本台帳の整備を行うことの要務であることを强調した。同課長は歸廳後、縣の文化財調査會に諮つた結果、この趣旨に沿うようになつたことは、同縣における文化財の調査と保存とのために慶賀に堪えないところである。しかしながら、縣下における諸般の事情は、昭和二十六年度において一二の古墳の發掘調査をも併せ行うことも必要とされる機運にあり、同調査會においては宮崎市の西北郊に存し、かねてから調査の對象となつていた下北方町下北方古墳を選定し、文化財保護委員會に發掘屆出が提出され八月二十八日から十日間の予定で調査を行うことになつた。私は同縣教育廳からの依頼によつて同地に出張し、鏡山猛氏及び縣文化財調査員日高重孝・瀬之口傳九郎・前田厚・石川恒太郎・吉野忠行諸氏と協力して出來得る限り組織的な調査を円滑に行うことに微力を致すと共に、古墳の基本的調査の實現をはかるために助言をなし、西都原古墳群・本庄古墳群・生目古墳群等の指定史跡の現狀を視察し、この地元に對しても基本的調査への胎動を促進するように努めた。幸にも宮崎縣民の熱意は早くもこゝに第一年度における調査報告書として、下北方古墳の調査報告、並に基本的調査の一として、日向古墳台帳が、附錄としての部分が公刊されることに至

つたことは欣幸とするところである。

今回調査の對象となつた下北方古墳をいだく地帶は、宮崎市の西北郊にあたり所謂平和台と稱せられている台陵で市民散策の好適の地なのである。この地に古墳が存していることは古くから知られているが、「平和塔」の建立の際にも新たに發見されたこともあり、人々の間にかねてから注視されていたものであつた。今回この最初の調査の對象となつたことも必ずしも偶然はないのである。殊に第一號墳は丘陵の突端に營まれた前方後円墳である。事實なだらかな丘陵をのぼつて「平和塔」に達し、更にその奥に足を運ぶとき、直ちに高盛りをなす前方部に達し、その西方に後円部の偉容を望むことができるのであり、きわめて宏壯な外觀を示している。この古墳について調査の結果を要約するに、地質的な調査によつて被覆土はきわめて薄く、自然の丘陵地形を巧みに利用した墳丘であることが確認されたが、更に後円部の發掘の結果、内部に堅牢でない礫石の敷設があり紹聖元寶が介入していた事實をたしかめ得たのである。このことは、地勢上風雨による侵蝕作用が甚だしく加えられており、現に後円部の上頂部もかなり廣く平らかになつている事實や、第三號墳においても幸うじて上頂部すれすれのところに礫槨の殘存部が痕跡をとどめていたに過ぎない事實と相俟つて内部の構造主体は既に遠い過去の時代に消失し、中世において新たに何等かの構築を營むために礫石による特殊な裝置が設けられたものであることを示している。前方部の中央部も同じく僅か六立糎で地山に達しており、この間に古墳に伴う特殊な遺構は見られなかつた。隨つて内部構造の中核の探求は三日間にして終止符をうつたのであるが、傾斜面に葺石の存在が認められ、殊に象形埴輪円筒埴輪が顯現されて日向地方の古墳においてこの種の埴輪の伴う新資料を提出することができたことは幸であつた。第二號墳はこの古墳に近接している小円墳であるが、内部構造主体は同じく既に失われ埴輪のみの檢出があつたに過ぎなかつた。この二つの古墳は、たとえ大いさに格段の相違があるとしても、埴輪

の上から見ればほゞ同一時期の築造によるものとみなされる。從來壯大な前方後円墳に近接して小円墳が存する場合、この種の小円墳を以て眞ちに陪塚とされ勝ちである。しかしながら外觀のみでこのように斷定することは危險であり、發掘の結果愼重にこれを考慮する必要があるが、たまたまこの二例は内部構造主体が明かにされないとしても同一時期の併存とみなされる以上、或は主墳と陪陵との關係に近い性質のものとすることに蓋然性があるように看取されるに至つた。しかるに、第三號墳はこの山麓にあたつて存し封土に淺く一種の礫槨の存在が認められ、しかも埴輪は存在しなかつた。第一號墳・第二號墳に比し時間的に後行するものとすることも一つの見解であろうが、この問題を別にしても、とにかくこの地方における内部構造主体の一例に礫槨の確認できたことは一つの意義をもたらしたものということができる。要するに卒直にいつて、今次の古墳の發掘調査は、既に中核が失われ又は殘骸のみとどめているものを對象としたものであり、内部構造の究明や遺物の檢出等においてはなばなしい成果を求めることはできなかつた。しかしながら如上の諸問題の上にもいくつかの資料が提出されたものであり、このような地味な調査を重ねることによつて、やがて日向地方の古墳文化が一段と解明されることに期待がいだかれるのである。しかもかゝる調査と併行して基本的な調査が試みられたことは欣幸とするところである。

しかしやがてこれらが契機となつて第二次・第三次調査においてこの全般がまとめられ、主要古墳の封土の實測圖・分布圖等の基本的な資料と共に公表されるならば、日向の古墳文化の研究の上に確固たる基礎が築かれ、斯學を稗益するところも少くないものと考えられるのであり、今次の基本的調査の意義もこれによつて結實するものといわなければならない。

思うに、宮崎縣は古墳の組織ある調査については、考古學史上かがやかしい足跡を印してきた。大正初頭における西

都原古墳群の發掘調査は、わが國の古墳の調査の沿革の上から見ても特記すべきものであるが、この後も梅原末治博士等によつて學究的な開拓がなされ、又古文化研究所よつて西都原古墳群に關する貴重な資料も公刊された。今日、古文化究明の機運が勃然としておこりつゝあるとき、宮崎縣においてこの管下に有する豊富な古墳に對してなすべき當面のことは新たな發掘事業よりはむしろ既往に得られた成果の整理的な事柄と今日現存する古墳に對する基礎的な仕事とこれに對する保存の對策であろう市町村・學校關係の職員の方々や關心をもつ一般の方々の協力によつてこの郷土における古墳の現狀を調べ、分布圖・實測圖を整理し必要事項を記載して一貫した系譜を作成することが必要である。これこそ先學の光輝ある業績に酬いる途であると共に將來日向古文化の眞の姿相を把握する上に不朽の基礎となるものである。第二次第三次の調査においてかゝる基本的な調査が更に活潑になり、結實することを念願してやまない。（齋藤　忠）

昭和二十七年三月一日　印刷兼発行

【非　賣　品】

発行所　宮崎縣教育委員会

印刷所　合資会社　小柳印刷所
宮崎市旭通三丁目
電話〔二二五五五八番〕